2021年度

助成事業報告集

Kiguchi Foundation

公益財団法人 木口福祉財団

もくじ

● ２０２１年度助成事業の概要 ・・・・・・・・・・ Ｐ２

1.助成事業の趣旨

2.助成内容

3.助成予定額

4.公募

5.助成対象の選考

6.選考結果の通知および助成金の交付

7.対象事業の完了報告

● ２０２１年度助成対象事業一覧 ・・・・・・・・ Ｐ４

● 選考委員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ＰＩ４３

２０２１年度助成事業の概要

１．助成事業の趣旨

公益財団法人木口福祉財団は、福祉活動やボランティア活動等の事業に対する助成を通じ、市民参加型福祉の促進と地域振興をはかり、障がい者等の社会的に弱い立場におかれている方々にやさしい、明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的としています。

２．助成内容

地域福祉振興助成

地域福祉振興助成は、障がい者等を支援する福祉活動やボランティア活動に対する助成を通じてやさしく住みやすい地域社会の創造に資する事を目的とします

（１）対象団体

障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動及びボランティア活動に取り組む団体・グループ

（２）対象事業

■講演会・講習会・イベントの開催費用
■広報、調査、研究、出版の費用
■器具、備品、車両などの物品購入費用
■工事費
■新規事業の活動運営費用

３．助成予定額

年間の助成金総額　　45,000,000円

４．公募

（１）公募案内

助成金公募の案内は、事前に当財団のホームページ、社会福祉協議会の機関誌、その他関係団体の機関誌などを通じて実施し、WEBで公募の受付をしました。

（２）公募期間

2021年2月1日から3月15日まで

（３）応募件数

139件

５．助成対象の選考

（１）一次選考

すべての申込案件について、4名の選考委員が書類選考を実施しました。
一次選考による結果　101件

（２）聞取り調査の実施

一次選考を通過した101件について、6月から7月にかけて聞取り調査を実施しました。

（３）最終選考

2021年度の助成対象団体は、選考の結果下記の通り決定しました。

助成件数と助成総額
78件　　54,430,000円

６．選考結果の通知および助成金の交付

（１）選考結果の通知

すべての申込案件について、選考の結果を書面で通知しました。

（２）助成金の交付

各団体と「助成金交付に関する確認書」を交わし、振込みで交付しました。

７．対象事業の完了報告

助成対象事業の完了後、各団体より所定の書式で事業完了報告の提出を受けました。

２０２１年度　助成対象事業一覧

地域福祉振興助成　講演会・講習会・イベント

（京都府）
P8　認定特定非営利活動法人京都DARC
（兵庫県）
P10　特定非営利活動法人ガジュマルの船
P13　きらくに歌おう会

地域福祉振興助成　広報・調査・研究・出版

（東京都）
P14　18トリソミーの会
（大阪府）
P16　特定非営利活動法人さをりひろば
P18　MECP2重複症候群患者家族会

地域福祉振興助成　物品購入

（岩手県）
P20　特定非営利活動法人NOWBELBE
（宮城県）
P21　特定非営利活動法人ワンダーアート
（山形県）
P23　特定非営利活動法人そら
P25　特定非営利活動法人ゆにぷろ
（福島県）
P27　特定非営利活動法人クローバー福祉会
（神奈川県）
P29　特定非営利活動法人はだのあすなろ会
（福井県）
P31　一般社団法人ふれんず
（静岡県）
P33　特定非営利活動法人わ•く•ら
（三重県）
P35　音訳グループ「鈴の音」
（滋賀県）
P36　一般社団法人異才ネットワーク

（京都府）
P38　社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会
（大阪府）
P40　特定非営利活動法人セヤナ
P42　ロンド健康運動プロジェクト
（兵庫県）
P44　特定非営利活動法人縁
P45　一般財団法人カナウ
P46　社会福祉法人みらい
P48　社会福祉法人シャローム福祉会
P50　特定非営利活動法人きたベジファーム
P51　社会福祉法人兵庫県盲導犬協会
P53　特定非営利活動法人いろは
P55　特定非営利活動法人兵庫県若者らの自立を考える連絡会
P56　点訳グループふれあい
P57　特定非営利活動法人みんなのいえ
P58　特定非営利活動法人姫路自立生活支援センター
P60　すもと高齢社会をよくする会
P62　特定非営利活動法人元気アップみのり
P64　特定非営利活動法人オフコース
P66　特定非営利活動法人かたくり
P68　注文をまちがえる喫茶店in丹波　企画実行委員会
P71　特定非営利活動法人cambio
P72　一般社団法人S-CUBE
P74　要約筆記ボランティアサークル　㋮かんざき
（和歌山県）
P76　一般社団法人ウインワークス
（鳥取県）
P77　特定非営利活動法人ラ•ルーチェ絆縁
（岡山県）
P79　一般社団法人ジャングルランド
P81　社会福祉法人同仁会
P83　特定非営利活動法人のぞみ
P84　特定非営利活動法人わかたけ
P85　社会福祉法人勝明福祉会
P87　社会福祉法人吉備の里

（広島県）
P90　社会福祉法人「ゼノ」少年牧場
（徳島県）
P92　特定非営利活動法人いのちのさと
（香川県）
P94　特定非営利活動法人手と手と手
P96　一般社団法人SEEK
P97　一般社団法人めりぃ
（長崎県）
P98　特定非営利活動法人五島あすなろ会
（大分県）
P100　特定非営利活動法人宇佐市障がい者共同受注協議会
（鹿児島県）
P102　オフィスHT合同会社

地域福祉振興助成　工事

（岩手県）
P102　特定非営利活動法人風花
（宮城県）
P105　特定非営利活動法人セミナ～レ
P107　特定非営利活動法人ハンス・バーガー協会
P108　特定非営利活動法人ポラリス
（福島県）
P110　特定非営利活動法人CHANT
P112　社会福祉法人郡山コスモス会
（栃木県）
P114　特定非営利活動法人シュシュ
（福井県）
P116　特定非営利活動法人くまっこクラブふくい
P117　特定非営利活動法人はぁもにぃ永平寺
（大阪府）
P119　特定非営利活動法人地域生活サポートネットほうぷ
（兵庫県）
P121　一般社団法人さんでーかふぇ
P123　特定非営利活動法人ヘルパーGOGO
P124　株式会社いっぽ
P126　特定非営利活動法人合氣道播磨裕和会

P128　特定非営利活動法人ハレルヤ福祉会
P130　特定非営利活動法人尼崎市身体障害者連盟福祉協会
P132　社会福祉法人芦屋メンタルサポートセンター
P133　特定非営利活動法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク
P135　特定非営利活動法人あすてる
（岡山県）
P137　社会福祉法人慈風会
P138　社会福祉法人笠岡市社会福祉事業会
（福岡県）
P140　特定非営利活動法人nest

地域福祉振興助成　新規事業所の開設

（石川県）
P141　特定非営利活動法人あかりプロジェクト

認定特定非営利活動法人京都ＤＡＲＣ

http://www.kyoto-darc.org/

【所在地】　京都府京都市　　【対象者】　精神障がい者

【日常の活動】
障がい者福祉サービス事業としてデイセンター「マハロ」にて自立訓練（生活訓練）事業を行っています
指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業を「ネクサス1・2」にて行っています

「マハロ」にて朝食作り、運動、農作業プログラムなどを取り入れ就労支援、社会復帰事業を行っています
「マハロ」にて地域社会との関わりを持つ活動を目指し、お祭りやこども食堂などへの参加やお手伝い、
地域の公園や川沿いの清掃ボランティアを行っています
矯正施設で行われる「薬物離脱教育」に講師派遣を行っています
学校や行政、関係各所に対して、薬物乱用防止に関する講演、情報の普及啓発活動を行っています
京都府薬務課との共同事業として「OPEN」に講師派遣を行っています
京都市こころの増進センターで行われている「KEEP」に参加しています
京都保護観察所で行われている「ステップアッププログラム」に参加しています

「課外活動プログラムの開催」

【助成額】　　22 万円

実施目的

孤立した生き方を続けてきた薬物依存症者が、一緒に楽しむことから生まれる一体性や帰属性を育む目的として実施している。

実施内容

福井県課外活動プログラム
　期間　：2021 年 7 月 20 日～21 日
　参加者：26 名
　内容　：7 月 20 日
　　ＡＭ 9：00　ＤＡＲＣを出発。
　　ＡＭ11：00　昼食、備品買い物
　　ＰＭ13：00　宿屋到着。スタッフと共に各自に海水浴、釣りなどを楽しむ
　　ＰＭ17：00　夕飯。
　　ＰＭ19：00　ミーティング
　　ＰＭ20：30　花火
　　ＰＭ21：30　星空観察

7月21日

ＡＭ 8：00　朝食

ＡＭ 9：00　海水浴、釣り

ＰＭ12：30　宿屋出発

ＰＭ15：30　ＤＡＲＣに到着

得られた効果

今回はコロナ禍の中で実施することに対して利用者も含め、話し合いをしました。実施するためにワクチン接種の早期実施、当日の検温、マスク着用、アルコール消毒などの徹底などを行い、みんなが気をつけて楽しむことができました。京都ＤＡＲＣではスタッフがこれをしてください。ということよりも利用者の方の自主性や思いを大切にしています。海水浴、釣り、星空観察などそれぞれが何を楽しみたいのかを重視し、スタッフが寄り添いながら無事に終えることができました。初めて参加する仲間は何年振りかの海を楽しんでいました。再び参加した仲間は新しい仲間をサポートしていました。「素面で楽しむ」「自ら楽しむ」「共に楽しむ」ことをテーマに今年も無事に終えることができました。

今後の課題

日常に行っている運動プログラムや農作業プログラム、地域でのイベントのお手伝いをするボランティア活動と同様に自然に触れ合うこと、人と触れ合うことで「薬物を使う必要がない新しい生き方」をみんなが体験することができました。今後も利用者と共に考え、安全に課外活動プログラムができるように夏の福井の海以外にも計画していきたいと思っています。

特定非営利活動法人ガジュマルの船

https://gajumaruship.jimdofree.com

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■特定相談支援事業所「シエスタ舎」利用者15名（障がい種別は問わない）
　定期的に訪問し、その人に合った公的支援制度などにつなげる。

■摂食障害等の自助活動支援事業（自助グループの開催等）

■摂食障害等に関する啓蒙活動事業

「ファシリテーター研修」

【助成額】　19 万円

実施目的

摂食障害や依存症当事者を対象としたミーティングをより良いファシリテートで円滑に行えるよう研修会を開く。初めての参加者が、今後ともつながっていけるようなサポートや対応をスムーズにできるようになることで活動を活発化する。

参加者各々が自身の問題解決や生きづらさの改善につながるようなミーティングの開催をし安心安全な居場所をつくることで社会資源の一つとなることをめざす。

近隣の他の自助グループとも情報共有し、ともに、よりよい自助グループの在り方を考える機会を持つ。

実施内容

6 月～9 月　日本アノレキシア・ブリミア協会（NABA)のコンサルティング
　　ミーティングやイベントを行うにあたっての安全の確保について。
　　SNS を利用した嫌がらせがあった場合の対処について。
　　自助グループを運営していく上で、参加者の安全安心を保つために大切なこと。
　　以上の内容をメールや電話で、日々相談し、トラブルの対処に当たりました。

12/8　NABA 職員によるファシリテーター研修（非公開）
　　講師鶴田さん、高橋さん
　　参加者:関西で摂食障害自助グループを運営する当事者５名
　　内容:運営者として安全を保つためにできることとなど、ディスカッション方式で行う。

12/18 ファシリテーター研修（公開）
　　講師:NPO 法人アスク依存症認定予防教育アドバイザー岩佐さん、藤原さん
　　参加対象:自助グループを運営する当事者、これから運営していきたいと思っている人
　　参加人数:１６名

内容:講師二人の体験談、質問コーナー、グループにわかれディスカッション。

・自助グループを安心安全な場所にするために

・初めて来た人がつながっていくために　などのテーマで話し合いました。

2/11 ファシリテーター研修（公開）

講師:摂食障害自助グループともあしの会　矢崎さん

参加対象:自助グループを運営する当事者、これから運営していきたいと思っている人

参加人数：１８名

内容:講師の体験談、質問コーナー、グループにわかれディスカッション

・自助グループにおいて、安全な場所とは

・続けていくには？などのテーマで話し合いました。

3/6 ファシリテーター研修　講演会「お役に立てず光栄です」

講師:名古屋カウンセリング工房ぼとす　臨床心理士西野敏夫さん

参加者対象:興味のある人だれでも

参加人数:会場　25 名　　オンライン 20 名

内容:講師の西野さんは、精神病院で長年勤務され、現在は臨床心理士としてカウンセリングオフィスを開設しておられます。さまざまな依存症当事者や依存症施設を立ち上げた当事者の支援をされてきたをお話してくださいました。この講演会の情報は、神戸新聞にも掲載していただき、はじめて当団体の活動に参加してくれた方も多く、参加者の方々から好評いただきました。

西野さんのお話の後は、参加者が一人一人話す時間をもつことができました。

参加者は当事者だけでなく、依存症家族や支援者の方もいらっしゃたことで、「自助グループの役割」などについても色んな方向から考える機会が持てました。

得られた効果

６月～９月のコンサルティングにおいては、実際のトラブルの対処について、先駆的団体からアドバイスをもらうことができ、７月でストップしていた活動も９月より再開できました。

12/6 非公開で行った、関西の摂食障害自助グループ運営メンバーによる研修会では、今後の自助グループ運営の在り方について話し合う機会を持つことができ、12/18、2/11、3/6 の公開されたファシリテーター研修につなげることができました。

「参加者皆が安心して参加できるような環境はどうすればよいか？」「必要としている孤独に苦しむ当事者とつながっていけるようにするには？」「自助グループを継続していくために」などの課題は、他の団体でも共通する悩みでもあり、ファシリテーター研修では、たくさんの団体からの問い合わせがあり、参加していただくことができました。

今後の課題

当団体の指針は「まだ苦しんでいる依存症者、同じ精神疾患を持つ方々が回復していく為のきっかけづくりの居場所」が指針です。

社会福祉資源の必要な情報提供を始め、地域の病院や自助グループや関連するリハビリ施設の紹介、当団体で実施している勉強会やミーティングを続け、機関紙作りと SNS を利用し広報活動を続け、回復出来る居場所づ

くりも続けていきます。運営に関わるスタッフも「一人が無理をして頑張る」のではなく、参加者で役割を分担したり、情報共有し、問題や困りごとをその都度相談し合うことで、大きなトラブルを回避しながら運営を継続していきたいと思います。
当団体で行う勉強会やミーティングはオンラインを併用する事で、全国から参加をして頂ける事は、新しい出会いがあり、回復、成長への窓口を広げる事に繋がっています。画面のオン・オフ、ネット環境の問題など安全に配慮は必要になってきますが、これからも安全に配慮したルールを考えつつ、継続したいと思います。
当団体には、依存症当事者であり福祉資格を持つスタッフ、当事者ではない福祉資格を持つスタッフも関わっていく事で、多方面からのアプローチをこつこつと広報活動をして進めていく所存です。
運営にあたっては、経済的自立の必要性も感じています。現在、団体として畑やクラフト活動も進めており、今後は当事者で作ったものを販売し運営費に充てるなど経済的自立もしていきたいと思っています。

きらくに歌おう会

【所在地】　兵庫県芦屋市　　【対象者】　高齢者

【日常の活動】
芦屋市内で月3回開催しています。従来は月2回だったのですが、三密になる事を避けるために月３回開催しています。混み具合によっては回数を増やす予定です。

「歌謡教室の開催」

【助成額】　　6 万円

実施目的

高齢者の方々にプロレベルの音楽を無料で提供したい。楽しく過ごせる場所を提供したい。笑って歌って交流を深める機会を作ってあげたい

実施内容

カルチャーセンターのレベルに負けない歌謡教室を展開しています。毎月プログラムを変え季節感を出しています。ピアノに合わせて合唱します。歌唱指導から笑いを交えた雑談など１時間がアッという間に過ぎてゆきます。前田集会所で月１回、県営南芦屋浜集会所で月２回実施しています。春日集会所からも要望が有り３月から始めました。来期は市内で月４回の実施になります。

得られた効果

歌を歌う集りの為、感染対策を最重点に考えました、各会の参加者が少なくなりましたが、充分に楽しんでいただけたと自負しています。中止になった会もある為、実施回数は 34 回です。約 300 人余りの高齢者に楽しんでいただきました。

今後の課題

３月より楽しく春日集会所でも実施させていただきました。来期からは月４回の実施となり集会所使用料など費用が嵩みます。今期は助けていただき本当に感謝しております。これからもよろしくお願いします。

１８トリソミーの会

【所在地】　東京都　　【対象者】　その他

【日常の活動】
会員同士の交流会：オフ会（年 2 回）
会報の発行：PDF にて配布（年 1 回）
情報交換：Google および LINE グループを活用し、ピアカウンセリングを実施
相談事業：会員外からの相談（随時、月 4 人程度）

「１８トリソミー用母子手帳作成」

【助成額】　38 万円

実施目的

自治体交付の母子手帳は障がいのある子どもにとって「できない」ことが多く、家族にとって記入は大変辛いものであり心理的負担が生じている。18 トリソミーの子どもの妊娠・出産、そして出生後のゆっくりとした成長に向き合い育児不安を軽減できるよう 18 トリソミー用の母子手帳を作成する。
冊子は 18 トリソミーの会のパンフレットとともに全国の周産期母子医療センター新生児集中治療室（NICU）やご家族、これから 18 トリソミーの子どもの家族になるご夫婦に向けて配布することを目的とする。こうした試みにより、障がいはあるけれど他の子と比較することなく我が子に向き合う環境を整え、社会で穏やかに暮らす親子の生活を支えることにつながると考える。

実施内容

本助成金を受け、以下実施いたしました。
18 トリソミー用の母子手帳は A6 サイズ、両面カラー、約 60 貢、1500 部を作成しました。目次として、「妊娠中」「誕生」「ＮＩＣＵ」「在宅」の 4 ステージに区分し、その時期に応じた情報を記載できるようにしました。医療、心理的貢では、当会賛助会員の先生方 4 名に寄稿いただきました。また、表紙、裏表紙は当会会員の 18 トリソミーの方の妹さん作です。会員が編集作業をし、プロのようにはいきませんでしたが、その分温かみのある手帳が完成したと自負しております。
あわせて当会のパンフレットも作成しました。内容を更新し、三つ折り 2000 部印刷しました。手帳とともにパンフレットを同封し、配布しております。
全国の周産期母子医療センター計 8 施設に 1 冊ずつ配布し、現在はご家族や健康福祉部保険センター、ＮＩＣＵや遺伝科関係者より追加注文いただき、対応しています。

得られた効果

現在在宅中のご家族より、手帳を見せることで子どもの成長について保健師さんに伝えやすくなったと感想をいただきました。自治体配布の母子健康手帳では、希少疾患の子どもならではの成長を測ることはできず、活

用に限界があります。18 トリソミーのお子さんにあった手帳を作成したことで、比べることなく子ども一人ひとりに向き合う姿勢の土台ができたように感じました。
1 年間に生まれてくる子どもの人数は少ない状況ですが、末永く広報活動を続け、お子さんとご家族のために役立てていただければと願っています。

今後の課題

引き続き、母子健康手帳について広報活動をしています。直近では、公益社団法人母子保健推進会議の情報誌に「18 トリソミーのお子さんを産み育てること～医療・福祉・社会の役割の視点から」を寄稿するのですが、この中に母子健康手帳について記載しました。この情報誌の読者はとりわけ行政の保健師、助産師が中心となりますので、今後益々の活用が期待できます。また、2022 年度開催 n 周産期および小児医療関連の学会にて作成までの経緯について学術発表し、会場にて母子健康手帳の配布を予定しております。
現在、日本在住の外国人ご家族および海外向けに英語版の母子健康手帳を作成しています。配布はＰＤＦのみになりますが、本成果が周知され多くのご家族の手に届き、そしてご活用いただくことを望み、引き続き活動を進めて参ります。

特定非営利活動法人さをりひろば

http://www.saori.co.jp/

【所在地】　大阪府大阪市　　【対象者】　発達障がい者、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、

【日常の活動】

・障害福祉サービス
　就労継続支援B型：定員30名、生活介護：定員8名
・放課後等デイサービス：定員10名
・障がい者芸術支援事業：横浜ラポール芸術市場出展（神奈川県下の手織り作家の作品の展示会開催）
・地域指導者養成事業：さをり・リーダーズ・コミティ（さをり指導者の会）の地域での手織り啓発活動。
　指導者養成講座（教員、施設職員向けの手織り講習会の開催）
・国際協力事業：海外NGOからの研修生の受け入れ
・生涯学習推進事業：愛・地球博市民プロジェクト継承の手織りワークショップ開催（愛知）、震災支援手織りワークショップ（兵庫）、平和維持活動の展示会開催（広島）、がん支援織りつなぎ（芦屋）

「さをり織り作品販売」

【助成額】　　49 万円

実施目的

通信販売に力を入れることで、事業所の収入を増加し、コロナ禍で落ち込んだ利用者への工賃のアップを図る

実施内容

◇物品購入

・通信販売に必要なため、動画機能の付いたカメラ（SONY デジタルカメラ VLOGCAM）を購入
　その三脚（VelbonEX-447VIDEOII）を購入
・通信販売に必要な HP 作成後の更新や編集ができる PC（FUJITSU デスクトップ PC　D7010/FX　モニターI/O データ液晶 LCD-AH241EDW-A）を購入

◇HP の製作

・通信販売に必要な HP の製作を外注

得られた効果

HP が今までなかったので、私たちの事業所で何をしているのか？どんな活動をしているのか？そして、どんな商品があるのか？どんな体験ができるのか？広く伝わっていなかった。また、問い合わせも営業時間内に限られてしまっていた。今回、HP の作成により私たちの事を知っていただくことで、お問合せの量が増えました。また自社商品の製品が、一品一品、織りあがった布を見ながら作っていく姿をお見せすることができた。そして、ネットショップの環境を整えたことで、店頭販売以外の購入手段を作ることができたことで、お問い合わせが、ちらほら出てきている。

今後の課題

このプロジェクトは、当初の予定では、HP の立ち上げと商品化のための技術講習、並びに、作品展の実施を申請しておりました。その中で、HP の立ち上げに関して助成をいただくことになりました。今後は、商品化のための技術講習とその効果を示す、そして、展示会をすることで市場の反応をみて、さらなる進化をする。この点に関しては、道半ばです。

次年度の貴法人の助成にも、すでに、この道半ばのプロジェクトを最後まで遂行するべく、申請中です。今後もこの HP を生かすべく、コンテンツの向上を図っていきたいと考えております。

MECP2 重複症候群患者家族会

https://mecp2.jp/

【所在地】　大阪府吹田市　　【対象者】　MECP2 重複症候群患者、患者家族

【日常の活動】

・日本各地のRDDへの参加（2月）　・RDDきっずの主催（2月）
・同じ遺伝子が原因のレット症候群との合同シンポジウム（2月）
・レット症候群との合同勉強会（8月）　・LINE公式での情報配信（週1回）
・各種関連学会の患者会ブースへの参加（随時）　・HPやfacebookでの情報発信（随時）

「患者家族会設立 5 周年記念グッズの作成」

【助成額】　5 万円

実施目的

コロナ禍となり、知名度向上のための学会などのイベントに参加できないため、記念グッズとして日常的に使用することのできるものを用意することで、日常生活でも啓発活動ができるようにする。

実施内容

・イヤーブック 35 冊
これまでの活動内容や家族の思いを共有するために家族会員、MECP2 重複症候群の研究者に配布した。
余剰分は、学会での展示と、今後入会する会員い配布して使用する。
・エコバック（配布用）16 枚（患者家族会負担で販売用として 34 枚も同時に作成）
外出先で啓発活動ができるように家族会員に配布し、残りは販売用として使用する。
・患者向け T シャツ 18 枚
患者が通院やおでかけ時に着用し啓発できるよう配布した。
・配布物郵送料
各家庭に記念グッズを郵送した料金。

得られた効果

イヤーブックの子供たち紹介では、患者の重症度に差があることが伝わる内容となった。また、患者家族会に入会したことで不安なことがあってもすぐ相談できるようになった。ということが多く書かれており、今後の新規会員に気軽い相談できる会であるということが伝えられる。研究者からのメッセージでは具体的な研究の進捗状況が記載されており、会員間で情報を共有できた。エコバックは患者家族が外出先で使用することで、当会のロゴマークである MECP2boy を多くの方に見てもらい、関心をもってもらうきっかけとなっている。これまで当会の T シャツは白色と紺色で作成しており、2 回目にあった方で T シャツのことを覚えてくださっている方もいたため、5 周年記念カラーとして患者向け T シャツとイヤーブックに明るい黄色を使用し、より当会の事を覚えていただきやすくした。

今後の課題

今回は疾患の知名度向上を目的として事業を実施したが、患者とその家族は毎日生活する中で、疾患の症状のほかにも就学、小児診療科から成人診療科への移行問題、高校卒業後の進路など悩むことも多い。すぐにこういったことを全て解決することは難しい。しかし、以前主催した RDD きっずというイベントでは、高校生と希少疾患児がペアになり一緒に時間を過ごしたことで、最初は緊張していた高校生も自分なりの関わり方を一生懸命探してくれたことで疾患児も笑顔になり、最後には自然によだれを拭いたり散歩に出かけたりという姿があった。今後は他の患者会と連携を強化し、これからの社会を作っていく若者と一緒に過ごしてもらう機会を増やしていくことで、障がい児と過ごすことは難しいことではないと知ってもらい、皆が暮らしやすい社会について一緒に考えていく活動を行っていきたい。その中には、疾患児のきょうだいも取り残されることのないようにしていきたい。

特定非営利活動法人 NOWBELBE

http://nowbele2021.wixsite.com/my-site

【所在地】　岩手県陸前高田市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】
就労継続支援A型事業所及び放課後等デイサービス事業の多機能型事業所の運営

「送迎用車両購入」

【助成額】　　62 万円

実施目的

就労継続支援 A 型利用者の送迎のため。

実施内容

車両名　:タント
使用頻度：月曜日～金曜日（祝日含む）朝・夕
使用目的：自力で通勤する事が困難な就労継続支援 A 型利用者の通勤や施設外就労先までの送迎手段として用いてます。
（自力で通勤できない方：知的障がいにより一人で公共交通機関の使用が困難な方、公共交通機関はあっても、便数が少ないために就労時間に合わせた仕様が困難な方、発達障がいの特性上、大勢の方と乗り合わせる事が難しい方、精神的に不安定になるとトイレが頻回になることで 1 時間程度の交通機関の利用が難しい方）
※当地域では震災後、路線によっては電車がなく、公共交通機関はバスのみになります。

得られた効果

車両を購入したことで、就労する能力を持っていても地理的な問題で就労が難しい方などについても可能になります。それにより、就労意欲をもった障がい者の雇用の機会に繋がり、働く人口が減少してきている当地域においては、貴重な労働力となり障がい者自身も就労する事で生きがいや自尊心が高められており、福祉を受ける側も社会を支える側となる事で地域の活性化に繋がります。

今後の課題

当地域では、いまだ福祉的就労を希望されている方々が多い状況でありますが、当事業所では人員や設備の不足、提供できる作業が少なく皆さん方の期待に応えることが難しい状況であります。また、様々な疾患や特性をお持ちの方々が多いために、就労日数や作業成果における不安定さを抱えており、生産活動で収益を得て事業の安定化を図ることも課題の一つとなっております。まずは、我々が出来る課題を一つ一つクリアさせていくことで、障がいをお持ちの方々の安定した雇用に繋げていくことが出来るよう努力してまいります。

特定非営利活動法人ワンダーアート

http://artsforhope.info

【所在地】　宮城県仙台市　　【対象者】　知的障がい者、発達障がい者、身体障がい者

【日常の活動】
仙台の「ワンダーアートスタジオ」を拠点に、障がい児者の表現の場となるアートクラスを開催している。障がい児者と家族にとって不可欠な場所として、毎年定員を超える応募があり、安定的な利用者を集めている。発達障がいや知的障がい、聴覚障がいのある子ども（及びきょうだい児）から大人まで、30名以上が活き活きと創作活動を行う。コロナの感染拡大の影響により自粛を余儀なくされている活動もあるが、大船渡や南相馬など東北各地で支援活動も継続しており、特別支援学校、障がい児と家族の会、重度心身障がい児者が入院する病院で、創造力を育み、交流を促す訪問型アートプログラムを開催している。

「アート工房の事業所新規開設に向けた備品の購入」

【助成額】　48 万円

実施目的

障がい者の新たな就労場所となるアート工房の開設。社会から孤立する障がい者をなくし、個々が持つ表現力や能力を存分に発揮し、やりがいを持って活き活きと生活できる場を創出する。

実施内容

●備品購入
備品名:ORIRO 避難はしご(ワイヤーロープはしご5号)、ワイヤーロープ式格納箱、避難器具標識版、取扱説明版

●備品・消耗品購入
商品名:Tシャツくん Black
利用者自らが自分の絵やデザインを元に版画作品を制作し、様々な素材にプリントする技術を研鑽するための印刷機を購入した。今期から開設する事業所で、T シャツやバック、ポストカード等のグッズを制作する。
印刷機用消耗品:油性インク 6 色、水性インク 22 色、印刷用画用紙

●工事
・避難はしご設置のための工事
　工事内容:消防法上、現状の施設の造りでは避難器具の設置が出来ないことが分かり、避難口開口のための既存壁の撤去、新規ドアの取付、手摺の設置を行った。
・断熱工事
　工事内容:断熱材の敷き詰めだけでは防寒対策が追い付かず、専門業者に床面コンパネ貼り、壁面ボード貼りの上、断熱材の設置を依頼した。

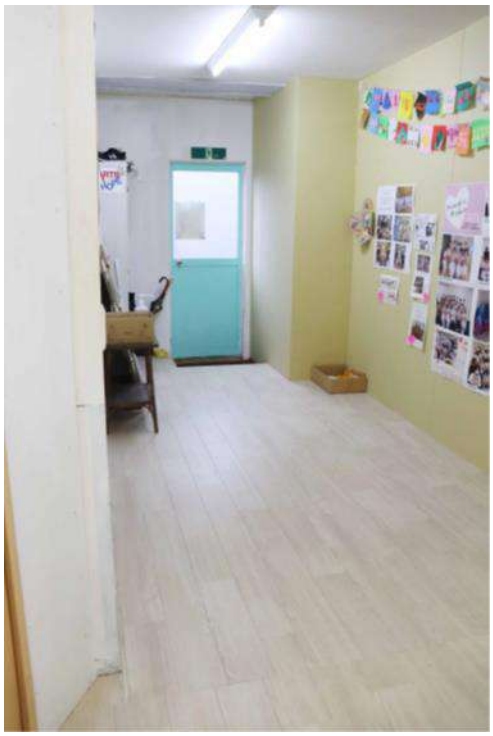
得られた効果

▸断熱材の設置、断熱工事により、施設の環境が格段に改善した。寒さ対策が緊急の課題であったことから、これから多くの利用者を受け入れるにあたり、安心して過ごせる施設に生まれ変わった。

▸避難器具の設置により、市の障害福祉サービス事業を開始するための条件をクリアし、無事5月1日から事業所としてスタート出来ることになった。

今後の課題

・アート工房における生産活動の充実、作品管理
・施設の環境改善、防犯対策
・地域における認知や理解の向上



特定非営利活動法人そら

【所在地】　山形県米沢市　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

「そらの輪」　就労継続支援A型・B型（多機能型）

A型　定員10名

除草作業・PC作業・公園管理等の請負作業・アパートの点検・清掃作業・ハウスクリーニング作業

B型　定員10名

内職作業（メッキ製品の検品・自動車部品組み立て）、清掃作業（ATM清掃作業）

「雪害対策のための除雪機の購入」

【助成額】　83 万円

実施目的

米沢市で生活する高齢者や障がい者の為に、雪害から住宅などを守る雪囲いの設置とその技術の習得、ならびに除雪・雪下ろし作業を行い、利用者の賃金を向上させる。

実施内容

・雪害防止事業

4 月～5 月は、冬に向けて雪囲いの設置方法を学ぶため、昨シーズン設置された雪囲いを解体する。

6 月～8 月は、定期的に荒縄の縛り方を職員、利用者間で練習を行い、雪囲いに備えた。

9 月～11 月、雪囲い設置開始。経験の多い講師を派遣してもらい、雪囲いの設置方法や、庭木用の雪囲い方法「雪つり」等の設置方法を学んだ。

3 月～シーズン初めに設置した雪囲いの撤去をしながら、大雪を乗り越えられる適切な雪囲いの設置方法の振り返りを行った。

10 月中旬から市内の高齢者宅の雪囲いの研修・作業指導を実施。作業件数は 19 件、そのうちの 3 割が高齢者世帯であった

・高齢者等の自宅除雪・雪下ろし作業

今年は例年に比べ降雪量が多く、一晩で 1 メートル近く積もる日が何日もあった。そのため、除雪依頼も多く 12 月中旬から 3 月上旬までほぼフル稼働で除雪作業を行った。

当初の計画通り、主に公的サービスとして行われる大型機械の除雪機が入れない場所の除雪や、高齢者や障がい者の自宅の雪下ろし作業を行った。除雪作業・雪下ろしをした雪の排雪作業には今回の助成金で購入した除雪機が大きな戦力となり作業効率が大きく向上した。

12 月中旬から除雪作業を実施。延べ作業件数 162 件、うち高齢者世帯が 107 件（67%）障がい者世帯が 24 件（14%）となっている。家屋等の雪下ろし作業については、延べ作業件数 39 件、うち高齢者世帯が 14 件（36%）となった。今シーズンの作業実績を基に既存の依頼を受けつつ、来シーズンはより多くの地域に住む高齢者や障がい者が、冬期間に安心して暮らせるよう除雪作業を継続していく。

得られた効果

・雪害対策事業

講師による作業指導を受けたことにより、家屋への雪囲いの他に樹木などへの雪囲いの仕方を習得したこと、荒縄の縛り方を覚えた利用者が増えたことで、より多くの作業件数を持てる。来シーズンは個人宅だけでなく、法人や行政などの仕事も積極的に受け収益の増加図る。

・高齢者等の自宅除雪・雪下ろし作業

除雪機が入ったことで前年度に比べ、作業効率が上昇し作業件数・作業収入ともに大きく上昇した。

以前に比べ敷地の広い場所の除雪や雪下ろし後の排雪なども効率が上がり、より多くの件数をこなすことが出来、顧客の獲得にもつながった。

今後の課題

○人材育成

・除雪機のオペレーターが限られており、来シーズンに向けてオペレーターの育成が急務である。

・雪下ろし作業に従事できる利用者を増やす為、利用者への指導や高所作業資格の取得を来シーズンに進めなければならない。

特定非営利活動法人ゆにぷろ

http://npotakahata.seesaa.net

【所在地】　山形県東置賜郡　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】
①生活介護　②放課後等デイサービス　③児童発達支援事業　④移動支援事業
⑤山形県早期からの親子サポート事業　⑥福祉有償運送（国交省事業・補助なし）
⑦会員サービス（法人独自事業）
1. タイムケア　2. ナイトケア　3. コミュニティカフェネコの会（居場所・フリースペース）

「AED の購入」

【助成額】　22 万円

実施目的

AED の設置

重度の障がいのある方の多い事業所のため、職員を含め基礎疾患を持つ方が増え、また、町の最も人通りが多いエリアに設置するため、「福祉施設」へ AED を求めて駆け込んでくる方が今後ますます増える可能性があるため。

実施内容

日本電工 AED(AED3100) 1 台

AED の設置により、基礎疾患のある重度障がい者、職員等の命を守り、また地域の方の急変に対応できる体制を整える救急対応について研修する。

得られた効果

入口看板と玄関に AED のステッカーを張り、地域の方に分かるように玄関からすぐに目立つところに設置いたしました。また、高畠町福祉こども課へ報告し、近くの中学校へも周知いたしました。
財団全国 AED マップ「登録番号 657873」に登録いたしました。これにより、全国、山形県、高畠町への登録が終了いたしました。
また、隔月に発行している「ゆにぷろ通信」に助成内容と AED の設置状況

今後の課題

平成 31 年 3 月に、ゆにぷろ職員 9 名にて高畠町消防署より、普通救命講習 1 を受講し AED の使用方法や救命技能を習得いたしました。しかし、取得から 3 年以上経過し、また今回ＡＥＤを購入したことから、新入社員も含め、改めて普通救命講習を受講いたします。地元消防署と相談の結果、受講日が 11 月 13 日（土）と決定しました。人数は、15 名予定しております。

NPO法人
ゆにぷろ

AED
AED
自動体外式除細動器

特定非営利活動法人クローバー福祉会

https://www.fourleaf-clover.or.jp

【所在地】　福島県郡山市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援Ｂ型のワークフレンドくじらは、定員２０名。

作業能力に合わせてお菓子の箱折り・部品の組立など幅広い内容で生産活動を行っている。活動して行く上で、作業能力が向上した方に対しては、一般就労に向けた支援も行っている。近年、施設外就労事業にも力を入れ、リネン作業・あんみつのカップ詰めのライン作業・農作業と幅広い事業を展開し、一般就労の場を多く提供出来るよう活動している。

中でも、農作業は畑でとれたさつま芋を使用して、干し芋を作り、梱包して、販売する六次産業化（作物の栽培、収穫、加工、販売）への参入に本格的に動き出している。

（生活介護　１カ所）

（日中一時支援　１カ所休止中）

「焼きいも作りのためのスチームコンベクションオーブンの購入」

【助成額】　　100 万円

実施目的

コロナ禍の影響で取引先の受注数が減少しているので、自社製品を開発することを考え、畑で採れた芋などの野菜や果物を調理して製品化し、販売する六次産業化を目指す。

実施内容

株式会社 テスコ 「スチームコンベクション」の購入

クローバー福祉会の食堂一角に、焼芋などの調理ができる業務用のオーブンを１台設置した。

今までは、家庭用の蒸し器で少量ずつ芋を蒸していたので商品化の効率が悪かったが、業務用のオーブンを購入したことで、一度に沢山の芋が調理できるようになった。尚且つ、焼きの工程も自動で出来るので、芋の甘味も引き立ち美味しい干し芋が出来上がった。

得られた効果

248袋の干し芋が完成した。今年は一般販売を行わず、48袋は商品として関係者等にだけ販売をした。

【内訳 700円を30袋・500円を18袋】売り上げは、合計30,000円

200袋は次年度のＰＲのために、試食品として各方面に配布した。「とても美味しい」と言って頂き、「来年度作ったら是非買いたい」とお約束頂ける程の出来栄えであった。レンタルではなく購入した器具なので、日数や時間を気にすることなく、自分たちのタイミングで作業できたことがとても良かった。

それによって、来年度に向けて焼き時間や水分量など様々な調整をする時間がもてた。

今後も調整を繰り返し、よりおいしい干し芋が作れるよう励んでいきたい。

今後の課題

今回の反省は、芋の収穫時期が遅くなってしまったので、芋をねかせて加工する時期がいつもより遅れてしまった。また、加工前の芋の管理で、貯蔵庫の温度設定がうまくいかず、大量の芋にカビがでてしまった。たくさんの芋にカビがでてしまったので、加工できる芋の量が少なくなってしまい、干し芋の完成品が少なくなってしまった。今後は加工の時間を確保して、貯蔵庫の温度管理と、カビ具合の確認を徹底していこうと思う。

焼き芋や干し芋に限らず、季節の果物を使ったドライフルーツ等を作成し、販売ルートを構築して確実な収入を目指す。

最終的には、自社製品を多く開発し、幅広い世代・幅広い地域に広めていきたいと考えている。

特定非営利活動法人はだのあすなろ会

https://www.hadano-asunaro.com/

【所在地】　神奈川県秦野市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型の運営

〇環境リサイクル事業（15人）

ペットボトルのラベル剝がし、アルミ缶の選別作業

ベッド、応接セットの解体とバネ金属の取り外し作業

〇水耕栽培（3人）

種の植付け、発芽の植え替え、水の補給、観測（室温、湿度、水温、ＰＨ等　の計測）

収獲・袋詰め・販売（週1回）

「送迎用車両の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

送迎用に利用している中古軽車両バンから安全性を確保するため、新しい普通自動車に買い替えるものです。

実施内容

◇車両購入

車両名　スズキ・ソリオ

定員　5 人乗り

排気量　1200 cc

当事業所へ通っていられる利用者さんの送迎用として利用させていただきます。

得られた効果

この度、新しい車を購入できたことにより、利用者さんの乗車時の安全性（前の車には、後部座席にシートベルトがありませんでした。）が確保できること、また職員もオートマチック車であり、セーフティサポートも装着されていますので、より一層の安全な運転を担保することができるようになりました。また、前回助成いただいた軽自動車と合わせ、１度に７名の輸送が可能ですので、このコロナ禍が収束しましたら、近くの公園での花見などの行事、余暇活動にも利用していきたいと考えています。

今後の課題

貴財団の助成を受け、新たに車が購入できたことにより、より一層の利用者さんへの通所サービスの向上に努めるとともに、職員への安全運転の徹底を図っていきたいと考えております。

一般社団法人ふれんず

【所在地】　福井県　　【対象者】　知的障がい者、発達障がい者、精神障がい者

【日常の活動】
放課後等デイサービス　2 か所
・遊びを通しての個人のスキルアップ及び友達との関係つくり
・おやつやさん活動での選択力アップ　金銭管理
日中一時支援事業　　1 か所
・コーヒーパックつくりをして作業体験
・生け花、ドライブなどを通じ季節を肌で感じる
共通
・行事や清掃奉仕などで地域交流
・様々なレクリエーションを通し趣味　好きの発見

「送迎車（中古４WD ワゴン）購入」

【助成額】　　100 万円

実施目的

送迎や外出時に悪天候でも雪道でも安全に走行できる中古 4WD 車を購入する

実施内容

販売店様のご尽力で 日産 セレナ 4WD 8 人乗りを購入し 11 月下旬に納車しました。
納車後は送迎や気分転換の外出・毎日フル稼働です。3 列シートなので、少ない人数で動く時には、列をわけて座れ、他害がある方でも隣を開けることができるワゴン車は安心感があります。
今冬は大雪が予想されています。が、4WD であれば今まで 2WD では通れなかった雪道・坂道も安定して走れると思います。ただ雪道が危険なのは変わりません。
4WD を過信することなくこれからも安全を第一に走行したいと思います。
長期の休みには、セレナに乗って海に山にみんなで出かけ楽しい思い出をたくさん作っていきたいと考えています。

得られた効果

中古車とはいえ、販売店で全て点検をしてからの納車のため、安心です。
前送迎車は近年、大きな故障を繰り替えし多額の修理費を要したのですがそれも無くなると考えられます。
何より大きく期待するのは、雪道・坂道での力の強さです。今冬は大雪だといわれていますが、車を動かせない状況が昨年よりかなり減るのでは？と考えています。また安定走行も見込まれるため悪路走行時の安心感に

もつながります。
まだ幸いなことに雪が降っていないため、はっきりした成果や効果はわかりませんが今年の冬は期待しています。

今後の課題

からふるがある福井市は海も山も１時間弱で行くことができます。
しかしながら障がいを持っている故に海や川で泳いだ経験がない方、スキーやキャンプをしたことがない方が多いのが現実です。
せっかくの雪国。せっかく頂いた 4WD 利用者さんにスキーやそりの楽しさもお伝えできればと考えています。

特定非営利活動法人　わ・く・ら

【所在地】　静岡県沼津市　　【対象者】　知的障がい者

【日常の活動】

「生活介護事業所わくら」：生活介護/定員 20 名/1 日平均利用者 6 名作業と健康な体作りの 2 本立ての日課

●作業：障害が重くても、自ら働くことで生き生きした生活ができ余暇が楽しめメリハリある充実した日々繋がるという理念から利用者全員、個々の能力に応じた作業をする。現在はアルミ缶潰し（洗い・分別・収納・プルタブ外し・潰し）・ビーズ製品・機織り・布さき・ひもよりの作業がある。収益はあまり見込めない。社会の一員として働くことが目的である。

●健康な体作り：毎日ウォーキングを実施。個々の能力に応じコースを設定し 1 時間程度行う。送迎・給食提供・延長支援のサービス実施

①『わ・くらぶ』開催(7 月・12 月)

②『夏まつり』開催（8 月）：利用者の家族・ボランティア中心

③『わくらまつり』開催(11 月)：地域住民・賛助会員・ボランティア・アルミ缶回収協力者中心

④『わくわくデー』開催（月 2 回）：利用者心・地域住民講師

今年度 4 月：ホットケーキ、野菜苗植え　5 月：サツマイモさし、クッキー　6 月：歌の会、七夕飾り　7 月：夏野菜ピザ、夏まつり準備　8 月：夏野菜カレー　9 月：ドライブ、紙染め　10 月：サツマイモ収穫、スイートポテト　11 月：リトミック、カレンダー作成　12 月：クリスマスリース作り、ボウリング 1 月：書初め、凧作り凧揚げ　2 月：焼いも、フラワーアレンジメント　3 月：ドライブ、おもてなし

「利用者送迎のための軽車両の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

利用者送迎のための軽車両の購入

実施内容

・車両名：日産ルークス
・使用頻度：毎日
・使用状況：①利用者の「送迎サービス」（毎日）
②「ウオーキング」実施場所までの移動（毎日）
③「施設外活動」の際の移動（月に数回）
④「奉仕活動（海岸清掃）」の際の移動（月に 1 回）

得られた効果

購入以前は、既存の車両だけでは利用者・職員が乗車しきれないため、職員個人所有の私用車を代用せざるを得ない状況であった。そのため、一部の職員への負担や身体に障害のある利用者の乗降のしづらさ、安全面での不安等が課題となっていた。

今回、新車両を購入したことで、先述の課題は全て解消された。また、職員の私用車を予備の車両に回せることから、座席や送迎ルートに余裕ができたため、そこから時間的・精神的なゆとりが生まれ、より安全な運行ができるという効果も得られた。

今後の課題

今後、新たに利用者が増加していった際には、また送迎車両が不足することも考えられる。

音訳グループ 鈴の音

【所在地】　三重県鈴鹿市　　【対象者】　視覚障がい者

【日常の活動】

1　視覚障がい者の方への声のボランティア
　広報すずかの音訳（月 2 回）、週刊誌の音訳（月 2 回）
　市議会だより（年 5 回）、季刊誌「やまびこ」（年 3 回）
2　三重県視覚障害者支援センター、鈴鹿市立図書館への録音図書納入（17 タイトル/2020 年）
3　福祉イベントへの参加（年 1 回）、福祉運動会への参加（年 1 回）
4　視覚友の会との「ＳＳピンポン」交流（月 2 回）
5　料理本・旅行ガイド、家電取扱説明書の音訳、対面音訳の実施　など

「音訳活動のためのパソコン購入」

【助成額】　　19 万円

実施目的

現在使用中のデスクトップパソコンの不具合を
解消するための新しいパソコン導入

実施内容

・新パソコンの予約：2021. 9. 6
・新パソコン購入日：2021. 9. 15
・パソコンセットアップ：PRS（音訳ソフト「プレクストーク」）インストール：2021. 10. 9
・新パソコン設置場所：鈴鹿市白子駅前 6-33 子育て応援館はぐはぐ 講習室内録音室
　　設置日：2021. 10. 11
・会員への周知：2021. 10. 12 の例会で周知

得られた効果

・音訳ソフトの起動が速くなり、作業効率が向上した。
・新しいデスクトップパソコン導入により、画面も見やすく、
　キーボードの操作もスムースになった。

今後の課題

・音訳活動の録音機材の充実。
・新しい音訳者の育成。
・会員の音訳技術の向上

一般社団法人異才ネットワーク

https://isai-nw.jimdofree.com

【所在地】　滋賀県大津市　　【対象者】　発達障がい者、不登校児童生徒、保護者

【日常の活動】
①大津オルタナティブスクール「トライアンフ」
（不登校の小～中学生対象のフリースクール　週2回水・金曜日に開校）
②イヤにならない勉強教えます「異学舎」（個別学習指導、随時）
③生きづらさを抱えるギフテッド、２Eの会「シャイン」
（年4回程度、定員20名、Zoomによるオンライン開催、大津市内でリアル会場も設置）
④大人の発達凹凸の会「イロイロ」
（年4回程度、定員20名、Zoomによるオンライン開催、大津市内でリアル会場も設置）

「フリースクール生の学習用パソコンの購入」

【助成額】　　32 万円

実施目的

小・中学生の不登校児童生徒を対象とした大津オルタナティブスクールトライアンフにて、子どもたちが探求学習のためにネットを活用し学んだり、研究発表会でプレゼンテーションをするためにパソコンを購入し、不登校支援に役立てたい。

実施内容

（１）パソコン（ASUS)、マウス、DVD ドライブ購入
オルタナティブスクールトライアンフに通う子どもたちが自主的に自分の興味あることについてしらべ、パワーポイントを使ってスライドをつくり、研究発表会でプレゼンテーションをおこなった。
Google アースで海外の地形を調べ、興味のある国について調べた。

（２）パソコン（SENSE）
大津オルタナティブスクールトライアンフの開催場所である大津百町館のの PR 動画を作り編集のために活用した。

（３）IPad、ヘッドホン
子どもの漢字の学習のアプリをとりいれ、多様な学び方をとりいれ、子どもの興味関心を拡張するように学習支援を行う。スクール生に小学校低学年が増え、また学習障害など学び方の違いにより学校にフィットしない子どもがいるため、漢字のアプリや計算のアプリなど、ゲーム感覚で楽しみながら学べるように配慮していきたい。音過敏な子どももいるためヘッドホンを購入した。

得られた効果

学校にフィットせず、不登校となった子どもたちやその保護者はどうして自分だけが学校に行けないのかと悩み、学習もおくれ、暗いトンネルに入ったかのように感じる。しかし、当スクールに通うことで生活リズムも整い、また自分の興味関心をもつことを探求し、そのことを発表、周囲からすごいねといってもらえることで、自尊心を育み、さらにステップアップし、高校ではそれぞれのペースで復学するようになる。またその様子を見ている子どもが、来年は自分も挑戦してみようと思うことは子どもの可能性を伸ばすことにつながっている。その基盤を整えるために、なかなか当会の財政面では厳しいなか、パソコン購入の助成をしたいただき、子どもたちの学習に役立てることができ感謝している。

今後の課題

不登校児童生徒が増える中、安心で安全な居場所を提供するために、現状よりも広いスペースが必要となって来た。来年度は移転を考え、さらに多くの子どもたちが参加できる居場所をかんがえていきたい。不登校支援活動をする中で、「不登校は問題行動ではない」「不登校であってもありのままの自分でいい」という思いを伝えようとしてきたが、実際には地域にもよるであろうが、「子どもが騒がしくするのがイヤ」「居場所づくりのような不特定多数の者が出入りする用途では貸せない」「リフォームは不可」という物件がおおく、不登校となった子どもが学校では対応されず、社会の中でも排除されている現実をみるとまだまだ不登校の問題が社会に受け入れられていないと感じる。子どもの健全な育ちに社会全体が目を向け、学校に行っていない子どもにも温かい環境を用意できるように啓発活動を続けていきたい。

社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会

https://www.kyoto-chogen.or.jp

【所在地】　京都府京都市　　【対象者】　聴覚障がい者

【日常の活動】

・1か所（行動援護、短期入所、放課後等デイ、聴覚障害者情報提供施設、自立訓練、難聴幼児サポートセンター、介護老人福祉施設、介護予防短期入所生活介護、短期入所生活介護、介護予防訪問介護、介護予防認知症対応型共同生活介護、介護予防短期利用共同生活介護、短期利用共同生活介護）
・2か所（居宅介護、重度訪問介護、共同生活援助、介護予防通所介護、通所介護、訪問介護、介護予防支援、居宅介護支援、地域包括支援センター）　・3か所（施設入所支援、就労継続支援B型）
・4か所（生活介護）　・5か所（障害児相談支援）　・6か所（地域活動支援センター）
・10か所(意思疎通支援者の派遣・養成）　・11か所(計画相談支援）　・13か所(地域相談支援)
・診療所、映像への手話・字幕挿入事業、手話研修事業、企業研修事業など

「福祉避難所に設置する防災用品の購入」

【助成額】　85 万円

実施目的

①「聴覚障害者に特化した福祉避難所開設」は全国的に聴覚障害者の災害対策が進んでいないことに加え、これまでの全国で起こっている災害時において、聴覚障害者の困難性は高い。災害時に聴覚障害者が視覚による情報保障、コミュニケーション保障が確立された避難所にて安心した生活が出来る環境づくりを確立する。
②先行的に実施展開し、その内容の成果を全国的に普及させるための運動的展開を図る。

実施内容

1ダンボールベッド「ニュー干拓ん」20 大・布団 20 組・寝袋 20 組
福祉避難所でのベッド・寝具として購入。
福祉避難所訓練にて、実際に段ボールベッドを組み立て、布団を設置した。
②ブギーボード 20 個
福祉避難所での情報保障に使用。福祉避難所訓練にて、実際に聴覚障害者とのコミュニケーションで活用。
③アンブルボード（6 セット）
福祉避難所にて、情報保障・情報共有に使用。福祉避難所訓練にて、実際に活用。
④日本製防災用ヘルメット・３LED ヘッドランプ 30 個
ヘルメットにヘッドランプを装用する形で使用。
災害時停電した際でも安全にかつ安心して避難や安否確認等をする。福祉避難所訓練にて、実際に活用。
⑤反射ビブス 30 個
停電時、暗くても、支援者を見てわかるようにする。福祉避難所訓練にて、実際に活用。

⑥透明マスク 50 個

避難所生活では手話を使用したコミュニケーション方法をとるため。

１個使ったら保存不可になるため、今回の福祉避難所訓練には使用していない。

今後、災害時に活用できるよう、毎年実施する福祉避難所訓練の際には活用する予定である。

得られた効果

福祉避難所のための環境整備、マニュアル作成、訓練を実施したことにより、災害時に聴覚障害者が安心して福祉避難所が使える体制が整った。

＜訓練実施の効果＞

・元の構想では、パーティションを畳んだ机で代用することを考えていたが、段ボールベッド・寝具をセッティングした上で机を並べると、個人スペースが非常に狭く足元がつまずきやすくなることが訓練にて分かるなど、必要な物品の整理が出来、より利用者が過ごしやすい空間づくりが達成された。

・アンブルボード・ブギーボードの活用により福祉避難所入所者が安心して情報を獲得できるための整理をすることが出来た。

・段ボールベッド設営や布団設置、利用者が来館してからアセスメントを行うなど一連の流れを訓練し、福祉避難所を開設するにあたって所要時間や改善が必要な箇所等を再確認し、参集職員誰でもすぐに対応できるよう、マニュアルに反映し、より確実な計画の策定が出来た。

＜成果＞

・避難訓練を毎年実施することで、発災時にはマニュアルや訓練の経験に基づいて事業を実施することができる。熊本視察の際に、熊本地震の時聴覚障害者の多くは、避難所ではまともな情報保障が得られず、車中泊を行ったことが分かった。福祉避難所整備事業は、聴覚障害者の命や健康を救い、視覚情報を用いた支援ができる、大きな成果につながったと考える。

今後の課題

マニュアル作成や訓練実施を通して災害に関しては様々な課題が明らかになった。

・夏や冬に災害時、停電時が長期間続いた場合はどのように命を守るのか課題が残った。自家発電の購入等、検討が必要である。

・飲料水や食事が確実に確保できるのか、事前に施設内で飲料水の準備をしておく必要がある。

・京都府下に住む聴覚障害者の安否確認を行う際の整備については、現在進行しているが、まだ道半ばである。災害時でも、京都府下に住む聴覚障害者が安心して、平和で文化的、豊かで明るい日本を築くためにも、これまで以上に手を取り合い整備し、京都府だけでなく、全国を先導する責任を果たすべきだと考える。

特定非営利活動法人セヤナ

https://nposeyana.wixsite.com/nposeyana

【所在地】　大阪府寝屋川市　　【対象者】　発達障がい者、知的障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

1、ダウン症児ママの交流会(1～2ヶ月に1回の予定)

2、人員派遣

1）フリースクールへの学習補助員の派遣（週1回）

2）生活介護施設へのダンスインストラクターの派遣（月1回）

3）児童発達支援施設へのダンスインストラクターの派遣（月1回）

4）保育園へのダンスインストラクターの派遣（依頼時）

「ダウン症児の親の交流会のためのパソコン関連機器の購入」

【助成額】　　26 万円

実施目的

ダウン症児の親の交流会を開催することで、悩みや不安を軽減できる機会を提供し、参加者の育児がより楽しくなることを目的とする。

実施内容

①2021 年 4 月 29 日 ダウン症の方の写真展

②2021 年 6 月 30 日 ダウン症児のパパの交流会

③2021 年 11 月 16 日 助産師を対象とした勉強会「ダウン症児ママへの関わりについて」

④2022 年 1 月 17 日 助産師を対象とした勉強会「ダウン症児ママへの関わりについて」

⑤2022 年 3 月 21 日 ダウン症の方の写真展＆交流会

上記のイベントにおいて、本事業で購入した物品を以下のように使用した。

1、パソコンの購入(2021 年 9 月 17 日に購入)

③④の勉強会では、資料のパワーポイントを作成するために使用した。また、ZOOM で実施したため、ZOOM 接続時にも使用した。また、勉強会の様子を録画したものを、当日参加できなかった助産師が後日閲覧できるように設定する際にも使用した。

⑤の写真展＆交流会では、企画書作りやチラシ作り、写真の管理・印刷、参加者への連絡など、多くの場面で本パソコンを使用した。

2、カメラの購入(2021 年 9 月 17 日に購入)

③④の勉強会では、カメラをパソコンに接続し、ZOOM 配信する際に使用した。

⑤の写真展＆交流会では、本カメラで撮影したダウン症家族の写真を展示した。また、当日の様子を撮影するのにも使用した。

3、編集ソフトの購入(2021 年 9 月 11 日に購入)

③④の勉強会では、前年度に実施した交流会の様子（録画映像）を参加した助産師に見てもらったが、映像

の中の重要なポイントのみをまとめる編集をする際に、本編集ソフトを使用した。また、勉強会の様子を録画したものを、当日参加できなかった助産師が後日閲覧できるように動画編集する際にも使用した。

得られた効果

③④の勉強会では、32 人の助産師が参加してくれた。コロナ禍であり病院での実施は難しかったが、ZOOM を使うことで、多くの人に参加してもらえた。パソコン・カメラという機器があってこそ整えられた環境だった。また、ダウン症児ママのリアルな声を、編集動画を使って届けることができた。助産師からは「ママたちのリアルな声が聞けて、勉強になった。今後のケアに活かしたい。」との感想をもらった。
⑤写真展＆交流会では、ダウン症家族 18 組が参加してくれた。展示写真を見てもらったり、トークショー・ダンスタイムなどを通して交流できる場を作った。生後 7 ヶ月のダウン症児を育てる父母からは「初めてダウン症のお友達ができて、心強い気持ちになった。」との感想をもらった。ダウン症とは関係のない一般の人からも、「ダウン症に対してこれといったイメージはなかったが、写真を見て良いイメージが強くなった」との感想をもらった。カメラやパソコンといった物品が購入できたからこそ、実施できたイベントだった。

今後の課題

今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、オフラインでの交流会開催は積極的には行えなかった。
ZOOM などオンラインを使って交流会を行うことも考えたが、ダウン症のある方にとって、画面越しに会話をしたり、画面に向かい続けるというのは難しいことがある。そうすると親も子供が気になって話にくくなったり、会話が途切れてしまったりする。今後は感染予防をしっかりしつつ、親も子供も気兼ねなく交流できる場を提供していけたらと思う。また、新型コロナウイルス感染拡大により、医療者のスケジュールの調整が難しく、申請時に予定していた医療者とダウン症ママの交流も行えなかった。感染拡大状況をみつつ、今後実施していけたらと思う。

ロンド健康運動プロジェクト

【所在地】　大阪府東大阪市　　【対象者】　知的障がい者

【日常の活動】

◆運動による生活習慣病予防、ロコモ・フレイル等予防、認知症予防の啓発活動

①健康運動プログラムの無料体験会「ラダーエクササイズ体験会」の実施（2017年6月～現在）

②保護者向け健康運動教室の開催2017年4月～2018年3月）

◆健康運動プログラムの企画、開発、指導等

①知的障害者とその保護者を対象とした生活習慣病＆ロコモ予防教室「てくてくラダー教室」の運営（2019年4月～現在）

②放課後等デイサービスを対象とした運動指導のコンサルティング（2019年5月～現在）

③対象者を限定しない健康運動イベントを年2回のペースで開催

「知的障がい者を対象とした健康運動教室の運動用備品の購入」

【助成額】　16 万円

実施目的

⑴障がい者本人及びその保護者、家族、支援者に対する生活習慣病予防、介護・認知症予防の啓発

⑵運動を通して知的障がい者の生活習慣病予防、介護・認知症予防を行う

⑶安全かつ効果的な運動プログラムの開発・普及

⑷指導者の育成

実施内容

◇物品購入

以下の物品を購入済み。当団体が主催する全てのラダーエクササイズ体験会で使用中。

保管は当団体事務局にて管理。

・ラダートレーナー

全 6 基購入。分割可能なラダーであり、長さの調節が可能。

運動のレパートリーを格段に増やすことが出来た。

・スラックレール

エスタイプ（90 ㎝）を全 36 本を購入。

手軽に体幹のトレーニングができ、また足裏のトレーニングにも最適。

教室運営上のマストツールとして使用中。

また屋外のウォーキングプログラムで活動の最後のクールダウンに使用している。

・運動ツール運搬用バッグ

上記の運動ツールを保管・運搬する際に使用するバッグを購入。

防水性のある大容量のトートバッグ。ラダーやスラックレール等の運搬時に活躍中。

得られた効果

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う緊急事態宣言やオミクロン株の蔓延により、当初予定していた活動は大幅に縮小せざるを得ない状況となった。特にラダーエクササイズを中心とした屋内プログラムは体験会を十分に開催することができず、教室化の目処がついていない。
一方、感染者数増減の波の谷間を狙って実施したノルディックウォーキング体験会は好評をいただいており、リピート参加も増えている。
ご参加いただいた方々には運動プログラムの意義と楽しさを体感していただくことができているので、今後もこの活動を継続していきたいと考えている。

今後の課題

新型コロナウイルス感染症の再流行が生じる恐れは否定できず、屋内プログラム、屋外プログラムともにスケジュールの設定および広報活動において難しい判断が求められる。しかしながら当団体の健康運動プログラムを期待するお声も少なからず頂いており、その答えに応えるべく試行錯誤を繰り返しながら活動を維持していく責任を感じている。いずれ訪れるであろうアフターコロナの時期に向けて地道な活動を行っていく。

特定非営利活動法人縁

https://yukariwork-hinata.or.jp

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

・就労継続支援B型（１か所）　・移動支援（１か所）　・居宅サービス（１か所）
・グループホーム（１か所）　・子ども食堂（週１回）　・地域食堂（週１回）　・子ども塾（週１回）

「リフト付き車両購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

当事業所ご利用者の中には、車椅子で生活をされている方々、
足の不自由な方々が多数おられます。そのような方が一人でも
多く安心安全に日常生活をしていただくとともに、車での外出時
その方々が安心安全な環境で車両への搭乗をしていただけること
を目的としリフト付き車両購入を検討しております。

実施内容

◇車両購入

・車両名：日産セレナ
・使用頻度：毎日
・どのように使用しているのか：
　利用者さんのスーパーへの買い物や病院などの通院時の送迎など

得られた効果

スーパーへの買い物や病院等の通院時の送迎時には足腰の負担なく行かれ、お花見などのレジャーも楽しんでいただけておられます。

今後の課題

社会的支援を必要とするすべての人々がともに生きてゆける地域社会、共生社会づくりに寄与することを課題としております。

一般財団法人カナウ

http://bari-furi.biz

【所在地】　兵庫県神戸市灘区　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

●就労継続支援B型　●放課後等デイサービス　●居宅介護／同行援護／移動支援

●ゆめのはこプロジェクト

・アートイベント（年1回）　・School&Salon（不定期）　・ハートフルショップ（月1回）

「マイクロキャンバス製造のための作業器具の購入」

【助成額】　33 万円

実施目的

「神戸マイクロキャンバスプロジェクト」のマイクロキャンバス製造元として、就労支援事業所の利用者が当該作業に関われるよう、安定した品質、生産数を可能にすること。

実施内容

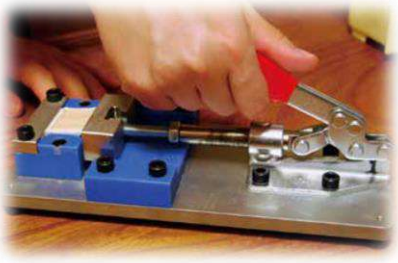
【作業器具の開発と製造】

① 作業工程の内容に合わせて、効率化を図りながら、治具等の開発と改良を重ねていく。

② わずか30mm×25mm×6mm 内での精密さを必要とするため、金属加工業者へ製造を依頼する。

③ 完成した器具等を使用し、利用者や支援員への技術指導等を行う。

④ 更に調整を重ね、作業効率の向上を目指していく。



得られた効果

- 生産数の増量と共に、ロス数が大幅に減少した。
- 安定した品質の実現。（貼付時の中央配置、鋲の打込位置や圧力の均一化など）
- 製造工程が多様な中でも、多くの利用者が各工程別に製造作業に関われるようになった。

今後の課題

SDG's理念のもと、「神戸マイクロキャンバスプロジェクト」製造元のネットワークを、神戸市内の就労支援事業所等を中心に開拓し、拡げていくことで生産数を増やし、今後の大口受注等にも対応してゆきたい。（現在、神戸市社会福祉協議会を窓口として、参加事業所を募っている）また、マイクロキャンバス展を他府県でも積極的に開催することで認知度を広め、マイクロキャンバスの更なる可能性において新商品展開を提案し、アートの仕事化を目指してゆく。

社会福祉法人みらい

https://www.3rai.jp

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

・児童発達支援センター１か所・児童発達支援事業所２か所・指定相談支援事業所１か所
・放課後等デイサービス２か所・就労移行支援事業所１か所・就労継続支援Ａ型１か所
・就労継続支援Ｂ型２か所(多機能含)・生活介護１か所(多機能含)・短期入所１か所
・神戸市障害者スポーツ大会への参加
・神戸市障害者芸術フェスティバルへの出展
・年に１度みらいおもいけフェスタとして地域の方との交流
（今年度は中止、来年度は園関係者のみで実施予定）

「コーヒー焙煎機の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

就労継続支援 B 型の作業として、新たにコーヒー焙煎事業を始めるため。

実施内容

株式会社富士珈機　コーヒーロースター　R-101 の購入

就労継続支援 B 型の作業として新たにコーヒー焙煎事業を始めるにあたり、購入。
コーヒー豆の焙煎自体は職員が行い、主に焙煎豆の袋詰め、コーヒー豆を挽いた粉の袋詰め、ドリップバッグ詰め、不良豆のハンドピック等を利用者様が行っている。
週に 2 日ほど焙煎機は稼働しており、１度の稼働で焙煎豆が 600ｇできる。

得られた効果

利用者様の作業の幅が増えている。また、焙煎機が届くまでは協力会社である石光商事に焙煎機を借りていたが、今後は自家焙煎が可能となり、注文に柔軟な対応が可能となった。また、コーヒー焙煎事業を開始したことにより、機械以外の初期投資もありながら、利用者様の工賃が微増となった。
焙煎機の届く前のことではあるが、近隣のマルシェに出店し、利用者様の貴重な社会経験となっている。今後も出店予定。

今後の課題

固定客を作る、販売方法を増やすといったところが挙げられる。
固定客がつかなければ、継続した売上が期待できない。商品はいいものを提供していると思うので、まずは見知ってもらうところから始めている。
販売方法については、ネットショップを開設中であり、全国どこからでも注文してもらえるように考えている。また、ネット注文ができると注文してもらうための手間が大幅に減るので、注文してもらうまでの壁が少なくなると考えている。

社会福祉法人シャローム福祉会

https://www.bochibochi-shalom.net/

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　知的障がい者

【日常の活動】

「シャローム」：就労継続支援B型／定員15名／１日平均利用者10名

手漉きの紙・ビーズ・利用者が栽培したハーブを使った小物の製造販売、障害者団体等からの下請け内職（機関紙の印刷発送等）

「新設グループホームの家具購入」

【助成額】　　58 万円

実施目的

新設するグループホームで使用する、家具の購入。
知的障害のある入居者にとって安全で居心地の良い住環境の提供と、地域の人々が集まりやすい交流スペースの創出のための備品の整備。

実施内容

共用のリビング、ショートステイ室、多目的室の備品の整備。

○共用リビング

テーブル 2 台、イス 8 脚、ベンチベッド 1 組、防炎カーテンの購入。　食事や余暇の時間に使用。

○ショートステイ室

畳ベッド 1 台、防炎カーテンの購入。ショートステイの受け入れは 12 月からの予定。

○多目的室

折りたたみベッド 1 台、イス 4 脚、防炎カーテンの購入。ベッドは夜勤職員の仮眠のために使用。
イスは面談、ミーティング等に使用。

得られた効果

①リビングのテーブル 2 台・イス 8 脚とベンチベッド 1 組と防炎カーテン

・多くの方が使いやすいようにと 2 種類の高さのテーブルとイスを購入しました。
目的の通り、入居者の方々はそれぞれお気に入りの場所を見つけて席についているようです。
どちらも折りたたむことができて、掃除をするときやリビングを広く使いたい時に便利です。

・ベンチベッドは日常的には入居者がくつろぐベンチとして利用されています。
ベッドとしては緊急時の利用を想定しています。

②ショートステイ室の畳ベッドと防炎カーテン

・ショートステイの受け入れは 12 月の予定なので、布団やタンスを用意して受け入れの準備をしています。

③多目的室の折たたみベッドとイス 4 脚と防炎カーテン

・折りたたみベッドは夜勤の職員が仮眠に使っています。
　普段は折りたたんでいるので、多目的室で話し合いをするときなどにも邪魔になりません。

今後の課題

グループホームが開所したのは 2021 年 8 月 1 日です。入居者も職員も皆が初めてのことばかりですが、新しい生活に少しずつ慣れてきています。

日常的には、入居者の生活習慣の違いからくる大小さまざまなトラブルの解消、12 月に予定されているショートステイの実施に向けて、入居者の心理的安定の維持が求められています。そのため、職員との信頼関係の確立、安定した支援を行うため職員の確保、職員研修を重ね技術の向上などが、今後の課題となっています。

また、1 階にある共用のリビングは地域に開かれた場としての役割もあります。入居者の地域での生活を通して気づく地域のニーズに対し、地域で活動している団体などと協力して、解決への道筋を具体化するのがこれからの大きな課題です。

特定非営利活動法人きたベジファーム

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

「きたベジふぁーむ」：就労継続支援B型/定員20名/1日平均利用者7名

野菜を多品目栽培し、直売所で委託販売、近隣農家からの作業受託

「農作業用軽貨物車両の購入」

【助成額】　98 万円

実施目的

利用者の移動や野菜の運搬を効率的に行うため

実施内容

◇車両購入

日産 NV100 クリッパー 5 ドアバン ハイルーフ

週 5 日、利用者の移動、収穫物の運搬、納品に使用しています。

得られた効果

・軽貨物車両が増えたことにより、細かな利用者の移動や収穫物の運搬を行い機動性が向上した。

・ガソリン価格が高騰していて、燃費効率の良い軽貨物の新車両を導入できたことにより、燃料費を削減できている。

今後の課題

・畑が点在しているため、栽培管理が不十分なところがあったが、本事業の車両を活用し、栽培管理を充実し、生産量を高めていきたい。

・有機栽培を行っており、今後有機 JAS 認証の取得を目指し、神戸市灘区に販売拠点を整備し、阪神間で販売を行い、売上を向上していきたい。

社会福祉法人兵庫盲導犬協会

https://www.moudouken.org

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　視覚障がい者

【日常の活動】

1. 盲導犬育成事業
   盲導犬の繁殖、育成、訓練管理
2. 無償貸与事業
   盲導犬使用者に対する訓練及び社会参加のための支援、福祉サービスの提供
3. 盲導犬啓発事業
   学校講演、一般講演、見学会、イベント参加、街頭募金

「新中山記念会館　新オフィスに必要な備品購入」

【助成額】　96 万円

実施目的

中山記念会館に入居される視覚障がい者福祉団体様と連携し社会福祉の向上を目指すために新オフィスに必要な備品を購入する。

実施内容

・DELL ノートパソコン Vostro5510 3 台
VPN（バーチャルプライベートネットワーク）を活用し、本所のＰＣ システムをそのまま活用するとができ、スムーズに業務が連携できています。
・ヘッドセット 2 台
オンラインの会議やセミナー参加時に活用しています。
・ＤＶＤドライブ 2 台
啓発用ＤＶＤ資料の読み取り、書き出しに活用しています。
・バックパック１個
ノート PC を外部や本所に持っていくときに活用しています。
・複合機 ＯＫＩコアフィード ＭＣ８６３ＤＮＷＶ １台
コピー、FAX、スキャナーを毎日フルに使うことにより本所との連携が非常にスムーズになっている。
・プラス 両面ホワイトボード 1307 １台
会議の時、議題の表記、内容の説明書きに使っています。
・ＴＲＵＳＣＯ　月予定表　ＧＬ－６２２　１台
月間のイベント、募金活動、その他行事が一目でわかります。
・パーテーション　フラッドシップスレンディー3 連　2 台
奥の会議テーブルスペースと事務局、来場者スペースが半透明で明るく区切られています。

・テプラ
　次々増えていくファイルの見出し作りに欠かせません。
・シュレッダー
　不要な書類、個人情報書類の処分に毎日フルに使っています。
・空気清浄機
　毎日フルタイムで使っています。空気と湿度を調整して快適な環境になり、人にも犬にも有効です。
・掃除機
　犬がオフィスに滞在した後は、どうしても毛が抜けるため掃除機は必須です。適時使っています。

・ＴＶ32 インチ
　お昼休みのニュースや天気予報など情報収集のため毎日使っています。
・冷蔵庫
　来客用、職員個人用にお茶、ジュース、水を保存しています。
・電子レンジ
　食品や飲料の温めに毎日使っています。
・電気ケトル
　来客者や職員のお茶、コーヒーのお湯沸かしに毎日使っています。
・掛け時計
　白黒で障がい者にも見やすい時計で、評判も良いです。
・傘立てとハンガーラック
　来客者がある時に使っています。

得られた効果

サテライトオフィスに必要な事務備品は、PC や複合機など全て購入することができたことで、本事業所と同じ事務作業が可能となり、またその他の備品も揃い来訪者を迎える体制を整えることができました。同フロアーの視覚障がい者支援の団体様には多くの来場者があり、当協会オフィスにもお立ち寄りいただき、お話をさせていただいた結果、将来盲導犬を持ちたいという方がすでに 1 名おられ、貸与に向けて話しを進めております。如何なることにも本事業所とサテライトオフィスがスムーズにストレスなく連携し、業務を進めていくことか可能となりました。

今後の課題

今後、来所が予想される多くの視覚障がい者に盲導犬について興味を持ってもらえるように、その良さを分かってもらえるように努めます。将来的には盲導犬との歩行を希望する視覚障がい者が増えてくると予想されますが、その状況に迅速に対応するための訓練犬の育成を急ぐ必要があります。現在、当協会では訓練士の人員が充分とはいえず、先ずは職員の育成を行いながら同時に盲導犬の育成も進めてゆく計画です。このオフィスを盲導犬ユーザーの開拓、そして訓練士と盲導犬を育成するための活動拠点として如何に活用していくかが当協会の今後の課題です。

特定非営利活動法人いろは

【所在地】　兵庫県姫路市　【対象者】　発達障がい児

【日常の活動】
児童福祉法による障害児通所事業
地域への啓発事業及び交流事業
- 福祉関係の映画上映会
  ドキュメンタリー映画「ゆうやけ子どもクラブ」予定
- 放課後等デイサービス　てとて　において夏祭り等の企画

「送迎用車両の購入」

【助成額】　65 万円

実施目的

利用者の増員(1 日平均 9 名)に伴い広範囲の利用者送迎が必要になり増車が必要であった。またコロナ禍の状況であり過密を避けるために 1 台当たりの乗車人員を減らすことが必然であった。

実施内容

7 人乗りの普通自動車を購入予定で 5 月より貸借契約を月額 3 万円で 6 か月間貸借いたしました。
8 月に助成が確定し見積金額通りの 818, 200 円を 9 月 24 日に振り込みました。
車両名はトヨタ シエンタ 1500cc ガソリン車です。
使用頻度は月曜から金曜までの週 5 日、学校から事業所、事業所から自宅までの送迎に毎日活用しております。祭日も営業しているため離れた公園などへの外出にも活用しております。

得られた効果

当初は 5 人乗りの普通自動車を予定しておりましたが、中古車両のため在庫としてはなくなり、新たに乗車定員 7 名の車両(シエンタ)を探して賃貸することができ送迎の運行面で余裕ができるとともに乗車する子供たちにも座席の余裕ができ乗りやすい車として認識されました。運転する職員にとっても車両が 7 人乗りであっても狭い道なども運転がしやすく乗りやすいとの評価がありました。

今後の課題

2020 年 4 月の開設から 1 年半がたち利用する子供たちも 1 日平均 9 名と増加を図ることができ運営自体も安定してきました。今後は 1 年生から高校生までの幅のある年齢の子供たち一人一人が満足できるサービスを継続し提供することが課題であります。もう一つ大きな課題は支援者の継続した確保と一人一人の人材としての向上があります。運営が安定、定着する中で 2 か所目の事業所へと展開を目指したいと思います。

Kiguchi Foundation
公益財団法人 木口福祉財団 助成
放課後等デイサービス
てとて

特定非営利活動法人兵庫県若者らの自立を考える連絡会

www.http/himawari-aboshi.com/

【所在地】　兵庫県姫路市　　【対象者】　精神障がい者、身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】
姫路市より農業法人に認定され、自社農園で作物を作り、販売し、加工商品を作っています。

「農作物用プレハブ冷蔵庫の購入」

【助成額】　　80 万円

実施目的

作物の一時保管場所の確保

実施内容

冷蔵庫の購入

得られた効果

早くも効果絶大です。ジャガイモの芽が留まり、保管状態が良好なのでジャガイモの販売に拍車がかかっている。

今後の課題

できた作物の販売先の拡大に努める。

点訳グループふれあい

【所在地】　兵庫県姫路市　　【対象者】　視覚障がい者

【日常の活動】

■点訳図書の作成　■点訳図書の貸し出し・文庫活動　■個人や団体からの依頼物の点訳

■市内小学校での依頼による点字講習会（2018年度15校、19年度10校、20年度9校）

「点字両面同時プリンターの購入」

【助成額】　　99 万円

実施目的

視覚障がい者・各種団体から、要望や依頼があったものを、できるだけ短時間で点訳し、点字物にしてお届けする。

実施内容

「点字両面同時プリンター ESA919」を購入
2022 年 2 月 9 日に「点字両面同時プリンター ESA919」が納入され、姫路市総合福祉会館 2 階の、ボランティア活動室に隣接している印刷室に設置し、週二日の活動日に、パソコン点訳した点訳図書の、点字印刷に使用しています。

得られた効果

従来の点字プリンターに比べ、処理能力も若干アップしており、1 年のうち最も忙しい 3 月・4 月に、従来のプリンターと合わせて使用することで、視覚障がい者・各種団体からの要望に対して、あまり待たせることなく対応できています。また、点字プリンターが故障して、修理が必要になっても、視覚障がい者・各種団体に以前ほどの大きな迷惑を掛けずに対応できます。

今後の課題

新たなボランティアを養成するための講習会を開いても、10 年以上前ほどの受講者が集まらず、コロナの影響もあって、この 2 年はその講習会も行えていません。ボランティア会員の高齢化と、それによる人数の減少が、最大の課題です。また、保有パソコンの約半数が、WindowsXP 以前の物で、インターネットは使っていませんが、近い将来、それらが老朽化により使えなくなることも、課題の一つです。

特定非営利活動法人みんなのいえ

https://npominnanoie.com/

【所在地】　兵庫県姫路市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者

【日常の活動】
生活介護（1か所）、デイサービス（2カ所）、ヘルパーステーション（1か所）、居宅介護（1か所）、
障害共同生活・短期入所（1 か所）
地域サロン※新型コロナの影響で現在は休止中
・地域住民の交流支援事業、ふれあいイベント開催
・100歳いきいき体操を週3回開催

「グループホームの冷蔵庫の購入」

【助成額】　19 万円

実施目的

障がい者の女性専用グループホームの老朽化した
冷蔵庫の購入（買い替え）

実施内容

グループホームで日常的に使用している冷蔵庫の
老朽化による買い替え。
（容量 520L タイプへ大型化）

得られた効果

容量の大きい冷蔵庫に変わったので、以前は週 3 階の買い物後に、
特に冷蔵庫が一杯でしっかりと閉まりにくくて、少し溶けたよう
になっていましたが、完全に収納できるようになりました。
冷蔵庫の棚やポケットも多く、利用者様がパッと見てどこに何が
あるのかすぐに分かるので、とても使いやすくなったと喜ばれています。

今後の課題

グループホームかめハウスでは現在定員 6 名のところ 5 名入所されています。
コロナが落ち着いてきたら残りの一部屋の入所者を受け入れて、さらにある程度自立してきた利用者様向けに
2～3 名のサテライト事業所を設立し、できるだけ自分たちの力で社会生活を送れるような場所を作っていきたいです。

特定非営利活動法人姫路市立生活支援センター

http://www11.plala.or.jp/himejiil/

【所在地】　兵庫県姫路市　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

○居宅介護事業所「えんじょい」

提供しているサービス一覧　・重度訪問介護　・身体介護　・家事援助　・移動支援　・同行援護

○多機能型事業所「りぷるす」

生活介護と就労B型を運営

○アテンダント

有料の介助者派遣を行います。

○ピアカウンセリング

障害を持つ方が自分らしく生きられるようサポートします。

○自立生活プログラム

一歩前に出る力をともに考えサポートします。

○機関誌発行

1年4回の定期発行を行います。

○まちづくり

権利擁護活動当事者の立場に立った支援をし、誰もが社会参加できるまちづくりの実現を行います。

「障がいのある方の活動啓発のためのパソコン関連機器の購入」

【助成額】　52 万円

実施目的

私たち障害当事者の活動を様々な方に知っていただきたいと思い、駅前に事業所を構えています。さらに周辺のかただけでなく、さらにもっと広い範囲の方にも自分たちの活動を発信したいという利用者の思いから、インターネットでの動画配信をして世界に発信して、我々の事を知っていただきたいと考えています。

実施内容

①アクションカメラ　１台（２事業所で兼用）

ＧｏＰｒｏ　ＭＡＸ

②動画編集ソフト　２ライセンス

Ａｄｏｂｅ　Ｐｒｅｍｉｅｒｅ　Ｅｌｅｍｅｎｔｓ（各事業所１ライセンス）

③ノートパソコン（Ｏｆｆｉｃｅあり）２台

動画編集に適したノートPC（各事業所２台）

④ディスプレイと、ディスプレイ用アーム

サイズ：２７型（障害のある方が見やすい画面で作業ができるように）

上記の機材購入をおこないました。

得られた効果

成果について

当センターの利用者の活動を動画により、配信する事が始めての事であり、現在通所事業で「ボッチャ」と言うパラスポーツを実施しており、その様子を撮影する等、配信へ向けて準備をしている段階ですので、成果が現れるまでに、もうしばらくお時間をいただく必要があります。

効果について

私たち障害当事者の活動の模様を世界へ発信する事で、多くの方に我々の活動を知っていただく事に繋がり、障害当事者が、障がいの有無に関わらず地域で暮らすことのできる社会を築く一歩となる活動に繋がって行くと考えております。

今後の課題

当センターを利用している障害当事者の多くは、家族との生活を送っている方が多く、幼少期の事から、周りには親、先生等多くの大人が居て、知らず知らずのうちに自分自身で決めるべきことも周りの大人が決めている等、自分自身で「決め」「行動する」機会が少ない方が多いので、成功体験が少なく自分に自信を持てない方が多くおられます。自分たちの活動を自ら発信できるようになる事で、自分たちの思いを周りに発信する機会が増え、自分に自信を持つきっかけとなるはずです。このような活動に力を入れることで、地域の方々との交流機会の向上に繋がり、共生社会の第１歩へ繋げていきたいと考えております。

すもと高齢社会をよくする会

【所在地】　兵庫県洲本市　　【対象者】　視覚障がい者

【日常の活動】

■運営委員会の開催（月1回）運営委員が集まり、課題解決にむけての活動を検討します。

■講演会・フォーラムの開催（年１～２回）“障がいを持つ人々が地域で暮らすためには”“ともに生きるとは”など専門家の話を聞き会員の意識を高めてきました。認知症・フレイル予防にも取り組んでいます。

■学習会の開催（年２～３回）　介護保険制度に関することや、交通手段を持たない人の外出の問題について、生活バス学習会として継続した学習会を開催しています。

■視察研修　地域づくり等の先進地への視察を行い、活動の糧にしています。

■ボランテイア活動の支援

「ボランティア活動のための複合機の購入」

【助成額】　　52 万円

実施目的

複合機を購入し、障がい者や高齢者等を支援するボランティアグループ活動に活用する。

実施内容

キャノン　image RUNNER ADVANCE DX C3720F A3 カラー複合機の購入。
障がい者・高齢者等を支援するボランティアグループの活動に必要な資料等を作成するため必要な複合機を購入した。洲本市総合福祉会館にあるボランティア交流室に設置し、各ボランティアグループが必要な時に使用する。朗読ボランティアの原稿作成・機関紙の作成・会議や研修会資料の作成等に使用する。
年間１ 万枚程度使用。

得られた効果

複合機の機能がアップしており、資料作成が安易になりスピードアップしたことにより、活動の効率アップにつながっている。
各グループが負担する経費も安価となり、活動経費の負担軽減となっている。共用するボランテイアグループ間の連携が深まった。

今後の課題

本会の会員の高齢化・新規会員の減少等により、本会の活動目的を達成するための活動力が低下しつつあるため、会員を増やすためのPR活動が課題となっている。そのための情報発信手段として複合機を活用していきたい。

だれもが地域で安心して暮らしていけるよう、必要な情報提供・意識啓発を行っていきたい。

特定非営利活動法人元気アップみのり

【所在地】　兵庫県相生市　　【対象者】　精神障がい者、身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】
障害者就労継続支援B型事業の運営

「シフォンケーキ用の大型冷凍設備の導入」

【助成額】　　70 万円

実施目的

従来受注生産だったシフォンケーキを冷凍保存することで常時注文に応じられる体制を作り、バザーなどの中止で売上が低下した製菓事業部を立て直す。

実施内容

ホシザキ阪神の業務用大型冷凍庫（HF-90AT）と台下冷蔵庫(RT-180G)の購入
　旧式のショーケース型冷蔵庫を除却して、代わりに縦型の大型冷凍庫を同じ場所に設置した。
　調理台として事務用の机を 3 台並べて使っていたが、1 台を間引いて代わりに台下型の冷蔵庫を設置した。

得られた効果

事業実施のねらいは、製菓事業部の目玉商品であるシフォンケーキの売上倍増にある。
従来、当作業所のシフォンケーキは、バザー会場での店頭売りなどイベント時の売上の他は、予約生産を受ける形で販売をしてきた。直営の常設店舗は持たないため、コロナ禍でバザー等の催しがなくなり、もっぱら一部のシフォンケーキ・ファンからの予約注文に頼っているのが現状。しかも予約は一週間前までとなっているため、客からは「あそこはすぐにと言っても無理」と、少なからぬ不満が寄せられていた。これは大きな機会損失といえる。冷凍保存して自然解凍すれば風味の点でも問題ないとわかったので、日頃から平準生産も可能となる。急な注文にも対応できるとなれば、最低でも 2 割ほどの増収は充分可能と見込んでいる。

今後の課題

【製菓事業の課題】
今回の設備投資で製菓事業の精算・販売体制強化と収益の安定化ができたら、次は製造スタッフの強化である。現在、パートではあるが常勤(週 20Hr)の専任すタフが 1 名、あとは月 6 日の有償ボランティアの 2 名で回している。それで毎月約 10 万程度の売上である。今回の投資で 2 割の増収を見込むとしても、その時点でスタッフの負荷に限界が来ると思われるので、業績を見ながら正規の調理スタッフの採用を視野に入れておきたい。

【作業所自体の経営課題】

作業所長（＝施設長）の後継者探しと法人自体の存続問題。理事を含むスタッフ等の高齢化が進み、今後とも持続可能な経営を続けていくには、相生市中心街の当地に作業所を存続させることを最大の条件として他の社会福祉法人等との提携・合併も選択肢の一つと考えた大胆な行動に踏み出す必要がある。

特定非営利活動法人オフコース

https://www.eonet.ne.jp/~ofcours/

【所在地】　兵庫県三田市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■障害者の就労支援事業

■福祉有償運送事業の運営

■障害者の自立生活相談事業

■障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

「クッキー製造に関わる機材の購入」

【助成額】　29 万円

実施目的

クッキー製造事業で使用している機材が老朽化で動作不良を起こしており、作業効率低下によって事業継続に支障をきたしているため新たに購入します。新規機材購入により作業効率アップ、売上アップを目指します。

実施内容

①卓上型ミキサーの購入

クッキーの記事を拡販するための卓上型ミキサーを購入しました。

②掃除機（クリーナー）の購入

作業場を清潔に保つためより吸引力のある掃除機を購入しました。

③電子レンジの購入

クッキーの試作品を短時間で製作するために電子レンジを購入しました。

④冷蔵庫の購入

クッキーの材料や生地の保管場所を拡充するために冷蔵庫を購入しました。

得られた効果

①卓上型ミキサー

以前のものに比べ力強く攪拌できるようになったため短時間で生地の生産量を増やすことができました。

②掃除機（クリーナー）

吸引力の向上に加え本体がコンパクトになり小回りが利くので利用者様が扱いやすく、隅々まで清潔に保つことが出来る様になりました。

③電子レンジ

以前は試作品作りに大型のオーブンを使っておりましたが、時間と手間がかかり手軽に行うことができませんでした。新しい電子レンジではオーブン機能の活用により短時間で試作品を作れるようになりました。

④冷蔵庫

以前は貯蔵量の関係でクッキー生地の作り置きが出来ず、一日に作れるクッキー生地の量には限界がありましたが新しい冷蔵庫の設置により貯蔵量が大幅に拡充され記事の生産量を増加させることができました。

全体的に作業効率アップにつながり、その結果として利用者様のモチベーションアップにもつながっております。

今後の課題

コロナ禍が収束しイベント行事の再開が可能となった時を目指し、クッキーの新商品を開発し販売数を増やしてまいります。また、地域の方々に美味しいクッキーを沢山食べて頂けるよう、職員・利用者様ともども力を合わせ店頭販売にも力を入れ頑張って行きたいと考えております。

特定非営利活動法人かたくり

【所在地】　兵庫県丹波市　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

・地域活動支援センターII型　１箇所　定員 20 名
　１日平均利用者　11 名
・就労継続支援Ｂ型事業所　　１箇所　定員 20 名
　１日平均利用者　17 名
・日帰りバス旅行　年１回
・クリスマス会　　年１回
・運動会　　年１回
・カラオケ大会、バーベキュー大会　随時

「防犯カメラの購入」

【助成額】　　48 万円

実施目的

施設内への不審者の侵入や個人情報の盗難・漏洩事故の発生を未然に防ぐなど、障害者支援施設における危機管理対策として防犯カメラを設置する。

実施内容

○防犯カメラシステムの設置

・監視カメラ ４台
　※屋外 ２か所 正面門扉前・職員通用口前
　※屋内 ２カ所 １階事務室・２階事務室
・ビデオレコーダー １台
・液晶テレビ １台
　※災害時の情報収集に合わせ防犯カメラのモニターとして
　　併用する。
　※建物１階の法人事務所内の壁面に設置する。
・設置工事費 １式
・付帯経費 １式

得られた効果

防犯カメラシステムを導入し、不審者の侵入・犯罪の抑止と異常事態発生時の証拠保存など、ハード面の防犯対策を強化することにより、利用者の安全確保と職員の負担軽減を図ることが期待できる。

今後の課題

基準省令の改正により、障害福祉サービス事業所において、業務継続に向けた計画等の策定、研修や訓練の実施等が義務付けされており、危機管理マニュアルの見直しなど、ソフト面の整備を図っていく必要がある。

注文をまちがえる喫茶店 in 丹波企画実行委員会

https://www.tamba-plaza.jp/dannai

【所在地】　兵庫県丹波市　　【対象者】　認知症高齢者

【日常の活動】
認知症当事者がカフェスタッフとなった「カフェだんない」を丹波市内において開催してきました。
現在まで、開催は市内南部エリア2か所で、開催時間は午後2時間（当事者の体調考慮して短時間）とし、コーヒー・ジュース等の飲み物だけを各200円単価にて提供してきました。財政基盤が乏しいことから、これまでは、実行委員会メンバーは勿論、認知症当事者・送迎のご家族、市民ボランティアに対して全て無償扱いとしてきています。

「注文をまちがえる喫茶店カフェだんない」

【助成額】　36 万円

実施目的

認知症の方々がスタッフとして参加されるカフェの開催を通して、出会いや居場所の機会を広げ、もって、丹波地域の地域福祉の裾野を広げていこうとするものです。

実施内容

認知症の方々がスタッフとして参加される「カフェだんない」は、2019 年度以降、地域での認知度を高めながら実施してきましたが、新型コロナ感染症の広がりを受けて 2020 年度は開催延期を余儀なくされました。
この間、地域の方々や当事者ご家族等から再開を望むお声を頂く中で、今年度ようやくコロナ禍下で実施可能なスタイルであるテイクアウト型でカフェ再開に漕ぎつけることができました。2021 年 7 月、8 月、10 月、11 月、2022 年 2 月と計 5 回の開催を準備し、内 3 回は新型コロナ緊急事態宣言等と重なって中止せざるを得ませんでしたが、2021 年 10 月、11 月の計 2 回、感染リスクを避ける動線を確保でき、換気機能にも優れたカフェ店舗をお借りして開催できました(後記の通り)。加えて、テイクアウト容器への装飾等の軽作業を用意して認知症当事者の方々の参加の機会を広げたことで、今年度は新たに 2 名の方がスタッフとして参加されました。また、ケアマネ連絡会を通じた事業説明や地域自治組織や民間企業への協力呼びかけなど、従来同様、地域に根差した活動として展開しました。広報展開としては、スマホで撮り溜めした画像をもとに手作りの「だんない動画」を製作しました。総じて、コロナ禍下での多くの制限の中で可能な方策を模索することで、再開を望む多くの声にもお応えできたのではないかと考えています。貴財団の支援がこれらの原動力となったことに深く感謝しています。
◇カフェ開催内容
カフェ名 だんないカフェ（通算第 5 回目）
開催日 2021 年 10 月 2 日（土）午後 1 時半～3 時半
開催場所 丹波市柏原町「山カフェ」
参加客数 約 60 名
開催内容 テイクアウト型でカフェを開催

認知症当事者スタッフの方２名、ご家族２名が参加
運営側は、実行委員５名のほか、厨房ボランティア３名、市民ボランティア２名が参加

カフェ名 だんないカフェ（通算第６回目）
開催日 2021 年 11 月 27 日（土）午後１時半～３時半
開催場所 丹波市柏原町「山カフェ」
参加客数 約 40 名
開催内容 テイクアウト型でカフェを開催
認知症当事者スタッフの方１名、ご家族１名が参加
運営側は、実行委員４名のほか、厨房ボランティア３名、市民ボランティア４名が参加

なお、開催準備を進めつつも、コロナ禍で中止としたカフェは以下の通りです。
2021 年７月 10 日（リハーサルに切替え）、2021 年９月 11 日、2022 年２月５日。
＊直近の開催予定 2022 年２月５日分はオミクロン拡大を考慮し中止としました。
いずれも「山カフェ」での開催を予定していたものです。

◇物品購入の状況
当初の見積もり通り、購入・使用しています（金額の変更部分は以下に補記しています）。
○パソコン：チラシ作成や事務局資料作成、一元管理等にフル活用しています。
○オーサリングソフト：手作りの「だんない動画」作成に活用しています。

○エプロン：20 枚を購入し、カフェ開催の際に、スタッフ専用として使用しています。各自で洗濯し着回しします。
○ブルゾン：秋冬も利用できるようにＴシャツに変え 15 枚を購入済み。２回のカフェ開催の際にスタッフが着用しています。各自で洗濯し、着回ししています。
○看板　：店舗外側に設置するため防水保護用のものを購入済み。カフェの際に使用しています。
○缶バッジ：「だんない」のデザインをあしらったもので、来店客の内、寄付者へのお礼としてお渡し、寄付促進を図るものです。
○アクリル板・消毒液・マスク：感染対策として購入して、カフェ開催の際に活用しています。

得られた効果

何よりも、感染リスク低減を徹底的に図ってテイクアウト型でのカフェ再開ができたことで、認知症の方々の地域参加の機会を維持できたことが大きな成果だと考えています。当事者ご家族からの参加の喜びのお声を頂くにつれ、地域に居場所や参加の機会を継続的に創ることの大切さを改めて実感しています。また、当事者の参加スタイルを諸準備作業にも広げたことから、今年度新たに２名の当事者の方の活動参加を得たことも大きな成果だったと捉えています。さらに、新たに地域企業からの菓子提供など企業の地域貢献活動との連携も進めることができました。地域に根差したスタイルを従前から指向してきた成果とも言えますが、「カフェだんない」の活動を通して、幅広く地域福祉の裾野を広げることをさらにめざしていきたいと考えています。再開したこれらの活動は地元の丹波新聞はもちろん、神戸新聞、読売新聞にも採り上げられ掲載されるなど、地域でもよく知られた活動として認知度も高まってきていると思っています。

今後の課題

活動の主人公が高齢の認知症当事者の方であることから、私たちの活動は、新型コロナ感染症の広がり具合によって活動が大きく左右されてしまうという要素を抱えています。しかしがら、今年度、カフェ再開によって多くの成果を得たことから、少しづつであっても、可能な範囲で活動を継続することの重要性を実感しています。従って、今後も環境変化に応じて可能な活動スタイルを粘り強く模索して活動継続することが私たちに求められている基本的な課題だと考えています。今後、活動の回数増加なども望みたい所ですが、焦らずに取り組むと共に、従前からの通り当事者の参加スタイルを広げることや地域に根ざした取り組みを進めることなど、着実に裾野を広げることをより意識していきたいと考えています。

特定非営利活動法人 cambio

http://npo-cambio.org

【所在地】　兵庫県多可郡多可町　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援A型事業所(1か所)　■就労継続支援B型事業所(1か所)　■B型の従たる事業所(2か所)
■鹿肉処理施設(2か所)　■各施設での食事会(不定期)　■全施設合同でのバーベキュー大会(5月)
■地域のイベントへの出店運営

「送迎用車両の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

現状送迎車の老朽化と
送迎人数の増加に対応する為。

実施内容

車両名：日産 NV350 キャラバンワゴン GX10 人乗り
使用頻度：営業日毎日
使用内容：毎日の利用者の送迎

得られた効果

条件に合う程度の良い中古車を購入することができ送迎に活用できている。
送迎利用の方からも以前よりも快適になり送迎の疲れが減ったと好評をいただいている。
運転手からも商用車でもあるので運転がしやすく安全に運行できると好評をいただいている。
乗車人数が増えたことにより別便を出す回数が減り、一般職員への負担が減り就労サポートに力を入れることが出来るようになった。

今後の課題

利用者の方々の障害特性や個性・能力の多様性や就労に対するニーズの違いを理解し、個々の能力向上・ニーズの具現化・品質及び生産性の維持と向上を行える体制の構築と利用者の増加に対応する仕事量の確保。それにともなう指導職員の意識と能力の向上。

一般社団法人 S-CUBE

【所在地】　兵庫県多可郡多可町　　【対象者】　精神障がい者、発達障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

■「s-cube」就労継続支援B型事業所/定員13名/一日平均利用者数9名

作業内容：企業からの下請け内職（カー用品のパッケージ、釣り具にパッケージ)、クッキー・シフォンケーキなど焼き菓子の製造販売、公共施設の清掃業務, 施設外実習

■毎月1回のグループワーク（他者理解、コミュニケーションワークなど）

■休日の余暇支援（買い物同行、ウォーキングイベント参加など）

■お花見（4月）■夏の買い物同行支援（8月）■秋のバーベキュー大会（10月）■忘年会（12月）

■新年会（1月）■地域住民への啓発講演活動（当事者による発表）

「お菓子作りのための業務用オーブン・設置台の購入」

【助成額】　　54 万円

実施目的

従来使用していた中古のオーブンはサイズが小さく、注文数に対して一度に焼ける量が限られていたため、生産にかなりの時間を要していました。新しいオーブンを購入することによって効率的に仕事を進めていきたいという想いがあります。

実施内容

コンベクションガス高速オーブン RCK - 30MA　1 台
ガス高速オーブン置台　1 個

入庫当初はオーブンのクセをつかむために試作を繰り返していきました。クッキーもシフォンケーキもちょうどいい焼き時間、焼き色をみつけることができ、そこからは生産量を増やしていっています。
1 週間のうち、委託販売さきに納品するためのクッキー、シフォンケーキを焼きながら、マルシェでの販売があるときにはさらに量産体制を組んで作れるようになりました。

得られた効果

イベント出店をする機会が増えてきたこともあって一度に生産する量が多くなってきました。クッキーは今まで 1 種類を 3 回に分けて焼いていたのですが、新しいオーブンが入庫してからは 1 種類につき 1 回で済ませられるようになり、利用者さんの勤務時間内に余裕をもって焼き上げることができています。オーブンのクセをつかむまでに試作を繰り返してきましたが、ようやくちょうどいい焼き色をつけることができ、シフォンケーキも問題なく仕上げることができています。
オーブンの購入によって受注生産、委託販売、マルシェでの販売すべてにおいて生産数は増えましたが、作業従事者の負担はかなり軽減されました。

今後の課題

シフォンケーキは現在 6 種類（プレーン、コーヒーキャラメル、ココアマーブル、アールグレイ、きな粉、抹茶）ですが、今後はもう少し種類を増やしていきたいと思います。それに伴ってお菓子作りに携われる利用者さんの数を増やしていくことも課題として残されています。シフォンケーキを作る上では、色艶、触感、見た目など感覚での判断が多くなるため、そこを苦手とする利用者さんにどうお伝えすればベストのタイミングで生地作りができるのかを日々模索しながら試作を繰り返しています。
そして作ったら販売。兵庫県中のマルシェやイベントに参加して s-cube の名前や活動、そして利用者さんの仕事力と人間力を知っていただけるよう広く発信をしていきたいと思います。

要約筆記ボランティアサークル㋮かんざき

【所在地】　兵庫県神崎郡市川町　　【対象者】　聴覚障がい者

【日常の活動】

1, 郡内3町の社協の協力で、毎年「要約筆記奉仕員養成講座」を開いている。

2, 社協や行政の依頼を受け、障害者の集いや福祉委員の研修会等に参加し、要約筆記を担当したり、実習を交えた講演を行ったりしている。

3, 県教育委員会主催「播磨西くすの木学級　神崎教室」で情報保障。

4, 自発的な活動として、地域の老人クラブでの啓発講座「聞こえの交流会」を行い、聴覚障害や要約筆記、耳の健康への啓発を行っている。

5, 福崎町の春のボランティアまつり、夏まつり、秋まつり、赤い羽根募金活動などにボランティアとして参加。

「聴覚障がい者の情報保障のための機材購入」

【助成額】　　17 万円

実施目的

聴覚障がい者の学びや交通の場で、性能の良いプロジェクターを用いて情報保障を行いたい。

実施内容

1, 聴覚障がい者の交流・学習の場での情報保障

2, 聴覚障がい者と要約筆記への啓発活動

3, サークル会員の学習会　などにプロジェクターを活用した

詳細：1 については、2 回の「播磨西くすの木学級　神崎教室」に参加。11 月下旬の第 2 回「くすの木学級」では、体育館で防災に関する情報保障を行った。明るく見やすかった。

2 については、①夏休みに福崎町社協主催の「ボランティア一日入門」に参加。2 組の親子の参加があった。この時は従来の機材を使用した。②コロナ禍の中ではあったが、4 月～6 月に 5 回の「要約筆記奉仕員養成講座」を開催 5 人の受講生があり、工夫を凝らしてやり遂げた。

3 については、11 月にプロジェクターを購入したあと、使い方を講習した。

得られた効果

機材の納入が 11 月 1 日であったため、新プロジェクターに慣れるのに時間がかかるが、性能が良く、使いやすくなっているので、喜んでいる。コロナ感染の影響で集まりにくい状態だったが、11 月から 3 月にかけて、学習会を月 1, 2 回持ち、今後の活用に備えている。11 月下旬の「くすの木学級」では、体育館で要約筆記と手話の両手で情報保障を担ったが、周りを暗くする必要もなく、長年の課題が解決した。

今後の課題

兵庫県も、要約筆記の啓発活動を今まで以上に行い、親しみやすいリーフレットが作成された。
サークルも毎年 1~2 名の加入者があり、コロナの中でも、感染予防を講じながら活動をつづけることができている。ただ、会員には高齢者が多いため、「教育」の継承が大切である。そのためにも、貴財団から助成を賜った書画カメラとプロジェクターは不可欠の機材であり、たいへんありがたく感謝している。
最近は、講演会等ではパソコン要約がよく用いられている。また音声を文字に変換する技術が進み、難聴者の中にもそうした器機をうまく活用できる人がおられる。一方、便利なツールを使えない人も多い。この状況下で手書き要約の意義を考えながら、いつでも、どこでも、誰にでもできる「手書き要約」を私たちは研鑽し続ける。サークル員は 40 代から 80 代まで。㋭かんざきの 20 年以上続く活動を、地域社会に更に広げていきたい。その方途を探っている

一般社団法人ウインワークス

http://win-works.co.jp

【所在地】　和歌山県和歌山市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

多機能型就労継続支援A型事業所　『ウインワークス』　和歌山県和歌山市
多機能型就労継続支援B型事業所　『ウインワークス』　和歌山県和歌山市
就労継続支援B型事業所　『ル・モン・コウヤ』和歌山県伊都郡高野町
共同生活援助事業所　『ハイツ関戸』　和歌山県和歌山市

「送迎用車両の購入」

【助成額】　　100 万円

実施目的

送迎車両を購入し、送迎ルートを拡大し新規利用者の獲得を目指す。また職員の自家用車を使用しないで済む環境を作りたい。

実施内容

メーカー；ホンダ
　車種　：フリード
使用頻度：月曜日～金曜日　朝夕 2 便送迎予定
　　昼間は、職員が随時使用する。
　　利用者の体調不良時、自宅までの送迎に対応。

得られた効果

車両を導入したことにより、まだ利用者獲得には繋がっていないが、送迎車両があることで、支援学校からの実習生も受け入れ人数を増やすことが出来ている。このことにより各支援学校の信頼に繋がっている。
また職員誰もが、当該施設利用者の緊急時に対応することが可能となってきており、職員の自家用車を使用させることが無くなっている。

今後の課題

支援学校からの実習生の受け入れ人数は増やせているが、時期的に利用決定とまでは繋がっていない。支援学校の卒業時期に利用者獲得することが大きな課題となっている。

特定非営利活動法人ラ・ルーチェ絆縁

【所在地】　鳥取県鳥取市　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

「障がい者活動支援センター　がじゅまる」：就労継続支援Ｂ型/定員20名/1日平均利用者15名。

総社デニムマスクの作成，お菓子やアクセサリーの製造，自動車部品等の組み立て，お茶の袋詰め等

「送迎・運搬用車両の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

利用者の送迎(送迎支援体制の拡充)、受注作業の納品・運搬、イベント参加、弁当テイクアウト代行事業他への参加

実施内容

車種名：HONDA ステップワゴン　使用頻度：毎日（開所日）

・朝、昼、夕の送迎

・内職作業の納品、搬入

・販売やイベント参加時の利用者送迎、物品の運搬

得られた効果

・以前は、ステーションワゴンでの送迎や運搬だったため、送迎の人数が少なく運搬できる量も少なく効率が悪かった。この度ワンボックスを購入することができ、利用人数の増加や一度での運搬数の増加等、効率が良くなったことで、工賃アップにも繋がった。

・コロナ禍ということで、送迎時に空間の余裕が生まれ、換気やお互いの距離感が以前より保てるようになり快適になった。

・テイクアウト弁当の販売や各種イベントでは、業者さんとの関係の構築や、感染対策に注意しながら、接客機会の増加で、販売する楽しみや、大変さを学ぶことができた。

今後の課題

コロナ禍ということもあり、以前に比べるとイベントや販売の機会が減りました。この先、コロナが収束すれば、そういった機会も徐々に増えてくると思います。

利用者の人達が参加することで、社会貢献や充実感、又、地域の人達の障がい者理解の促進、販売機会が増加することによる工賃の増加に繋げていきたいと思っています。

現在、総社デニムマスク作製によって工賃の増額に繋がっていますが、それが一過性のものにならないよう、総社デニムマスクに続く新たな商品の開発も視野に入れながら、安定した収入が得られるようにしていきたいと思っています。

一般社団法人ジャングルランド

https://jungle-land.wixsite.com/minnanouen

【所在地】　岡山県倉敷市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■作業内容としては、ポットに土を入れたり、野菜の収穫をしたりと身体を使った作業が多く、工程も多岐にわたっており、様々な作業を提供している。力量・体調に合わせて臨機応変に対応するようにしている。その他に相談支援業務として、体調不良や作業内容、生活全般にわたって相談に随時対応している。

■お花見＆バーベキュー(4月)　■ボーリング大会＆食事会(7月)　■忘年会(12月)　■避難訓練(年1回)

「小ネギ処理機器の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

平成 30 年 7 月の西日本豪雨の被害に遭いましたが、随分復興しています。災害前からの農地 2ha に加え、近隣の方からの農地管理を 2ha 頼まれて、耕作面積が 2 倍の 4ha になりました。面積が増えた分収量も増えています。そうなると出荷までの作業を効率良くしないと野菜が駄目になってしまいます。実際に出荷までの作業が追いつかなくて、畑で野菜が育ち過ぎてしまうこともあります。色々な野菜を年間通して作っていますが、ネギは年中収穫でき需要もあります。収穫、洗浄、選別、計量を素早く行い出荷量が確保出来れば、学校給食にたくさん納品出来ます。大口の出荷先が確保できていることは、確実に売り上げに繋がります。小ネギ処理機器の購入で安全と品質を保ち生産性の向上を図りたいです。

実施内容

小ネギ処理機器の購入で水とエアーを同時に噴射して、小ネギを素早くきれいに洗浄します。コンプレッサーや水を使うので、電気工事や水道工事が必要ですが、本体はコンパクトタイプなので、移動ができます。使わないときは奥に置いて、使う時に出してきて台に置いて使います。色々な野菜を扱っているので、移動できて便利です。土の付いた野菜を洗うのは、水を溜めたり、捨てたりが重労働です。それに、手荒れや冬場は冷たくてかじかんでしまいます。手作業は大変なので、少しでも軽減できればと期待しています。今まで小ネギの洗浄は、下洗いで高圧洗浄機を使うものの、その後は手作業で一本一本きれいにします。まず外側の要らない葉っぱを取り除き、根っこを洗います。この作業がとても時間がかかります。利用者さんの手作業だと 1 人 1 時間で 1 ㎏ですが、この小ネギ処理機器を使うと、1 台 1 時間で 50 ㎏洗えるそうです。カタログの数値なので、利用者さんではそこまでスピードが出ないと思いますが、それでもかなりの作業効率向上が期待できます。作業効率が向上すれば、利用者さんの仕事に対するやる気が出て、自信が持てると思います。

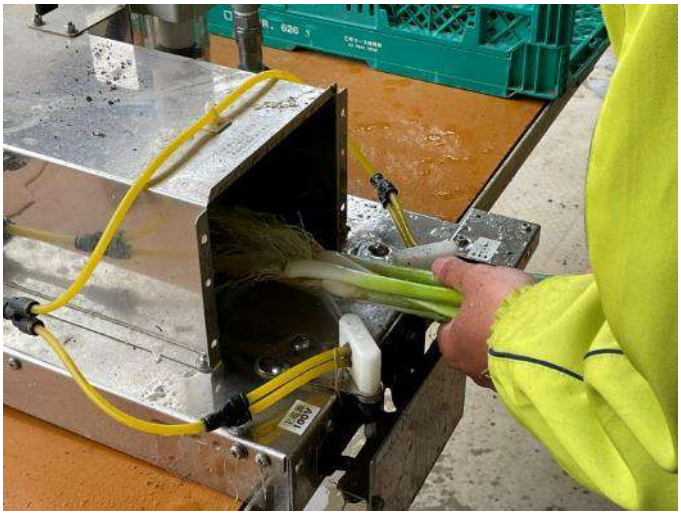
得られた効果

購入後、小ネギの洗浄を職員や利用者さんで練習しました。慣れた利用者さんが、１時間で５kg洗えるようになりました。それに、細くて柔らかい小ネギを収穫して出荷することができました。細い小ネギは、折れたり切れたりしやすいので、手作業の頃は扱えなかったのです。手作業の頃とは比べものにならないスピードと品質です。小ネギの洗浄をいつも担当する利用者さんは、作業が残った時に「残って全部済ませましょうか？」と、自分から声をかけてくれる等の成長がみられました。全体の小ネギの作業量と進捗状況を把握して、意欲的に仕事に取り組む姿勢がみられ、やりがいを感じているようです。他の野菜より小ネギは洗浄に手間がかかるので、この機器を導入すると、安全に高品質で高速に洗浄できます。本来なら手間のかかる作業を機械がすることによって、今までよりも沢山出荷できます。小ネギ処理機器は、３台購入しましたが、現在は１台のみ稼働しています。今後は、小ネギの作付面積を増やしたり、大口の出荷先を確保したりする等の準備をし、小ネギ処理機器を扱える人を増やす予定です。その時には、３台同時に稼働します。そうすれば、更に売上と利用者さんのやりがいが、伸びる等の効果があります。

今後の課題

現在の花苗と野菜栽培のロスや無駄を無くし、さらに効率よく運営する事や、6 次産業に参画するなどの新たな事業展開をする事で、売上を伸ばし利用者さんの工賃に充てる。

【写真貼付け】



社会福祉法人同仁会

https://www.dojinkai-nozomi.jp

【所在地】　岡山県玉野市　　【対象者】　知的障がい者、高齢者

【日常の活動】

○障害者支援施設（1か所）　○生活介護（1か所）　○知的障害者地域生活援助（1か所）
○地域活動支援センター（1か所）　○相談支援事業所（1か所）　○多機能型事業所（1か所）
○特別養護老人ホーム（1か所）　○放課後等デイサービス（1か所）　○就労継続支援B型（1か所）

○バザーの実施を通じた地域交流、社会貢献＜年1回＞

当法人では平成元年から継続的に実施し、地域住民との交流を推進するとともに、収益を日本赤十字社、玉野市、岡山市等に寄付（災害義援金、防犯灯設置寄付等）をしています。

○夏祭り等の実施＜年1回＞

当法人では平成元年から継続的に実施し、隣接の中学校生徒や近隣住民等を招き、地域交流を推進しています。

○環境美化活動＜週1～2回＞

当法人のいくつかの施設では活動時間等を活用して、近隣の公園等で清掃活動などをしています。

「送迎用車両の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

当施設（障害者の通所施設「グレイス」）の老朽化した送迎車両は、再々故障が発生しています。当施設の利用者を安全かつ快適に送迎することなどを目的に、老朽車両を更新する事業を実施しました。

実施内容

○実施内容　送迎車両の購入（車名：セレナ、ミニバン、8 人乗り）

○使用用途

・利用者の自宅と当施設間の送迎に使用します。
　主に、岡山県倉敷市児島地区の利用者を対象した送迎ルートで活用します。
　平日を中心に、年間約 240 日、年間約 19,200ｋｍ（一日当り　約 80ｋｍ）走行見込みです。
・利用者の日中活動の移動手段として活用します。
　主に、施設外で行う環境美化活動（清掃、ゴミ収集等）、療育活動（健康維持活動など）に活用します。
　平日を中心に、年間約 120 日、年間約 1,200km（一日当り　約 10km）走行見込みです。

得られた効果

○利用者送迎時の安全性の向上

送迎は一日約 80ｋｍ走行し、乗降も頻繁に行っています。老朽化した対象車両は故障することも多く、車両を更新することで車両の安全確保ができました。

また、送迎ルートには道路幅が２ｍ程度の狭小な箇所が数カ所あり、対向車との行き違いでバックすることも再々あります。購入車両に、バックモニターが装備されたため、安全に行き違いができるようになりました。これらにより、利用者御家族の送迎に対する安心感が増しました。

○利用者の利便性の向上

機能（バックモニター等の装備）が充実した車両の購入により、送迎ルートの変更が容易になりました。

これにより、ご家族の送迎から施設職員による送迎に変更することが可能になり、利用者の利便性が大いに向上することが期待されています。

今後の課題

○新型コロナウイルス感染症等感染防止対策の充実

コロナ禍において、新型コロナウイルスの施設内への持ち込みを防ぐ取組が喫緊の課題です。福祉施設は集団生活の場であり、とりわけ通所系施設は、施設外との接点が多いことから、職員のみならずご家族の協力が欠かせないものと考えています。感染予防に向け周知、　啓発を図り、感染防止対策を徹底することが強く求められています。

○施設設備の老朽化対策の実施

当施設は、築後３０年を経過した建物内に所在しており、建物や設備等の老朽化が進んでいます。このため、建替又は抜本的修繕等の必要性が顕著になっています。

○利用者とご家族の高齢化への対応

通所系施設は、ご家族の高齢化でご家族による送迎ができなくなるなど、送迎を希望するご家族が増加傾向にあります。送迎体制の更なる充実が課題と考えています。

○福祉人材の確保

生活支援員を中心に人材確保に苦慮しています。利用者へのよりよいケアを行うためには　人材を確保し、職員の充実が欠かせないものと考えています。

特定非営利活動法人のぞみ

http://ww41.tiki.ne.jp/~nozomi1201/

【所在地】　岡山県総社市　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

◇就労継続支援事業　◇就労定着支援事業　◇児童通所支援事業　◇計画相談事業。

「キッズステーションのぞみ事業所移転に伴う事務機器の購入」

【助成額】　47 万円

実施目的

事務機器の整備でスムースな児童事業所の運営を行う。

実施内容

◇事務所の移転に伴う物品購入

○複合機(富士ゼロックス C2060)

不具合が多く修理しながら使用していたコピー機でした。新規購入によって資料の作成等が早くできるようになった。

○ノートパソコン(HP2C3U3PA＃AB)

福祉サービスに必要な書類作成の短縮が図られた。

○電話機(Panasonic 子機 2 台付 VE-GD37DW)

事務室に親機、1 階の遊戯室に子機 1 台、2 階の訓練室に子機 1 台設置できるようになり、電話連絡がスムースにとれなかった不便さが解消されました。

得られた効果

障がい児のための資料作りや保護者への情報の提供等、障害児通所施設をスムースに運営できるようになった

今後の課題

児童に有効な資料を作成し、児童の成長過程にあった療育ができるようになった。この新しくなった環境・施設を大事にして、子供や家族に寄り添った取り組みをしていきたい。

特定非営利活動法人わかたけ

【所在地】　岡山県赤磐市　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者、身体障がい者

【日常の活動】
赤磐市の指定管理で作業所の館を管理している。
就労継続支援B型経営
　内職作業、清掃作業（市役所支所・特別老人養護施設）、しいたけ栽培と販売、農業、カフェの運営、創作活動、貝殻肥料販売、他の障がい者施設とコラボして販売をしている（竹炭消臭剤）、古紙回収と販売

「送迎・商品運搬用車両の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

商品運搬用車両が古くなったので、オートマチックの新しい車両を購入して、職員全員が誰でも運搬業務ができるようにする。

実施内容

ダイナ 1.5L シングルキャブ ロングデッキ ジャストロー
　一日一回　商品配送、納入、段ボール等回収、紙回収業納入

得られた効果

オートマチック車なので、みんなが運転でき、指導員の仕事の割り振りが容易にでき、効率が良くなった。たくさん乗せることができ、仕事の面ではかどっている。

今後の課題

プレハブの小屋でよいので、作業所の面積を増やしたい。

社会福祉法人勝明福祉会

http://www.shoumei-fukushikai.or.jp

【所在地】　岡山県勝田郡勝央町　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、高齢者

【日常の活動】
障がい福祉事業として、多機能型事業（生活介護・就労継続支援B型）「きずな」、就労継続支援A型事業「福祉の店きずな」、共同生活援助事業「グループホームきずな」、指定特定相談支援事業「相談支援センターほのか美作」を運営。
介護福祉事業として、「特別養護老人ホーム南光荘」、通所介護事業「南光荘短期入所生活介護事業所」、居宅介護支援事業「南光荘デイサービスセンター」、居宅介護支援事業「南光荘居宅介護支援事業所」を運営。

「商品配達用車輌の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

障害福祉サービス事業所きずなの就労継続支援 B 型事業では、しいたけを主とした菌茸類の栽培・販売を行っています。現在配達用として使用している車輌(軽ワゴン車)は、購入後約 10 年が経過し、経年劣化による故障個所をあちこちに抱えています。市場のニーズに対応し商品の安定した供給体制を整備すると共に、安全な配達業務を行うためにも配達車輌の買い替えが必須であると考えています。

実施内容

（株）大土井モータースにて購入し、2021 年 10 月 8 日、当事業所に納車されました。
車種：スズキ　エブリイ　PA リミテッド(4 速 AT　ホワイト)
地域のスーパー・道の駅・商店等への商品配達において、毎日数回にわたって使用しています。
また、地域の保育園や学校への商品配達も週に数回行っています。また週に 1 ～ 2 回、利用者の送迎にも使用しています。

得られた効果

当事業所の製品は一般市場での需要が多く、以前はスーパーや道の駅において商品が品切れになることが頻繁にありました。この度、車輌が新しくなったことで、安心・安全な運転業務ができるようになったと同時に、AT 車になったことで運転に携わる職員の数を増やすことが可能となり、配達頻度を増やすことができるようになりました。市場への安定した供給体制を整えることができたことで、売り上げの向上、そして利用者の工賃アップに繋がっていくと考えられます。
また、今はコロナの影響で中止になっている地域イベントが再開された際には、車輌を活用して商品販売等を行い、地元の方々と交流する機会を作っていくことができると考えています。

今後の課題

法人の設立から 40 年以上が経過し、建物や設備等の老朽化が著しい状態です。そうした中、利用者や地域の様々なニーズに応えるため、建物の増改築・設備等の刷新が必要不可欠となっています。法人全体の収支の見直しを図り、経営の安定・健全化に努める上で、今回の助成は非常に大きな手助けになります。また、事業所としては、今回購入した車輌を最大限に有効活用し、急務となっている商品の販売経路の拡大に努め、さらなる認知度の向上や利用者の工賃向上に繋げていきたいと考えています。

社会福祉法人吉備の里

http://www.kibinosato.or.jp/

【所在地】　岡山県吉備中央町　　【対象者】　知的障がい者、身体障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■特定相談・障害児相談支援事業所　■日中一時活動支援事業所　■就労継続支援B型事業所（2か所）
■就労継続支援A型事業所　■自立訓練・就労移行支援　■施設入所支援事業所
■生活介護事業所　■宿泊型自立訓練施設　■共同生活援助事業所（17か所）

「印刷事業拡大に向けた専用プリンターの導入」

【助成額】　54 万円

実施目的

①新たな顧客の獲得
②売上アップによる利用者工賃の向上
③パソコン操作を希望する利用者のニーズに応える

実施内容

【印刷部門における作業内容・人員配置】
令和 3 年 4 月から、名刺、はがき、封筒などの印刷業務部門は利用者 4 名（身体障がい・精神障がい）体制、職員 2 名で昨年度より増員体制とする。
【印刷部門における生産体制及び収入見込み】
令和 2 年度の実績として、プリンター機を使用しての名刺、はがき、封筒の売り上げが 160 万円である。来年度は顧客数を増やし、収入 190 万円を目指していく。印刷業務の依頼は、リピーターによる継続した注文傾向にあるため、利用者人員を 2 名及び職員 1 名を増員し、計 6 名体制で対応する。②併せて、繁忙期（12 月・3 月）においては新規導入の専用プリンター（名刺、はがき、封筒）を含めた 2 台体制で生産の効率性を図る。
【人材育成】
令和 3 年 10 月から助成金にて専用プリンター（名刺、はがき、封筒）新規導入。パソコン作業に従事したい意向のある新たな利用者 2 名（精神障がい）に対して、職員が作成方法をレクチャーする。名刺、年賀状及び喪中はがき、暑中寒中見舞い、挨拶状、一通りの版を作成できるようにめざす。
【営業活動】
令和 3 年 5 月からネットショッピング用のホームページを設営予定。ホームページにて印刷発注のカテゴリーを設け、受注につなげる。また、地元企業、個人などへの印刷業務の宣伝活動を強化し、さらなる量産化をめざす。
【作業展開】
令和 3 年 10 月、助成金により専用プリンター（名刺、はがき、封筒）を 1 台増設。利用者及び職員の計 6 名を配置し、大量受注にも対応できる環境を整備する。また、新規導入する専用プリンター（名刺、はがき、封

筒）は、既存の名刺プリンターと異なり、プラスチック素材への印刷も対応可能であり、社員証、入退室カード、診察券など、プラスチックカード印刷の新たな商品提案を行う。
【評価】
令和 4 年 3 月末、売り上げの達成状況を工賃向上委員会で評価、分析する。

得られた効果

【印刷部門における作業内容・人員配置】
名刺、はがき、封筒などの印刷業務部門は利用者 4 名、職員 2 名で昨年度より増員体制となった。
【印刷部門における生産体制及び収入見込み】
繁忙期（12 月、3 月）においては新規導入の専用プリンター（名刺、はがき、封筒）を含めた 2 台体制で生産の効率性を図った。結果、令和 3 年度の実績として、プリンター機を使用しての名刺、はがき、封筒の売り上げが 2,012,743 円となり、収入増となった。※令和 2 年度の収入実績は 1,561,041 円。
【人材育成】
パソコン作業に従事したい意向のある新たな利用者 2 名（精神障がい）に対して、職員が作成方法をレクチャー済。1 名は名刺、年賀状及び喪中はがき、暑中寒中見舞い、挨拶状、一通りの版を作成できるように至った。他 1 名については、心身の不調につき、レクチャーは完了していない。
【営業活動】
ネットショッピング用のホームページ設営完了。年賀状の単価表を見直し、値上げ。顧客に説明済。
【作業展開】
令和 3 年 10 月、助成金により専用プリンター（名刺、はがき、封筒）を 1 台増設。利用者及び職員の計 6 名を配置し、大量受注にも対応できる環境を整備した。プラスチックカード印刷の新たな商品提案は未実施。
【人材育成】
パソコン作業に従事したい意向のある新たな利用者 2 名（精神障がい）に対して、職員が作製方法をレクチャー済。1 名は名刺、年賀状及び喪中はがき、暑中寒中見舞い、挨拶状、一通りの版を作成できるように至った。他 1 名については、心身の不調につき、現在は印刷業務に携わっていない。
【評価】
新型プリンター導入により①受注（売上）の向上と②営業展開の拡大等、改善が図られた。例年、年賀状印刷については、受付期間う納品期日が限られるため、短い期間に受注が集中してしまい、完成までに時間を要してしまっていた。
製作工程として、「①受付済葉書」、「②仮完成葉書」、「③校正待ち葉書」、「④校正印刷待ち葉書」、「⑤印刷葉書」、「⑥完成確認葉書」の 6 工程あり、最も時間が掛かる「⑤印刷葉書」工程には、葉書の溜まりが常に発生している状態であった。新型プリンターを導入した結果、「⑤印刷葉書」工程には、作業遅滞による葉書の溜まりが全く見られなくなり、効率的に年賀葉書を仕上げることが可能となった。
その結果、受注から納品まで短期間、かつ計画的に製作工程の管理が行えるようになった。それに伴い、新規顧客の受注や受付期間の延期等、受注数（売上額）の増加につながり、受注の大幅な改善が見られ、さらには営業展開にも加速がついた。

今後の課題

事業実施目的の①「新たな顧客の獲得」については若干顧客数が増えたものの、いずれも個人でのお客様である。より収入増を目指すためにも、大手企業・団体への営業は必須である。また、ホームページにて印刷発注のカテゴリーを設け、受注につなげていくことが課題である。②「売上アップによる利用者工賃の向上」については印刷部門の収入増になったものの、他部門の売り上げ低迷により、工賃アップに繋がらなかった。需要のある印刷部門の売上底上げを引き続きめざしていく。③「パソコン操作を希望する利用者のニーズに応える」については、これまで１台の名刺プリンターでまかなっていたため、固定の利用者しか業務に携わることが出来なかった。しかし、助成金により名刺プリンターを増設することによって、パソコン業務に携わりたい利用者に対して、業務を与えることができた。印刷に関するレクチャーも行え、利用者のスキルアップに繋がったといえる。

社会福祉法人「ゼノ」少年牧場

http://zeno.or.jp

【所在地】　広島県福山市　　【対象者】　知的障がい者、児童

【日常の活動】

■障害者総合支援法関係

障害者支援施設(2)、共同生活援助(29)、生活介護(7)、就労継続支援事業Ｂ型(4)、居宅介護事業(2)、行動援護(2)、重度訪問介護(2)、障害児相談支援事業(2)、短期入所事業(3)

■児童福祉法関係

福祉型障害児入所施設(1)、児童発達支援センター(1)、児童発達支援事業(1)、保育所等訪問支援(1)、放課後等デイサービス(3)、障害児相談支援(2)、幼保連携型認定こども園(1)、保育所(1)、放課後児童健全育成事業（1）

■その他、

日中一次支援事業、地域子育て支援事業、障害児等療育支援事業などを実施しています。

■社会啓発活動（講演会の開催　通称ハートフルフォーラム・ゼノ）

2015年度：東田直樹さん(自閉症)、2016年度：寝たきり芸人あそどっぐさん(重症心身障害)、2017年度：金澤翔子さん(ダウン症)、2018年度：野田あすかさん(発達障害)、2019年度：紀平凱成さん(発達障害) 2020年度：新型コロナウィルス感染拡大により中止

■未来（あした）も笑おうプロジェクト

家庭や学校で課題のある子どもたちの活動の場の提供としてレクリエーション等の開催や調理活動、宿題の補助などを地元の社会福祉協議会と連携して実施（月1回）

■地域貢献活動

地域の清掃活動、子どもの登下校見守り活動

「就労支援機器(ブラストチラー)の整備事業」

【助成額】　100 万円

実施目的

当事業所の食品製造部門(コロッケやメンチカツの製造販売)の 10 年が経過する現行ブラストチラーと入れ替え、機能向上による製造量並びに販売や卸し数の増を図り、もって障がいのある人たちの工賃向上に繋げる。

実施内容

◇物品購入

・購入物品

パナソニック社製ブラストチラー1台

・使用頻度

月曜から金曜の週５日

・使用状況

当事業所の食品製造部門で製造するコロッケやメンチカツを冷凍加工する機器として使用中。

得られた効果

2022 年 2 月末に、2022 年度の広島県福山市の学校給食会からの受注が約 60,000 個に決定しました。受注は 11 月を除く各月で、機器納入後の 4 月 14 日(木)に早速 5 月分の製造に取り掛かっています。
この度の入替導入により、1 回に冷凍加工できる個数が 400 個に増えました。特に、午前・午後の製造量と 1 回に冷凍加工する個数のマッチングがしやすくなったため、これまで次に冷凍加工にするものがブラストチラーの容量の関係で待機せざるを得ない(あるいは午前のものを午後に持ち越し)という待機時間が大幅に解消されることとなりました。また、この時間が出来たことで、各利用者が今担当していることとは違う作業工程の練習が出来るようになったことも大きな成果となっています。

今後の課題

上記の効果を踏まえて、以下の取り組みを行なっていくこととしています。

- 上記の新たな作業工程の練習の継続
- 月 1 回、午後の作業時間に作業から離れて食品製造部門の利用者の方々と職員での確認会の実施
  具体的には、①売上状況の確認や今後の見通し(製造個数や売上額)を話し合う、②自分たちの作業工程上の改善点や課題を話し合う、③売上計算などで電卓の使い方を覚える、④製造数や売上額の見込から決算賞与の見込額を試算して利用者の皆さんのモチベーションアップに繋げる、といった時間を設定していくこととしています。

特定非営利活動法人いのちのさと

http://inotinosat.s25.xrea.com

【所在地】　徳島県徳島市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

■「就労継続支援事業所いのちのさと」：就労継続支援A・B型1日平均利用者30名

A型：定員25名/1日平均利用者13名/農作業（露地）、近隣農家の野菜の調整・袋詰め作業・施設外就労作業（農作業）

B型：定員15名/1日平均利用者15名/菌床椎茸栽培（ビニールハウス）、内職（シール貼り、電線分別）、移動販売、施設外就労作業（農作業・リサイクル品回収作業・電線被覆剥き作業等）、地域イベントでの物品販売

■「グループホームいのちのさと」：共同生活援助/定員11名

（建物3ヶ所有り、各定員3名・3名・4名）/1日平均利用者11名

食事提供（希望者のみ）、調理支援、買物支援、掃除洗濯支援、レクレーション支援等

■利用者との日帰り遠足（9～11月）■利用者との忘年会（食事会）（12月）■健康管理教室（月1回）

■コーラス（童謡等）教室（月1回）

「就労事業として農福連携用の車両購入」

【助成額】　98 万円

実施目的

車両購入により、当団体の生産物の出荷や近隣農家への施設外就労への移動を中心に活用し、売上向上・工賃向上・農福連携による地域連携を目指していく。

実施内容

トヨタハイエースバン（9 人乗り）を購入し、農福連携用の車両として、就労継続支援 A 型・B 型事業所両方で活用しています。

当団体の生産物（ほうれん草・小松菜・菌床椎茸の 3 品を中心に葱・青梗菜・大根・オクラ・ナスも時々生産している）の出荷用に活用中です。また近隣農家への施設外就労先への移動車両としても活用中で、月～金曜日はほぼ毎日使用しております。（朝 9：00 頃～夕方 15：30 頃は施設外就労用車両として活用し、それらの時間帯の前後は出荷用に活用）

今後はトヨタハイエースバンが後部座席を折りたたみことで利用し、管理機・ミニ耕うん機・草刈機・刈払機を乗せ、農機具の畑への運搬用としても活用していく予定です。

得られた効果

車両不足による「施設外就労に対しての農家からの依頼はあるのだが、車両不足により断る」、「野菜・椎茸等の出荷の際に軽バンに全ての品が載らないので 2 度に分けて運搬する」、「1 台の普通バン車両を複数の職員

が順番待ちして使用する」等の問題が改善され、それにより売上向上・利用者工賃向上・農福連携による地域連携の拡充を図っていきます。

今後の課題

以前は福祉施設ということで、役所や学校などが優先的に生産物を購入してくれていたが、生産量が増え、近隣の福祉施設の数が増えていくにつれて、商品を近隣スーパーの産直市場を今後、生産物の品質向上を図り、ブランディング化していくことにより、単価・利益率を向上させ、より事業所の基盤を必要があると確信しています。

特定非営利活動法人手と手と手

https://happy-tetotetote.amebaownd.com

【所在地】　香川県高松市　　【対象者】　発達障がい者、知的障がい者、身体障がい者

【日常の活動】
①児童デイサービス（定員10名）　②短期入所（定員4名）　③就労継続支援B型（定員14名）
④生活介護（定員6名）

「送迎用車両の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

地元で児童デイサービスを利用し療育支援を受けたい希望者が５名います。現在、法人に車両が足りなくお迎えに行けず利用者が福祉サービスを受ける事が出来ません。その為、法人で車両を購入し利用希望者をお迎えに行きたい。

実施内容

「目的」
児童デイサービスで療育支援を受けたい、利用したいと希望されている児童５名の送迎車両を購入しお迎えに伺います。
「対象」
小・中・高校生の発達障がい児、現在、身体障がい、知的障がい、自閉症、ダウン症児が利用しています。
「具体的内容」
送迎車両を購入し現在、児童デイサービスを利用希望している発達障がい児のお迎えに伺います。
希望者５名。学校利用時は授業終了時に購入車両で学校お迎えに伺います。土日、長期休みは自宅に購入車両でお迎えに伺います。

得られた効果

「期待できる効果」
今まで自動デイサービスを利用出来ずに自宅で過ごされていた児童が児童デイサービスを利用し療育を受ける事が出来ます。今まで出来なかった事や苦手だった事が支援グッズを使用する事で出来る様になったり、少しずつスキルを身につける事が出来ます。送迎車両を購入する事で土日の外出行事の参加が容易になります。公園や美術館へ行くことで余暇活動の広がりが期待出来ます。地元のお祭り等の行事に参加する事で地域の人々との交流が図れます。児童デイサービスを利用する事で家族の介護負担軽減が図れます。

今後の課題

特定非営利活動法人手と手と手は児童デイサービス、短期入所、生活介護、就労継続支援 B 型事業を行っています。現在の課題は利用者が増えてきた成人施設「スマイリーハンズ(生活介護／就労継続支援 B 型)が手狭になり特に就労継続支援 B 型事業の作業場の確保が緊急の課題になります。今後、就労継続支援 B 型事業の整備を進めていきたい。

一般社団法人ＳＥＥＫ

【所在地】　香川県高松市　　【対象者】　知的障がい者、身体障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■「生活支援センターびぃず」/生活介護　定員20名/1日平均利用者4名

　買い物、散歩等の外出・農作業・カードゲームなどの余暇活動

「防犯カメラの購入」

【助成額】　14 万円

実施目的

昨今、障がい者施設でのハラスメント事件も記憶に新しくまた悲しい限りですが香川県でも障がい者施設でわいせつ事件がありました。防犯カメラを設置することにより未然に犯罪を防ぐ効果があるのと日々の活動を映像で残して確認することによって支援者である我々自身も客観的に自分がしている支援内容をみてお互いに改善点を指摘し合えれば支援技術の向上につながる。

実施内容

日中活動を行っているフロアと玄関に、防犯カメラを二台設置。利用者様に生活記録を録画することを了承いただいてから録画を開始する。

得られた効果

・防犯効果
・日常の支援を客観視できることによる支援技術、言葉遣いの改善と向上
・職員の意識改善

今後の課題

・記録した映像や個人情報の取り扱いや管理体制の構築につとめる。

一般社団法人めりぃ

【所在地】　香川県綾歌郡宇多津町　　【対象者】　知的障がい者、身体障がい者、精神障がい者

【日常の活動】
就労継続支援B型（主に内職作業）
施設外就労としてポスティングや農作業を実施することがある
自主生産品は手作り石鹸を販売している

「利用者送迎・就労支援事業商品納品用車両の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

利用者の送迎・作業の納品をスムーズに実施することが出来、工賃の向上につなげていきます。

実施内容

ホンダフリード(6 人乗り)
使用頻度
年間 260 日
(営業日の送迎で 1 日 3 時間稼働、利用者の就労支援事業においての商品の引き取り、納品に使用)

得られた効果

利用者様の送迎において乗り心地もよく大変喜んでいただいております。また商品の納品業務においても約 10 社との取引があり、今までの車両と比べての燃費の良い車両を整備できたため利用者様にとって利便性が上がることで工賃の向上にもつながります。

今後の課題

利用者様の工賃を月額 1 万 5 千円支給できるように工賃向上計画を立てて取り組んでいきます。5 期目を迎えるので一日平均利用者数を 10 名以上になるようにしていきます。職員の定着を図るため福利厚生の充実を(退職金共済等)実施していきます。また職員のスキルを上げていくための研修や人事交流の機会をつくっていきます。

特定非営利活動法人五島あすなろ会

http://www.umakafoods.jp/asunaro

【所在地】　長崎県五島市　　【対象者】　精神障がい者、身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

あすなろ作業所：就労継続支援B型/定員20名/1日平均利用者16名

五島市指定ゴミ袋製袋業務

五島市より受託し、日に１万枚のゴミ袋を製造している。

五島手延うどんの製造販売

地場産業の五島手延うどん製造販売を行っている。

お墓参り代行サービス

島では墓じまいが年々増え、人口減少の一因となっている。定年後に帰島していただき、人口減少の抑制を目的として墓守活動を行っている。

「五島うどん製麺用小型コネ機の購入」

【助成額】　　81 万円

実施目的

利用者や職員の負担を軽減しつつも安定した品質の五島うどんの製造が可能となり、外注による大きな事業収入の確保による工賃向上と、五島うどん専門店であるばらもん亭専用麺の製造のため。

実施内容

1/2 袋（12.5kg）用スーパーミキサー1 台の購入

あすなろ作業所製麺室内に設置し、ほぼ毎日、少量の五島うどん製造を行っている。

少量の五島うどん製造とは「試作品製造」と「ばらもん亭用うどんの製造」の２種類がある。

得られた効果

①最大の目的とする、利用者や職員への負担が大きく軽減された。

副次的な効果として、従来の手ゴネは高度な技術を必要とするためにできる方が限られていたが、より多くの方にコネの作業に従事していただくことができ、作業の幅を広げることができた。また、急な依頼にも対応できるようになり、製麺事業の稼働日数が増えた。

②安定した品質の製麺を行うことができるようになった。

ばらもん亭用の麺の品質を安定させることができ、常にベストな状態で提供することが可能となった。

企業からは新たな案件の依頼が入り、早速試作品の製造に使用している。当企業からは、以前にも試作から商品化までの依頼を受けており、その際には、夏に 3,200 本、冬に 4,250 本、さらに今後はカタログ掲載が決まるなど、大きな売上と今後に繋がる実績があるため、本案件についても小型コネ機を用いることでさらなる売上増に繋がることを期待している。

今後の課題

本事業により期待される効果は前述のものに限らない。
ばらもん亭で安定した高品質の五島うどんを提供することで利用客数を増やし、利用者の働きを見てもらうことで、障害者に対する偏見を取り除き、互いが歩み寄れる場所としなければならない。
高品質なうどんが提供でき店舗が運営可能であるということは、適切な支援と環境や設備（小型コネ機など）を整えることで、障害があっても健常者と変わらず働くことができることの証明となる。
これは、貴団体と弊社が目指す共生社会の実現へと繋がると信じている。
弊社がそれを実現することで、他の島内就労系事業所へと考え方やシステムを波及させ、五島は障害のあるなしに関わらず、誰もが住みやすい地域社会となるよう活動を続けていきたい。
【写真貼付け】

特定非営利活動法人宇佐市障がい者共同受注協議会

【所在地】　大分県宇佐市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

「福祉サービス事業所　きずな」就労継続支援 A 型・就労継続支援 B 型の多機能型事業所

定員：就労継続支援 A 型 16 名・就労継続支援 B 型 24 名

1 日の平均利用者数：就労継続支援 A 型 19.3 名・就労継続支援 B 型 27.5 名

作業内容：【就労継続支援 A 型】自動車部品の組み立て作業や農業（水耕栽培）、小ねぎの調整作業やオリジナル冷凍餃子の製造販売、お弁当・惣菜の製造販売

【就労継続支援 B 型】自動車部品の組み立て作業や野菜の選別作業、農業（水耕栽培）や地域の商店街に構えた店舗の運営

「グループホーム　おとなりさん」　定員：10 名

「相談支援事業所　エール」

「弁当製造における厨房設備の改修工事」

【助成額】　99 万円

実施目的

お弁当・総菜の製造販売は、令和元年 8 月からスタートしており、さらに売上を増加させるためには、作業スペースやガスレンジ等の設備では、お弁当の受注量増加への対応が厳しいという課題があったため、助成事業において、設備の拡充・改修工事を行い、お弁当・総菜の売上増加につなげる目的

実施内容

①厨房の拡張：設備機器の増設に伴い厨房内が狭くなるという課題を解消するために可能な限り拡張をし、作業スペースの確保を行った。入口のドア部分を拡張、通路の一部分を厨房にした。

②設備機器の拡充：作業スペースの確保や効率化をするため、作業台やガスレンジ・シンクの増設を行った。

・作業台を 2 台増設：盛り付けをするスペースを増やし、約 25 個のお弁当の製造が可能。

・ガスレンジの増設：加熱調理の同時進行が可能となり、メニューの幅が広がることで飽きないお弁当を続けることが可能。さらに待ち時間も解消されるため、早い段階で盛り付けを行うことができ、作業効率アップにつながる。

・シンクの増設：大きめのシンクを増設することで、お釜や鍋など大きな洗い物がしやすくなり、作業効率アップにつながる。

設備機器の増設ということで配置上ガスレンジや水道の場所も移動となるため、作業導線を考えた上で、効率の良い場所に設置を行った。

得られた効果

①厨房の拡張：入口のドア部分を拡張し、通路の一部分を厨房にしたため、改修前のデッドスペースがなくなり、厨房内が広くなった。

②設備機器の拡充：

- 作業台を 2 台増設：作業スペースが広くなったことで、同時盛り付け数が増加し、作業効率が上がった。また、作業内容（盛り付け・仕込み等）によって作業台を仕切ることが可能となり、衛生面も向上した。
- ガスレンジの増設：同時加熱が可能となったことで、加熱調理の大幅な時間短縮につながった。
- シンクの増設：大きな炊飯釜を洗いやすくなったため、利用者の負担が減少。さらに、改修前には洗い物の合間に野菜等を洗っていたが、現在は野菜用というように分けられるようになり、衛生面も向上した。

今回の設備の増設・改修工事のおかげで、作業効率が上がり時間短縮につながったため、その分、お惣菜づくりや曜日限定のスイーツづくりやサンドイッチづくりに注力できるようになった。また、作業区分ごとに分けられたり、迅速な調理が可能になったりと、衛生面の向上にもつながった。

今後の課題

今後の課題として、売上の増加につなげるため、商品開発や販路開拓に注力していきたいと考えております。現在は、日替わり弁当の他、日替わり総菜や木曜日限定のサンドイッチ、金曜限定のスイーツの販売を行っております。サンドイッチは当事業所で生産しえいる水耕栽培のレタスを使い、野菜たっぷりの食べ応えのあるものにし、スーパーやコンビニエンスストアで販売しているサンドイッチとの差別化をすることで、お客様が飽きない工夫をしております。まだまだ、売上としての実績は少ないですが、作業効率が向上した分、生産可能な商品や数量も増えたため、今後も売上増加に向けて、商品開発や販路開拓を続けてまいります。この度は助成していただき、誠にありがとうございました。

オフィスＨＴ合同会社

https://iikoen.com/

【所在地】　鹿児島県日置市　　【対象者】　発達障がい者

【日常の活動】
指定障害児通所支援事業

「送迎用社用車の購入」

【助成額】　100 万円

実施目的

新規事業所の開設に伴い利用児が増えたため、
送迎用の車両購入を検討した

実施内容

◇車両購入
　車両名：ムーブ キャンパス
　使用頻度：開所日に利用している

　R3. 9. 10　発注　R3. 9. 12　請求
　R3. 11. 22 自賠責保険加入手続き
　R3. 11. 25 車両購入代金入金　R3. 12. 8　納車

得られた効果

新車購入により、送迎計画がスムーズになった。
児童発達と放課後等デイの多機能型事業の運営としては、送迎の時間が重なることがあり、代表の私有車はもちろん、曜日によっては大型タクシー（10 人乗り）を利用していた。新車の導入で、軽自動車 2 台を使ってゆとりを持って送迎できる状況となった。

今後の課題

事業拡大に伴い、放課後等デイサービスのサービス提供を見直す。サービス提供時間の拡張については、来年度 5 月から運営規定を変更する。本事業による新車の導入により、活動内容の充実を図る。長期休業中などこれまでできなかった遠隔地での活動が期待できる。また、代表は私有車を送迎車にあてることが軽減されたため、業務が円滑になった。障がいを持つ子どもが地域で育ち、暮らしやすくするために地域での包括的な支援ができるように地域での理解を深めていくことが今後の課題である。

特定非営利活動法人風花

kazahana-noda.jimdofree.com

【所在地】　岩手県九戸郡　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

「風花」：地域活動支援センター

定員15人　1日平均利用者6人

入浴サービス・昼食提供・健康づくり（いきいき100歳体操）・創作活動・裂き織り・野菜づくり・集いの場運営業務（野田村委託事業）・かだるカフェ（毎週１回）

「就労継続支援Ｂ型事業所開設に向けた改修工事」

【助成額】　100 万円

実施目的

この事業の目的は、就労継続支援B型事業所を新規開設するために、老朽化した旧保育所の改修工事を行うことである。

実施内容

◇工事

【A】仮設工事…仮設工事、足場、養生、片付け清掃、廃棄物処理

【B】塗装工事…職員室、職員トイレ

乳児室、保育室（3）、遊戯室に関しては変更し一部構造用合板の上塗装仕上げ

保育室（1）、保育室（2）に関しては変更しクロス仕上げ

【C】内装床工事…職員室

【D】木部補修工事…Ｂの工事をするうえでの破損個所の補修

得られた効果

改修工事を実施したことで、老朽化した職員室・トイレ・厨房の壁、さらにカフェスペースとなる2部屋（旧保育室3、旧乳児室）、多目的室（旧保育室2）、作業室（旧保育室3）、のサビ釘が浮いた壁をきれいに直すことが出来ました。これにより、利用者の方やお客様が清潔感あるスペースで作業や買い物、飲食を楽しんでいただく環境を整えることが出来ました。また、アート作品や商品の展示・販売の場となる元遊戯室についても、傷んだ壁を補修することで太陽の光が木目と調和する、明るく落ち着いた空間にすることが出来ました。

特に、職員室やトイレ、厨房といった、日光の当たらない施設の北側は、塗装を施すことで部屋全体の雰囲気が明るくなり、利用者の方も職員も晴れた気持ちで仕事に取り掛かることが出来るであろうことから、作業効率の向上が見込まれます。

今後の課題

今後の課題として、村内初のB型事業所として地域を盛り上げるためにも第一に安定した運営が課題となります。当法人開設から6年が経ち、毎年少しずつ資金繰りを安定的なものにすることが出来ています。そして今回新しくB型事業所を開設するということは、今まで以上の利益を上げ利用者の方々により多くの工賃を渡せるようになること、そして風花のメンバーに「ここで働きたい」と思ってもらえる場所、お客様に「こんな素敵なところがあるんだ」「また来たい」と思ってもらえる場所にすることが課題であり目標となります。そのために、基本的なこととして、毎日の掃除といった環境整備をしっかり行うこと、六花に集う人たちのコミュニケーションシステムの構築（挨拶、礼儀、笑顔）を研修も交えながら徹底します。そして今回貴団体にいただいた助成金で仕上げた、この建物の雰囲気を存分に活かし、大切に維持していきたいと思います。

特定非営利活動法人セミナ～レ

http://seminare-kesennuma.or.jp

【所在地】　宮城県気仙沼市　　【対象者】　発達障がい者、身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】
障害福祉サービス
①ほっぷ　:放課後等デイサービス、短期入所、児童発達支援、日中一時支援
②すてっぷ:生活介護

「土地の整備およびビニールハウスの設置」

【助成額】　80 万円

実施目的

利用者の半数以上の方に行動障害があり、屋外での活動は飛び出し等の危険を伴うため活動は室内中心となります。障害が重い方ほど外に出る機会が制限される現状を何とかしたいという思いと、狭い室内ばかりの生活から解放されることでストレスを軽減させ情緒の安定にもつなげたいために実施する。

実施内容

2021年9月3日～2022年3月12日　ビニールハウス関連備品の購入
2021年9月13日(月)　造成工事開始
9月14日(火)　造成工事終了
9月27日(月)　ビニールハウス資材搬入
9月28日(火)　ビニールハウス設置工事開始
9月30日(木)　ビニールハウス設置完了

得られた効果

●行動障害のある方はまわりにある様々なものに目が向いてしまうため、屋外では作業に集中することが難しく、気になるものが見えると急に走り出したりすることがあります。ビニールハウスでの作業は囲まれているため、視覚への刺激が少なく落ち着いて作業することができるようになりました。
●狭い室内だけの活動から解放されることや、太陽の光を浴びたり風を感じたり土に触れることによってストレスが軽減され、心身の安定につながっています。
●出入口が限られていることにより職員の目が届き、飛び出し等の危険を容易に回避することができるようになりました。
●季節や天候に左右されることがなく作業をすることができるようになりました。
●車椅子の方も作業に参加することができるようになりました。

今後の課題

ビニールハウスでは野菜や野菜の苗、花作りにも挑戦したいと考えております。花は見る人の気持ちを落ち着かせ癒す効果があると言われています。野菜を作りながら花も育てプランターに寄せ植えし、近隣の幼稚園や保育所、小学校や公共の施設に置かせていただきたいと考えております。障害のある方、ご家族、地域の方々にも喜んでいただけるようなことにもビニールハウスを活用させていただきたいと考えております。

特定非営利活動法人ハンス・バーガー協会

【所在地】　宮城県岩沼市　　【対象者】　てんかん患者、知的障がい者

【日常の活動】

○共同生活援助グループホームリヴィール（定員41名）

リヴィール7名、アールト4名、ポールト6名、スキップ6名、ヘーメル3名、カールスⅠ・Ⅱ4名、カナール4名、ハーヴェン5名　合計39名が入居中です。

○多機能型事業所サポートセンターリーチェ

・就労継続支援B型／定員23名／1日平均利用者23名

無農薬野菜の栽培・販売、弁当製造・販売、ベーテルの委託洗濯清掃、園芸作業、創作活動

・生活介護／定員8名／1日平均利用者7.3名

受託作業、創作活動、ガーデニング、体操

「畑作業で使用するビニールハウスの設置工事」

【助成額】　75 万円

実施目的

就労継続支援B型の畑作業での栽培環境を改善し、無農薬野菜の栽培数増加と工賃アップを図るため

実施内容

◇物品購入

ビニールハウス（間口3間×奥行13間）の購入

岩沼市押分にお借りしている畑に、無農薬野菜の栽培のためのビニールハウスを設置しました。

得られた効果

これまで露地栽培を中心に無農薬野菜を栽培してきましたが、ビニールハウスの設置により、冬場の収穫量を安定させるとともに虫や鳥からの食害を減らし収穫量を増加させます。

さらに、収穫した野菜の販売数を増やし、利用者の工賃を月平均 15,000 円にアップします。

今後の課題

今後の展望として、設置させていただいたビニールハウス内に水耕栽培用の設備整備を行いたいと考えています。水耕栽培用の設備を整えることで、温度管理ができるハウス内での作業が可能となり、季節や天候に左右されずに無農薬野菜の栽培を行い、収穫量の増加とともに、作業も増え、利用者の工賃アップになると考えています。

特定非営利活動法人ポラリス

http://polaris-yamamoto.com

【所在地】　宮城県亘理郡　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】
障害者総合支援法に基づく障害者支援事業
①「ポラリス」：就労継続支援B型/定員20名/1日平均利用者14名）
②「相談支援室ポラリス」：障害児者相談支援/対象者57名

「福島県沖地震で被災した施設の屋根の改修工事」

【助成額】　100 万円

実施目的

宮城県山元町で障がい者の日中活動支援に取り組んでいる NPO 法人ポラリスは、2021 年 2 月 13 日に福島県沖を震源とする地震が発生し、活動拠点施設が大きな被害を受けました。
東日本大震災の被災で人口 12,000 人となった過疎地、宮城県山元町は、障がい者支援の専門スタッフや資源が少ないため、今回損壊した当団体の建物の修繕と耐震強化の改修工事を行い、今後災害等がおきた時も障がい者を持続可能にすることを目的にしています。

実施内容

2021 年 2 月 13 日発生した福島県沖を震源とする地震で損壊した当団体の建物の修繕に耐震強化を加えた改修工事を行いました。

◆主な改修工事（内訳）
①仮設工事（安全対策費、養生費、安全ボックス、その他）
②解体工事（施設全室の既存ＰＢ撤去、天井取合部、処分費、荷物移動）
③内部補給工事（内部合板張り、小屋妻側合板張り、取付各種）
④内部クロス工事（既存クロス撤去、クロス張替、廃材処分費、その他）
⑤サッシ交換工事（既存玄関撤去、新規玄関ドア、勝手口ドア撤去、新規勝手口ドア、タイル張り、シーリング、その他）
⑥外壁タイル工事（タイル、木知財、タイルガラ処分、その他）
⑦屋根工事（瓦撤去、処分料、アスファルトシングル屋根加工一式、足場工事）
⑧外装工事（タイル撤去、下地調整、廃棄物処分費、その他）
⑨その他改修工事にかかる諸経費

上記のうち、⑦屋根工事を助成金で実施。

得られた効果

従来の瓦屋根を軽量化するためアスファルトシングルに張り替えすることが出来ました。その際、屋根下地をもう１枚張り足して、防水シートを貼ってアスファルトシングルを貼り直すという軽量化に加え、様々な災害対策を考慮した丁寧な工事を行うことができました。
私達の活動拠点であるこの建物での活動が再開でき、これからも障がいのある方や職員が安心して活動をしていけるようになりました。

今後の課題

コロナ感染拡大や異常気象など、これからの社会情勢に、今後の障がい者支援のあり方にも不安を感じる日々です。当団体は、今後もこの地域は地震が多いということを想定しながら、そのような中でもこの地域で暮らす障がい者やその家族が孤立することなく暮らしていくための支援活動を進めていくことを持続可能なカタチで取り組みたいと思っています。
更に防災について地域の方々とも協力し、日ごろから学びあい、避難訓練なども継続して実施し、この地域で暮らす障がい者の方々との活動を継続していくことに努めて参りたいと思います。

特定非営利活動法人ＣＨＡＮＴ

【所在地】　福島県会津若松市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】
共同生活援助
就労継続支援B型

「４階トイレの改修工事」

【助成額】　　100 万円

実施目的

4階トイレが故障して使えなくなり、利用者さんに不便な生活を強いてしまっている。
建物としては4階トイレ排水管の漏水で、3階トイレ天井や1階玄関の天井に漏水がまわり、特に1階玄関天井のボードが落ちてしまう状態になってしまった。また、別々のトイレを使うことによって、懸念される新型コロナウイルス感染予防の対策にもしていきたい。

実施内容

基礎工事：4階トイレの床解体～コンクリートの処分と復旧。
設備工事：既存配管の撤去処分。天井内汚水、排水配管。デッキ開口。3階トイレ天井解体、復旧。
　　クッションフロア仕上げ。小便器、大便器の器具交換。養生。
防水工事：床のFRP 防水。
足場工事：解体に伴う廃棄物搬出、設置器具等搬入用に4階トイレ部分までの外部足場設置。
他、現場清掃。

得られた効果

・4階の利用者さんが、3階のトイレまで行くというストレスがなくなった。特に、精神や身体に障がいのある利用者さんが「トイレが楽になって良かった」と喜ばれていました。
・排水の漏水がなくなったことで、他の階への影響が抑えられ安心できる生活環境になりました。
・今後、1階天井の補修工事ができるようになりました。
・各階のトイレが使用できることにより衛生面でも飛躍的に向上し、新型コロナウイルス感染予防対策としても大きな効果となっています。

今後の課題

・利用者さんの高齢化に伴う建物・設備等のハード面や、介護的支援、グループホームでは対応できない状態になっても入院受け入れがない場合などのサービス提供の困難化、複雑化などにどう対応していくか。
・介護、夜勤のできる職員の慢性的な人材不足。
・度重なる地震で建物の老朽化が促進されてしまっている。改修、補修箇所が増えてきている。
・運営の後継者。

社会福祉法人郡山コスモス会

http://www.cosmoskai.jp

【所在地】　福島県郡山市　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】
①相談支援事業　②地域活動支援センターⅠ型　③共同生活援助　④宿泊型自立訓練　⑤生活訓練
⑥生活介護　⑦就労継続支援A型・B型　⑧短期入所　⑨自立生活援助　⑩就労定着支援

「調理場・調理機器の整備」

【助成額】　70 万円

実施目的

就労継続支援B型事業所ワークコスモスで運営するパン焼き菓子店舗
「BAKESHOPmogmog（ベイクショップモグモグ）」では、20名の障がい者が働き、市内の様々な企業や公共施設、施設等への訪問販売と店舗での販売を行っている。
本助成事業では棚設置及び調理機器整備の事業を計画している。本事業を実施することで、商品（パン・焼き菓子等）を増産することを実現し利用者の毎月の工賃向上につながり、さらなる障がい者の経済的な自立と就労へのステップアップに向けた一助になることを目的としている。

実施内容

①作業場の棚設置工事
②電気フライヤーの設置

得られた効果

①棚設置により、作業場での動線を妨げていたラックを撤去し、空いた場所に作業台を追加することができ、利用者の作業効率が改善した。また、倉庫に資材等が入りきらず段ボールごと作業場や一部店舗で保管するしかなかった状況も、棚設置により、分別して保管できるようになり、安全面においても効果がでている。

②フライヤーを新たに設置することができ、以前使用していたものよりコンパクトになり空いたスペースで別の作業が可能になった。また、使用する油の量も削減され、経費削減にも効果が出ている。

今後の課題

当団体の課題として、パン・焼き菓子のさらなる売上拡大が挙げられる。障がい福祉サービスの事業である就労継続支援 B 型事業として運営しているが、全国の平均月額工賃が 16,000 円程度である。当事業所では次年度平均月額工賃 25,000 円を目標としているため、その目標達成のために、本助成金による効果を最大限にいかして、次年度に向けて更なる「商品製造過程の効率化」と「年間売上増加のための戦略と企画」を、具体的に計画していきたい。

特定非営利活動法人シュシュ

【所在地】　栃木県佐野市　　【対象者】　知的障がい者、発達障がい者、身体障がい者、保育園児

【日常の活動】

・児童発達支援事業　0～5歳障がい児の発達を促すマッサージや手指運動、遊具を使った運動。基本的生活習慣の向上を目指し、文化や音楽に親しみ知的好奇心を刺激して個人の特性を伸ばす療育を行う。
・放課後等デイサービス　障がいのある小中高校生を対象に身辺自立を促し、社会との接点を豊かに自分も周りの人も大切にする生活を目指す。宿題や個々に添った学習とともに、子どもの特性や可能性を引き出す活動。
・小規模保育事業A型　0～2歳児障がいを持つ子も持たない子も一人ひとりの可能性を広げながら成長を促す。

「階段フロア安全柵設置工事」

【助成額】　60 万円

実施目的

コロナ禍により不安定で緊張の強い子どもたちにはパーソナルスペースが必要になった。隣接する建物 2F の空きスペースを借りられるようになったが、子どもが落下する危険性の高い箇所があるので、安心して過ごせるための工事が必要になった。

実施内容

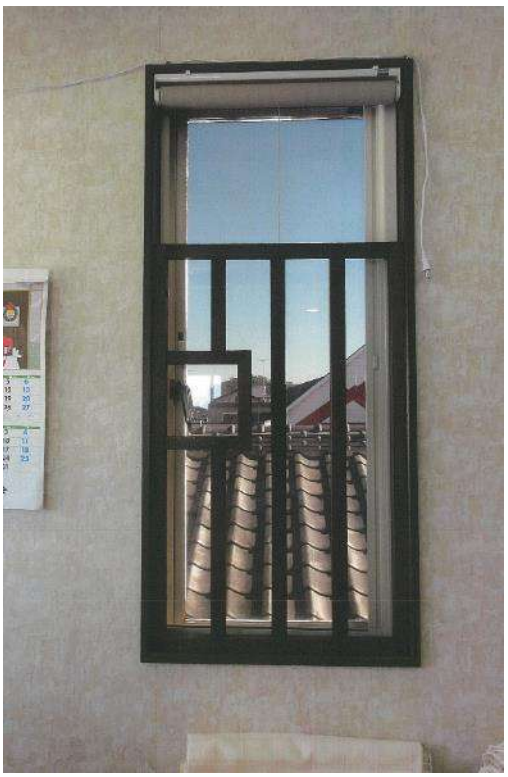
①吹き抜けの階段を上ったところのホールから下を覗き込むことで、落下の危険があるため、壁の上部から天井に向けて安全柵を設置
②壁上部から天井に向けて安全柵を設置するにあたり階段室壁間に壁面補強
③窓からの飛び降り防止として高窓防護柵の設置
④2 階から 1 階への単独移動を避けるための階段出入口の防護柵設置

得られた効果

・使用した材料の木材がとても温かみのある素材であったので、ただ危険防止のために設置したという感じではなく木と木が組み込まれた柵にしたので、子どもたちにとっても違和感がなく、素敵な仕上がりとなった
・何より子供たちがお部屋を自由に行き来できるようになったので、やりたいことがやりたい時に出来るようになり、職員からの過剰な声掛けを受けることもなくなった。その結果、子どもたちは自分の意思で行動できることが増えた。
・子どもに合わせた環境が作れたので、子どもたちは個別の療育も落ち着いて受けられるようになった。
・職員の強い緊張感が緩和した結果、危険回避への言葉がけも減り、穏やかに見守れるようになった。子どもも職員もお互いに個別の療育でも集中しやすくなった。

今後の課題

・将来的には 0 歳から高齢者までのライフステージに寄り添っていける、生活介護事業、就労系事業、グループホーム等も含めた複合的な施設を作りたい希望はあるが、2018 年度の放課後等デイサービス給付費の引き下げや、コロナ禍における休校、利用自粛の影響は多大で資金面での苦悩を抱えています。今回も貴団体の助成金が無ければ、法人が必要としている部分から工面するしかなく構想も遅れてしまう要因になってしまったと思います。



特定非営利活動法人　くまっこクラブふくい

【所在地】　福井県福井市　　【対象者】　知的障がい者

【日常の活動】

■放課後等ディサービス事業　■生活介護事業　■日中一時支援事業　■移動支援事業

「事業所の室内照明機器の LED 化工事」

【助成額】　　20 万円

実施目的

障がいのあるお子さんが快適で学習したり、
遊んだりできる環境を整える。

実施内容

放課後等ディサービス事業所の室内のホールなどの
照明機器を取り換えて、LED 化する。

得られた効果

・放課後等ディサービスを利用している子どもたちが宿題などの学習をする際、照明が明るくなったことで学習に集中しやすくなった。
・集団や個別の遊び活動で、子どもたちの動きがより活発になった。
・利用者の保護者や見学者の方から、事業所内が明るくなったことでイメージがアップした。

今後の課題

・現在の放課後等ディサービスの事業は徐々に老朽化が進んでいる。また、耐震工事も不十分なままである。いずれリフォーム工事をしたい。
・2024 年をめどに、グループホームの開設をめざして準備をすすめている。土地や家屋建設にともなう費用や必要備品の購入などが必要である。

特定非営利活動法人はぁもにぃ永平寺

【所在地】　福井県吉田郡永平寺町　【対象者】　重症心身障がい者

【日常の活動】
生活介護、児童福祉法に基づく事業（放課後等デイサービス等）、日中一時支援事業

「駐車場の舗装工事」

【助成額】　92 万円

実施目的

駐車場の積雪を除雪機で排雪するための駐車場のアスファルト舗装工事
地域との交流イベント、屋外活動場所としての整備を兼ねる

実施内容

◇舗装工事
施工期間　：2021 年 10 月 4 日～10 月 5 日(2 日間)
施工業者　：有限会社西口建設(永平寺町松岡志比堺 3-17-1)
工事内容　：駐車場のアスファルト舗装工事　307 ㎡
◇イベント
イベント名　：はぁもにぃ青空陶芸教室
会場　：はぁもにぃ駐車場
参加人数　：地域の方々6 名、利用者 7 人、スタッフ・理事、実習生(看護師)
内容　：陶芸家の講師をお招きし、作品制作作を通して地域の人々と交流を図る。
　　カフェコーナーで歓談する。

得られた効果

昨年の降雪で駐車場の除雪を行うのに、業者による除雪を頼んだが地面の砂利が近隣に広がり迷惑をかけることとなった。駐車場の舗装が急務であったが、事業所建設による借入金の返済、人件費の確保で十分な資金がなく、困り果てていた時に助成申請を申込み、採択され工事の実施が決まり大変助かりました。事業所が地域で活動していくための障壁を取り除くことができた思いです。
また、イベントや屋外活動を実施する場所として事業所と出入りがすぐに出来、地域交流の会場として有効に活用できる。

今後の課題

医療的ケア児、者の支援を目的とした事業所・施設そのものが少ない中で、障がい者が地域生活を送ることはまだまだ課題が多い。

障がい者もその親（保護者）も年を重ね、直接介護に不安や困難さを抱えて、日々暮らしている。グループホームや関連したサービスの充実が必要だと大いに感じている。

団体の理事、スタッフも新陳代謝、地域住民の理解・共同をはからなければ事業の継続は危うい。新規の事業の開発とともに設立当初の理念の継承にも比重を置く必要がある。

特定非営利活動法人地域生活サポートネットほうぷ

https://supportnet-houpu.com/

【所在地】　大阪府大阪市　　【対象者】　発達障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

・「楽童ほうぷ」：放課後等デイサービス／定員10名／一日平均利用者8名（2021年2月現在）
特色として、「こどもＩＬＰ」（自立生活プログラム・こども版）、「ワタシ×ミライワークショップ」（こどもから始める個人将来計画）、グループワーク（トーキングサークル）、「じぶん研究」の取り組みがある。毎月、音楽・創作・グループワーク・イベントを実施。イベントは、公共交通機関を利用しての外出に加え、地域行事への参加や地域交流を目的とした企画も実施しており、地域住民とのつながりができている。

・「相談支援ほうぷ」：障害児相談支援事業／契約者28名(2021年2月現在)
関係機関と連携して相談援助を行う。

・「こども相談ほうぷ」：子どもの成長や発達、就学や進学、幼稚園保育所や学校での悩み事についてなど、子育てに関する相談を受けている。予約制・無料・受付：10時～18時（日曜・祝日・盆・年末年始は休み）

・子育てしやすい地域づくりを目指し、子育て学習会の企画実施、保護者交流会を実施する。

・発達が気になる子どもの保護者向けに、子育て支援の情報を発信。

・大阪市の「ブックスタート」事業に協力（実施会場）。

・「キャンプ」：障害児と学生ボランティアとの宿泊体験
（年1回、羽衣青少年センターユースホステルや信太山青少年野外活動センターなど）

「地域交流の場づくりのためのオーニング設置」

【助成額】　100 万円

実施目的

10 月に竣工した新施設の道路面に、子どもたちや地域の方々などが交流できる場所をつくるため、オーニングテントを設置する。

実施内容

新施設の道路に面したスペースに、オーニングテントの設置工事を実施
施主：特定非営利活動法人地域生活サポートネットほうぷ
理事長　向井裕子　大阪市旭区清水 2-16-22
工事：株式会社コスモス　代表取締役　西田邦夫　大阪市中央区島之内１丁目７番２３号
工事日：2021 年 10 月 21 日（木）、29 日（金）
新施設お披露目会：11 月 6 日（土）
新施設オープン：11 月 24 日（水）

得られた効果

コロナ禍にあって地域行事が中止され、室内での地域交流イベントの開催が困難な時期だからこそ、風通しの良い場所で、人々が「つながる場」が必要だと考える。
コロナ感染症拡大以前に屋内で実施してきた「カフェほうぷ」や「ほうぷ茶屋」などの障害をもつ子どもたちの「しごと体験」を屋外で実施することで、子どもの体験を広げながら、地域の方々との交流をはかっていくことができる。また、地域の方々にとって「近所の縁側」となる場所を創ることで、地域の交流の場とすることができる。オーニングテントを設置することで、強い日差しや雨露を避けることができ、季節や天候にかかわらず、人々が気軽に立ち寄り・出会い・語り合う場、子どもたちが地域住民と交流する場を開くことが可能となる。

今後の課題

- 大学とのつながりを再構築：コロナ禍のため、学生ボランティアの人数が減ったため、学生との交流をはかることができるように大学とのつながりを再構築
- 障害児のためのイベント開催：障害をもつ子どもたちと地域の方々とのつながる機会をより広げていくために、オーニングテントの場でのイベント開催の企画・運営
- 地域社会に根ざした社会教育・生涯学習の拠点として：「まちづくり」「社会的孤立」「子どもの居場所づくり」「次世代育成」など、地域が抱える諸課題の解決に向けて、多様な個人・団体の交流や学び合いをコーディネートし、新たな事業や試みの創発につなげていくネットワークづくりなど
- 物販の販売などのスペースとして：地域住民や、障害者の就労支援を行っている施設が、物販や催しなどを通して社会的交流を活性化するためのスペースとしてオーニングテントの場を開放

一般社団法人さんでーかふぇ

https://sundaycafe2019.wixsite.com/pokopoko2019

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者

【日常の活動】
就労継続支援 B 型ぽこぁぽこを運営
主に精神障害者とその家族の休日の居場所としてのサンデーカフェの実施月 2 回開催）
精神障害者当事者会「バクとクローバー畑」の実施（月 1 回開催）

「作業場所の環境改善工事」

【助成額】　　78 万円

実施目的

2020 年 12 月に借りた作業場（別館）の老朽化部分を改修し、明るく清潔な部屋にする事で利用者が快適に安心して過ごし作業できる事を目的とします。

実施内容

1. 作業室 A 改修
   押入れ床の張替え張替、ふすま改修及び敷居交換、壁のクロス貼り、天井板塗装、照明器具取替、
   上記に伴う付帯工事（産廃処分、最終清掃等）
2. 作業室 B 改修
   押入れ部天井部分改修、垂れ壁撤去、ふすま張替、壁のクロス貼り、天井板塗装、
   上記に伴う付帯工事（産廃処分、最終清掃等）
3. 給湯室、通路、物置
   壁クロス貼り、天井板塗装、
   上記に伴う付帯工事（産廃処分、最終清掃等）
4. 休憩室改修
   壁クロス貼り、天井板塗装、
   上記に伴う付帯工事（産廃処分、最終清掃等）
5. 西側外壁補修
   モルタル補修及び塗装

得られた効果

汚れた壁や天井が白くきれいになった事、並びに低い垂れ壁を撤去した事で室内がとても明るくなり、また背の高い人が頭を打つ事があった垂れ壁を撤去した事で安全になりました。
外壁を補修した事で老朽化を防止できた事と見栄えも綺麗になりました。

今後の課題

必要最低限の改修は完了しましたが、今回未実施であった和式のトイレ部分の改修並びに入口が狭く明かりがあまり入らない店舗部分の改修を行い、更なる環境改善と地域の方々に来ていただき易い明るい店舗への改善を次年度以降計画したいと考えています。

特定非営利活動法人ヘルパーGOGO

https://helpergogo.net

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】
重症心身障がい児者を対象とした居宅介護、移動支援、放課後等デイサービス、生活介護事業（各一か所）

「トイレ用安全バーの設置工事」

【助成額】　　21 万円

実施目的

排泄時に便座に座る利用者の転倒防止

実施内容

■ハートリーフレスト(テーブルタイプ)の購入
　排泄時に便座に座る利用者が転倒しないよう施設内の手洗に
　ハートリーフレストを設置した

得られた効果

ハートリーフレストを設置したことで利用者の転倒リスクを減じることができた

今後の課題

より多くの利用者を受け入れるために現在の 2 店舗(2 店舗合わせて約 250 ㎡)を 1 店舗(300～400 ㎡)に統合すること

株式会社いっぽ

http://ippo-kobe.com/

【所在地】　兵庫県神戸市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■障がい者福祉サービスいっぽ　就労継続支援事業B型/定員20名/一日平均利用者10名
企業からの下請け内職業務（マスクとチラシ封入・イヤホン検品・大手通販出荷作業）飲食店の清掃作業
草抜き作業等

■英会話・手話・脳トレクイズを実施（各月1回）

■季節ごとの行事　初詣（1月）・豆まき（2月）・ハロウィーン（10月）・クリスマス会（12月）

■社会見学（9月～10月）・神戸税務署（2020年）■フリーマーケット開催（2019年）■消防訓練等

「トイレ・手洗い場の増設工事」

【助成額】　59 万円

実施目的

トイレ・手洗いを利用する人が多いため混雑解消対策として、トイレ・手洗い場増設

実施内容

トイレ増設工事の場所を業者の方と再度確認を 11 月中に行い、実施期間が本来ならば 12 月 1 日～12 月 5 日の予定でしたが、平日に行うとどうしても配管工事（新しい配管を事業所内で行わなければならないこと）で、利用者の方の安全が確保できない為、期間を延ばし 12 月 15 日迄となりました。
作業実施内容として、台所を解体・給湯器を外し・配管をつなぎ合わせ・遮音の板を用いて枠組みを作り・板を取り付けトイレ便器をつなぎ合わせ・簡易手洗いシンクを 2 つ新設・給湯器を再設置・クロス貼りを行い作業は期間内で終えました。

得られた効果

・既存の男女兼用のトイレがなかったが、トイレを増設することにより混雑が無くなり、新型コロナウイルス感染予防対策としても効果が見られる。
・シンクが 2 つになり、使い分けができ、感染防止の手洗いが列を作らず行う事ができ、ストレスがなくなりました。

今後の課題

・現状、職員含め 20 名弱事業所に居ることがありますが、利用者増加をめざし、トイレ問題がなくなったことにより、こまめな休憩と我慢せずにトイレを使って頂く声掛けを行っていく。
・白の壁なのでウォールシールで木々のシールを貼って、御社の小鳥シールが活かせる空間作りをしたいと思いました。小鳥の数も増やしたいです。

特定非営利活動法人合氣道播磨裕和会

【所在地】　兵庫県姫路市　　【対象者】　知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

・「児童発達支援」

・「放課後等デイサービス」

■合氣道の普及推進及び技術向上のための講習会等開催事業

■合氣道指導員の養成及び認定並びに派遣事業、

■合氣道を通じた子育て支援事業

「事務所開設のためのトイレの改修工事」

【助成額】　53 万円

実施目的

事務所開設のため、プライバシー保護と未就学の幼児用にも対応できるトイレの改修

実施内容

①事務所開設にあたり、男子小便器と男女兼用便器の 2 基が隣接設置されプライバシー保護が必要。
②児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能施設であるため、未就学の幼児用にも対応が必要。
以上 2 点を改善できるよう、以下の工事を実施。

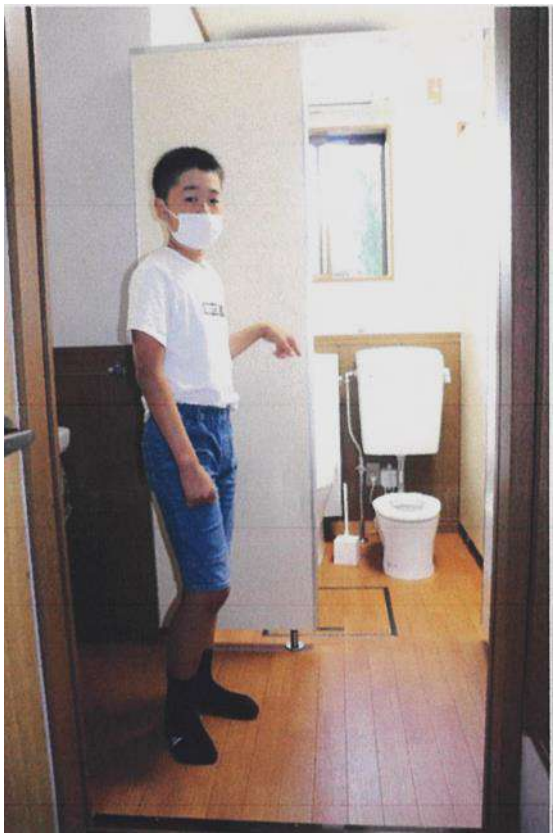
（1）間仕切りブースの新設
（2）3~5 歳児用タンクの新設
（3）男子小便器を撤去し成人用便器の増設

得られた効果

施設は、現在、年長 2 名、小学生 7 名、中学生 1 名、職員スタッフ 5 名の計 15 名が利用している。
トイレ改修工事により、男女でのトイレ使用にも、幼児のタンクの高さにも配慮されており、好評である。第一声「この便器、かわいい」「学校のトイレみたい」・・・があり、玄関口での「ただいま！」が一層大きくなった気がする。

今後の課題

現在 5 人槽の合併浄化槽が入っているが年数も 10 年は経過している。使用頻度も増え、容量が小さいため、改善が必要である。



READY
TO SKB

特定非営利活動法人ハレルヤ福祉会

https://www.eonet.ne.jp/~hareruya-himeji/

【所在地】　兵庫県姫路市　　【対象者】　知的障がい者

【日常の活動】

・障害福祉サービス事業所「ミルトスの木」（就労継続支援B型事業所）/定員22名/1日平均利用者21名
　働く：手作りパン＆焼菓子の製造・販売/企業請負（内職）/施設外企業（企業内）就労。余暇活動支援。
　発信：イベントやバザーに参加・出店/夏休みふれあいパン教室/冬休みふれあいシュトーレン教室/
　　ワークショップを開催
・「空の鳥」（指定特定障害児相談支援事業・指定特定障害者相談支援事業）
　福祉サービスを利用する、または利用したい障がいのある人や子どもにサービス等利用計画を作成し、
　関係機関と連携し生活全般を支えます。
・地域交流

「障害福祉サービス事業所の外構工事」

【助成額】　100 万円

実施目的

より地域に根差した福祉事業を行うため、また利用者が快適に安全に通所出来るよう事業所の外構を整備することを目的に実施しました。

実施内容

事業所の外構全般の工事（サイクルポート、敷地高低差の軽減、スロープ設置含む）

地域に根差した福祉事業を 20 年前から実施している中、自転車で近郊から通所する利用者も増え、地域の方々も気軽に集う場となりました。サイクルポートを設置し敷地の高低差の軽減やスロープを付けることでより安全に利用者も地域の方々も利用できるように実施しました。

得られた効果

コロナ禍での新たな試みに地域、利用者、保護者、職員もハッピーに。

12 月 2 日、3 日、4 日に関係機関、地域住民、利用者及び保護者の方々に内覧会を実施したところ、大勢の方々に見学に来ていただくことが出来た。その方々に助成金を頂いたことでこのような立派な外構ができたことを披露させてもらった。利用者や保護者はサイクルポートが出来てこれまで雨の日は自転車が濡れていたが、これで安心との感想をお聞きした。また地域の方々からは駐車スペースが広くなりこの場でイベントを実施してはとの意見もいただいた。今までも当事業所を自治会の会合の場として使用していたが、敷地の高低差がなくなったことやスロープが付いたことで、安全に使えると喜んでもらえた。

今後の課題

利用者の年齢の幅が広がりつつあること

障害福祉サービスは就労移行支援 B 型事業として活動してきたが、利用者は 48 歳から 18 歳と年齢の幅が広がっている。また作業(働くこと)中心の活動がしんどくなってきている利用者も見られる。今後は創作部門など「動」から「静」の活動の必要性を感じている。

特定非営利活動法人尼崎市身体障害者連盟福祉協会

https://bcaweb.bai.ne.jp/amasinren/

【所在地】　兵庫県尼崎市　　【対象者】　身体障がい者、精神障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

・尼崎市地域活動支援センター事業　1日平均利用者　8名
　リサイクルショップ店番、店内掃除、商品の手入れ、提供品の仕分けなど
・バザー、製本、内職、ポスティング、自販機、チラシ広告等、依頼時に作業
・中途失聴者への手話学習会
・利用者や職員との親睦食事会

「敷地内作業所の床の改修工事」

【助成額】　　68 万円

実施目的

障がい者が働く環境としては、敷地内にほこりがたまりやすいなど衛生面での課題が残っている。
受け入れられる障がい者の範囲を広げるためにもぜひ解決したい課題である。
また清潔になれば一般の方も施設に入りやすくなり、リサイクルショップの売上増も見込める。
また、合わせて車椅子の方の動線上においてスロープの改修など動きやすさを改善したい。

実施内容

■トイレ前スロープの延長・フローリング材の張り替え
■リサイクルショップ内の床にクッションフロアー材の敷設

得られた効果

■トイレ前スロープの延長・フローリング材の張り替えによって、スロープの角度がゆるくなり車いすで登りやすくなった。また、フローリング材張り替えによって見た目がきれいになり車いすで通ってもがたつきがなくなった。
■リサイクルショップ内の床にクッションフロアー材の敷設によって店内が明るくなり商品が見やすくなった。ほこりも立ちにくく掃除がしやすくなり、掃除の時間を短縮できた分ほかの業務に充てられるようになった。また、歩きやすくなった。
　間違って商品の陶器など割れ物を落としても、割れにくくなり安全性が向上した。
■常連のお客様で、入店しやすい・商品が見やすくなったとおっしゃる方が増え好評を得ている。

今後の課題

今回の改修によって大幅に店の雰囲気・清潔感・作業のしやすさ等が上がったが、奥の食堂の床・店内の壁は予算の関係で修繕前のままになっている。そのあたりの修繕も早急に行わなければならない。
リサイクルショップが主な収入源なので、今回の改装を付近の住民の方に広く知ってもらい、利用客数を増やしてゆく。昨年よりのコロナ禍で収入が激減しているのでのぞみ福祉作業所の存続のため、喫緊の課題である。

社会福祉法人芦屋メンタルサポートセンター

https://amsc.or.jp/

【所在地】　兵庫県芦屋市　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

■地域活動支援センターⅠ型（1 カ所）　■就労継続支援B型（1 カ所）　■共同生活援助（1 カ所）

■相談支援事業所（1 カ所）

「就労支援事業所の作業室増設工事」

【助成額】　　100 万円

実施目的

就労継続支援 B 型「ライラック」の就労作業での①作業の効率化。②運搬中の事故回避。③利用者増による作業室の狭さの解消。④作業環境改善による作業収入の増加＝工賃額の向上を目的とした。

実施内容

敷地内西側の駐車場、駐輪場、受水タンクを解体し、木造スレートぶき 2 階建て延べ床面積 81.25 ㎡の作業室を新たに増築した。

得られた効果

当初の計画より約 3 か月遅れて 2021 年 12 月 22 日に引き渡しを受けました。

実際の運営は 1 月下旬を予定しています。

1 階を多目的室とし、2 階をさをり織りの作業室とすることとし、既存建物の 1 階で行っていたさをり織作業室にて、3 階で行っていたサイドレールの洗浄作業を行います。これにより、3 階への物品移動の非効率の改善と危険度回避が実現します。また地域貢献として、1 階の多目的室を自治体に休所日等に開放することとし、地域との結びつきの資源とします。早々に 2 月 5 日に使用申込を受けています。

今後の課題

作業室という面では拡大されましたが、就労作業量と新たな作業を構築しなければ、就労収入のアップは望めず工賃の向上も厳しくなることは考えられます。また、コロナ禍でいかに作業収入を確保していくかが今後の課題と考えています。

特定非営利活動法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク

https://www.kounotori-inochinet.com

【所在地】　兵庫県豊岡市　　【対象者】　発達障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■兵庫ひきこもり相談支援センターの活動（兵庫県）
　地域相談会事業・訪問支援事業・地域連携ネットワーク事業・ひきこもりサポーターフォローアップ研修
■ひきこもり支援ドーナツの会（居場所経営に対するボランティア手当豊岡市）
■ドーナツ食堂経営　■利用者への昼食供与（ボランティアが交代で作る、1日10～15食）
■若者の会・家族の会の運営（各々月1回）
■若者への心のケアワーク（個々の事業者に当たり、内職を回してもらう。若者の賃金は内職で支払われる金額で賄う）、実際の仕事現場での監督、指導（スタッフ3名）
■居場所運営（ボランティア手当内に収まらないもの）　■会員・利用者の勉強会（随時）
■近隣の清掃等作業・利用者とのグループ旅行、そば会など親睦イベントの実施

「ひきこもり等就労支援事業所の開設工事」

【助成額】　100 万円

実施目的

ひきこもりがちな方のためのケアワーク、訓練のための就労継続支援事業所(B 型)を開設する。築 40 年の物件(2 階建て)の改装工事をする。

実施内容

◇建物の痛みの著しい部分等の改装工事等をする。

1. 木工事　1 階床の合板張り、2 階トイレの戸直し(引き戸にする)
2. 内装工事　1 階壁、天井のクロス張替
3. 雑工事　1 階に炊事場にガス台設置
　1 階トイレにトイレ手摺設置、踏み台設置、和式を洋式に
　1 階照明器具、スイッチ等の電気工事、ブラインド等の清掃等
　2 階手洗い場設置
4. 換気機能付きエアコンの設置

◇新規事業所の開設

就労継続支援事業所(B 型)ドーナツワークスの開設
許可日　：2021 年 4 月 30 日
開所日　：2021 年 5 月 1 日
定員数　：20 名
登録者数　：26 名
平均利用者数：1 日 13 名

作業内容　　：就労支援 B 型事業所として自動車部品、釣り具、カップ等の加工、組み立て、農作業等を実施。室内作業の手順説明、作業、点検。農作業等の説明、作業、仕上げ等

得られた効果

◇きれいな床、壁、天井、効果的な換気用エアコン、手洗い場等は好評である。
◇心地よい事業所として作業ができ、スムーズに運営ができている。利用者、保護者、地域関係者等に好評のうちに運絵は推移している。
◇ひきこもりがちな利用者がケアワークをすることで元気になっている。
5～7 月は 1 日の平均利用者 8，9 名であったが、9～10 月 10～15 名と徐々に増え、一人ひとりの利用時間、利用日数が増加している。

今後の課題

◇ドーナツワークスの安定的な運営を図る。
・1 日の平均利用者を 20 人へ増やす。
・個々の利用者へのきめ細かな支援をさらに充実させる。
・取り組むワークの種類を増やすとともに、工賃を上げる。
・新たな職員を確保し、きめ細かな支援体制を充実させる。
・ワークスペースが狭いので、健康福祉センター1 階等も事業所とする
◇潜在的な多くのひきこもりへのアプローチ
・豊岡市、関係機関等との効果的な連携による個別の長期、短期の支援計画の作成、支援をする。
・ドーナツの会の支援体制をさらなる強化する。
・広範な市内をカバーするために出石、日高地区等に新たな支援拠点の整備を検討する。
◇就労移行支援事業所「ドーナツワークスステップ」を新設する。
・ドーナツワークス利用者等への一般就労をサポートする体制の充実を図る。
◇グループホームを開設する。
・利用者の生活自立を支援するためのサテライト型等の設置を検討する。

特定非営利活動法人あすてる

【所在地】　兵庫県三木市　　【対象者】　精神障がい者

【日常の活動】
◎地域活動支援事業(障がい者地域活動支援センター「みにょんち」の運営
◎精神障害者、その家族等と地域住民との交流事業として「ふれあい喫茶」等の運営、または地域イベントへの参加
◎社会的偏見を払拭する為の広報活動事業
◎地域において今なお誰にも相談できず、家族のみで苦しんでおられる当事者及びご家族の為の「ピアサポート相談会」の開催。
◎一人で外出・通所・通院が難しい精神障がい者等の為の、車による送迎サービス事業
◎精神障がい者等の地域における就労支援を進める為の就労体験・支援事業
◎地域貢献事業として地域住民の為の研修講座の開催、または草引きなどのボランティア活動

「施設の老朽化対策事業」

【助成額】　58 万円

実施目的

障がい者通所施設としてふさわしい施設環境を整備する為

実施内容

施設の老朽化対策としての屋根・壁改修工事を実施。

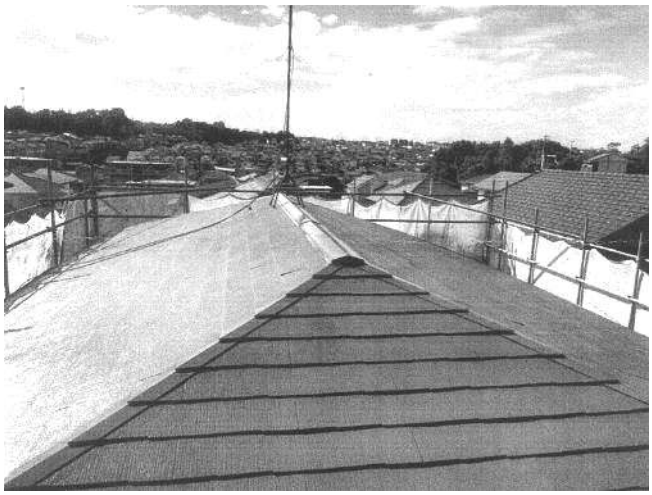
得られた効果

今回助成金を活用し、障がい者通所施設にふさわしい施設環境整備をしたことで、今後も障がい者地域活動支援センターとしての目的である「居場所」としての機能を充実させることができ、利用者の地域生活をさらに支援していく事が可能となりました。

今後の課題

当法人は中古物件を施設として利用している関係上、施設のいたるところで老朽化部分が多く、これらの経年劣化を放置したままであれば、施設として機能不全に陥る状況下にあります。
しかしながら、障がい者通所施設にふさわしい施設環境整備費などは市町村等からの補助もなく、これらの費用捻出に頭を痛めております。

これらの費用は会費等から当然賄うべきですが、会費収入は今も少額であり、財政上施設整備の点において未だ改善できていない箇所が多々ありことが、当法人の現時点における最も大きな課題です。
特に、施設老朽化に伴うバスルーム・脱衣所や給湯設備等の入替・修繕、利用者駐車場の整備などが未だ当法人が直面する課題であると認識しております。



社会福祉法人慈風会

http://www.jifu-kai.or.jp/

【所在地】　岡山県津山市　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、難病患者、高齢者

【日常の活動】

■障害者支援施設(1か所：定員80名)　■生活介護(1か所：定員15名)　■短期入所事業所(1か所：定員3名)
■特定相談支援事業所(1か所)　■日中一時支援事業特別養護老人ホーム(1か所：定員60名)
■短期入所事業所(1か所:定員10名)　■地域密着型特別養護老人ホーム(1か所：定員20名)
■グループホーム(1か所：定員9名)　■通所介護(1か所:定員35名)　■居宅介護支援事業所(1か所)
■小規模多機能事業所(委託事業：定員29名)

「空調設備の更新工事」

【助成額】　100 万円

実施目的

空調設備(エアコン)が老朽化により使用に支障をきたしているため、
設備更新により快適な環境を整えます。

実施内容

食堂に床置型エアコン(ダイキン SZRV160BF)2 台を更新設置しました。

得られた効果

快適な環境で、食事や休憩ができるようになりました。
また、電気代の削減を図ることができ、他の設備の更新に財源を充てることができます。

今後の課題

定員 80 名に対して 60 名の入所状況であり、今後、入所利用者の増員を図り、収入財源を確保していく必要があります。
また、空調設備をはじめ、他の設備・器具も多年経過による老朽化が進んでおり、厳しい経営状況の中ですが、更新を順次行う必要があります。

社会福祉法人笠岡市社会福祉事業会

http://www.kcv.ne.jp/~kasagaku/

【所在地】　岡山県笠岡市　　【対象者】　知的障がい者

【日常の活動】

成人の障害者支援施設（入所）、家族のレスパイトや突発的なことにより支援が必要な時に利用する短期入所、自立に向けて作業に取り組む就労継続支援Ｂ型，就労移行支援事業，自立して地域生活を送っている利用者の支援をする指定共同生活援助事業所，幼児施設では，就学前の発達に課題のある子供に対する療育，児童発達支援事業所（３事業所）その他，障害者・児の一般相談や計画相談の窓口としてかさおか発達・生活サポートセンター，新川保育所を運営している。

公開講座：井笠圏域の保育士，幼稚園教諭を対象とした研修
　　一般市民を対象とした発達障害児の理解のための研修
　　笠岡市新規採用職員研修

世代間交流事業（地域の高齢者や老人施設の利用者との交流）、地域貢献活動

「食堂手洗場の改修工事」

【助成額】　　86 万円

実施目的

感染症対策として手洗い励行のため

実施内容

入所者及び多機能事業所利用者の食事場所である、食堂の手洗場を改修し、お湯で手洗いが出来るようにする。既存の手洗いを撤去し、新たに車いす対応の手洗場を設置し、各水洗から、お湯が出るように電気温水器を設置した。

得られた効果

今までは、貯水タンクを経由した水道水での手洗であったため冬場は、冷水となり手洗いをしたくない利用者が多数いたが、改修後は、お湯で手洗いが出来るため、嫌がることなく手洗いをする事が出来るようになった。これにより、新型コロナウイルスを始めとした各種感染症対策及び衛生環境の向上が出来た。

今後の課題

当施設を利用している障がい者もだんたんど高齢化すると共に、障がいの内容も変化してきている。
今後も引き続き、時代に即した施設となるよう、設備の改修を進めたい。

特定非営利活動法人ｎｅｓｔ

https://www.nponest.org

【所在地】　福岡県北九州市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

「原町STATION」

共同生活援助(グループホーム)：定員28名/利用者25名/グループホーム8ヶ所/サテライト型5ヶ所

「nestワークSTATION」

就労継続支援Ｂ型/定員20名/平均利用14名：「木町家」カフェレストラン/「制作部」デザイン等制作

「nestぎゃらりぃゆう」就労継続支援Ｂ型：定員20名/平均利用14名：アートフラワー等の製造・販売

「お弁当製造のための厨房設備の改修工事」

【助成額】　100 万円

実施目的

地域で暮らす高齢者にむけて配食活動を新たに行うこととなり、厨房設備等を改修して、レイアウトを変更し、配食サービスを効率的に提供できるようにすると同時に、調理、厨房機器を整備して、衛生環境を整える。

実施内容

調理室の改修：厨房、通路及び畳床の張り替え
設備工事　　：給排水、電気及びガス工事
設備機器整備：冷蔵庫、炊飯器、作業台等の購入
使用用途　　：弁当配食に必要な設備及び機器
実施期間　　：改修工事、機器購入は、4 月中

得られた効果

弁当配食をスムーズに効率的に行うことができる。
調理環境を衛生的に行うことができ、安全安心である。

今後の課題

資金　　：社会の課題に主体的に取り組む為の活動資金が不足している
後継者　：法人立ち上げの代表者の後を担う者及びそれを支える者が不透明
人材育成：高齢者・障害者を支援するために適切な職種の人材が必要
場所　　：一軒家での事業展開をしているが、手狭になり、自主事業実施が困難になっている
スタッフ：恒常的に職員が不足し、障害福祉サービス事業の拡大が見込めない。
支援事業：法人独自の支援事業においてもボランティアのスタッフが不足している

特定非営利活動法人あかりプロジェクト

【所在地】　石川県金沢市　　【対象者】　精神障がい者

【日常の活動】
摂食障害などの女性を対象にした就労B型及び生活訓練の多機能事業所を2021年5月開設に向けて準備中
●就労B型部分：安心できる居場所や職場を求めている方向け。『からこcoffee』の製作販売
●生活訓練部分：アルバイトや家事などの役割を持ちながら、楽な生き方を模索をしたい人向けに、
・エンパワメントのためのワークショップ7種のファシリテーションを習得する『ピア支援員研修』
・共通の生きづらさを抱えた人同士のセルフヘルプグループ
・ピアスタッフとの面談（訪問含む）を実施

「新規事業所「からこ舎(仮)」の開設」

【助成額】　100 万円

実施目的

主に摂食障がい者を対象とした、対人ストレスや自己肯定感の低さへの配慮が行き届いた新規事業所の開設と運営の安定化

実施内容

からこ舎（生活訓練・就労継続支援 B 型多機能事業所）の開設
◆認可日　2021 年 5 月 1 日
◆開所日　2021 年 5 月 1 日
◆定員数　20 名
◆登録者数　15 名
◆平均利用者数　1 日平均 5.5 人
◆作業内容
就労継続支援 B 型部分：安心できる居場所や症状を持ちつつも無理なく働ける場を求めている方向け
・自分たちでコーヒー商品を開発・販売する「からこ coffee」活動
焙煎/パッケージ印刷/パッケージング/営業活動/配達・郵送作業/広告宣伝/新商品の開発など一連の作業について、それぞれの得意分野を活かしながら進めている。就労を通して、仲間や支援員、お客様との人間関係において露呈してくるであろう対人課題をひとつひとつ解決し、対人関係への自信を積み重ね、また、人の役に立つ実感を得ていくことで自己肯定感の向上を目指していく。

生活訓練部分：アルバイトや学業、家事などの役割を持ちながら、生きづらさから楽になる模索をしたい人向け
・エンパワメントのためのワークショップ 7 種類のファシリテーションを習得する「ピア支援員研修」
7 つのエンパワメントワーク（自己一致について/感情とニーズのワーク/自己肯定感とＨＳＰについ

て/文化人類学的視点から「ふつうに食べる」を考察するワーク/インナーチャイルドセラピー/バウンダリーワーク/アサーティブトレーニング）を自ら実施できるようになるまで、入門編から上級編まで約 100 時間の研修プログラム

・共通の生きづらさを抱えた人同士のセルフヘルプグループ

・ピアスタッフとの面談（訪問含む）

これらのプログラムを通して、様々なエンパワメントのための概念や知恵を習得し、さらにそのスキルを仲間のために活かす事で人の役に立てる実感を積み重ね、ひいては自己肯定感の向上をめざしていく。

得られた効果

5/1 の開所時にはすでに繋がっていた摂食障害を抱える方々が 8 名登録してくださった。それ以降、これまでに 20 名強の方々が見学に来られ、徐々に登録者数が増え、現在は 15 名である。見学者の内、摂食障害の方は 2 割ほどで、あとは他の精神疾患を抱える女性たちであったが、蓋を開けてみると自己肯定感の低さや過度な対人緊張といった傾向は他の精神疾患を抱える女性にも共通する事が多い事がわかってきた、調子の波を持つ方々が多く、1 日の平均利用者数は 5.5 名で、損益分岐である 8 名にはまだ届いていない状況で、さらに初年度は工事費や賃貸契約の初期費用や備品費など出費もかさんだため、貴財団からの家賃補助は物理的にも精神的にも大変大きな支えとなった。今後も珈琲販売や各種研修を通して広く必要としている方々と繋がっていき、運営の安定化、ひいてはノウハウ移転をめざしていきたい。

今後の課題

まずは事業所の運営安定化が課題である。利用下さる方々の調子の波やペースを尊重することと損益分岐の通所人数確保を両立させるためには、登録者数を増やしていく事が必要で、来年度は下記のことを取り組んでみたい。

〇珈琲収益の増大と工賃アップ（現在 1 人あたり 20,000 円/月→目標 30,000 円/月）

・からこ舎でのカフェ営業日を増やす（現在は月に 1 回→目標月に 2～3 回）

・外回りや展示会参加などにより豆を扱って下さる飲食店などの開拓

〇病院や相談支援事業所など関連機関の継続的な外回り

2021 年度
選 考 委 員

選考委員長

中田　智恵海

特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター　代表

髙橋　守雄

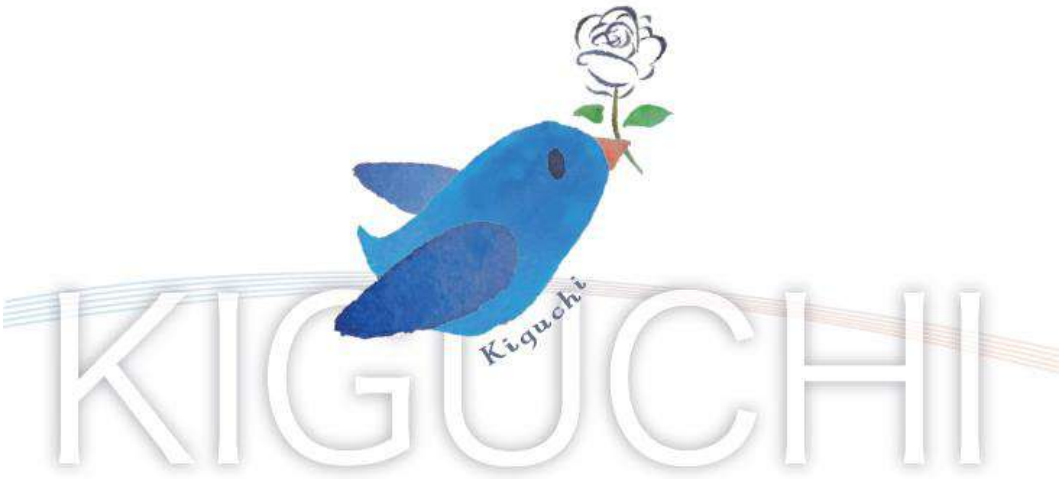
ひょうごボランタリープラザ所長

福田　好宏

元 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 理事長･会長

松端　信茂

一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会 会長



公益財団法人木口福祉財団
〒659-0051　兵庫県芦屋市呉川町14番10号
TEL 0797-21-5150　　FAX 0797-35-4500
e-mail josei@kiguchi.or.jp　URL http://www.kiguchi.or.jp

2023年1月発行